

# 日露経済協力・人的交流に資する 人材育成プラットフォーム(HaRP)

Human Resource Development Platform for Japan-  
Russia Economic Cooperation and Personnel Exchange

Платформа подготовки кадров для японо-  
российского экономического сотрудничества и  
гуманитарных обменов

## **ANNUAL REPORT 2021**

(April 2021 - March 2022)



# ご挨拶

本事業「日露経済協力・人材交流に資する人材育成プラットフォーム(HaRP)」は、北海道大学と新潟大学が平成29年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～(タイプB:プラットフォーム構築プログラム)」に共同申請し、採択されてスタートしましたが、令和3年度末をもって補助事業期間の4年半が終了いたします。

今年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受けたことから、日露協会加盟校をはじめ、関係者の皆様におかれましては、これまでに培ったオンライン等のノウハウを駆使し、日露の人材育成・人的交流を推進してこられたことと存じます。

そのような状況の中、今年度の主な行事として、次の4つをいずれもオンラインで開催しました。第1に、新潟大学の主催により、第3回日露大学協会総会を開催し、日本側29大学、ロシア側26大学から140名が参加しました。本総会において、新たに日本側3大学、ロシア側6大学が日露大学協会に加盟したことから、日本側30大学、ロシア側33大学、計63大学となり、参画大学が協会発足当初の42大学から大幅に増加しました。

また、第2・3として、総会と同時期に、日露学生フォーラム及び日露学術フォーラムが行われました。2日間にわたって開催された日露学生フォーラムでは、128名の日露の学生がそれぞれの専門分野に分かれて交流を深め、オンラインでの開催にも関わらず、学生同士が積極的に交流する姿が印象的でした。学術フォーラムでは、専門セクションにおける医療・健康及びSDGsの2つの分野で計5つのイベントを開催し、計250名の大学教員・研究者・学生が参加しました。

第4に、4年半のHaRPの活動を総括する日本側関係者向けの報告会を開催しました。これには、大学関係者ばかりでなく、産業界、官公庁・自治体からも多くの方々にご参加いただきました。

これらの活動を通じ、HaRPの事業全体が人材育成・人的交流に関する日露の大学間連携の拡充ばかりでなく、産官学連携の進展にもつながったことを実感し、嬉しく存じました。

さらに、日露人材交流委員会においては、委員会発足時から目標としてきた日露大学間の共同教育プログラム構築のためのガイドブックが完成いたしました。本ガイドブック作成につきましては、同委員会参画者の皆様に多大なるご協力をいただきましたことに感謝いたしますとともに、今後もロシアとの共同教育プログラムの構築に際して多くの日本側大学に利用していただくことを期待するものです。

最後となりましたが、このレポートの完成直前に、ロシアによるウクライナ侵攻という想定外の事態が発生し、これまでのような日露交流を実施することは困難な状況になりました。HaRP事業を推進してきた我々としては、大変遺憾に思います。一刻も早く事態が収まり、本事業が築いたプラットフォームが、再び日露の人材育成・人的交流の一助を担う日が来ることを願うばかりです。これまでのHaRP事業に対する皆様のご協力、ご支援に改めて感謝申し上げます。



# 目次

1. 2021年度の活動一覧表	P6
2. 日露大学協会	P7
3. 日露学術フォーラム	P11
4. 日露人材交流委員会	P14
5. 専門セクション	P20
6. 日露学生連盟	P54
7. 大学の世界展開力強化事業(ロシア)事業総括報告会	P62

## HaRP事業 5年間の活動にかかる資料

【資料1】 HaRP事業5年間の活動一覧表	P68
【資料2】 HaRP事業5年間における推移	P70

## 付録

【付録1】 日露学生フォーラムアンケート結果	P80
【付録2】 大学の世界展開力強化事業(ロシア)事業総括報告会発表資料	P86

The logo for HaRP, with 'Ha' in red, 'R' in black, and 'P' in blue.

## 1

## HaRP 2021年度の活動内容

2021年5月	円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」を開催 (サンクトペテルブルク国立大学主催、HaRP事業、日露大学協会共催)
5月	「日ロ極東医療協力フォーラム:日ロ間の医療ネットワーク構築に向けて」への参加 (一社ロシアNIS貿易会主催)新潟大学が日露の医学医療関連事業について発表
6月	オンラインワークショップ 「Multilevel Governance and Interregional Cooperation:vol.2-The Barents Region」を開催 (HaRP事業、北極域研究加速プロジェクト(ArCSII)共同開催)
6月	Japan-Russia Online Symposium on Medical Educationを開催 (新潟大学、モスクワ国立大学主催)
6月	第7回日露人材交流委員会を開催
9月	第8回日露人材交流委員会を開催
9月	【日露学術フォーラム】 日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」を開催
9月	【日露学術フォーラム】 オンラインセミナー「日露高等教育における先住民族の言語と文化」を開催
9月	【日露学術フォーラム】 オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」を開催
9月	【日露学術フォーラム】 オンラインセミナー「子供の健康と成長」を開催
9月	【日露学術フォーラム】 オンラインセミナー「医学教育」を開催
9月	第3回日露大学協会総会を開催
9月	第3回日露学生フォーラムを開催
10月	国際オンラインセミナー 「ロシア極東とアジア側の北極の発展に向けたアジア太平洋地域における越境地域間協力」を開催
10月	オンライン会議「バイリンガルの子どものための教育システム形成と教材作成」を開催
12月	オンラインワークショップ 「太平洋北極圏における持続可能なクルーズ産業の発展:過去の発展と将来の展望」を開催
12月	モスクワ国立大学主催ウェビナー 「北極圏の自然システム:北極圏の変化の最先端を研究する」を開催
2月	大学の世界展開力強化事業(ロシア)事業総括報告会の開催
3月	第9回日露人材交流委員会を開催

## 2

## 日露大学協会

日本とロシアの高等教育機関における大学間交流の推進、学生交流の増加などを目的とした、日露の大学による組織です。日露それぞれ21大学(計42大学)の参画の下に設立が合意され、2022年3月現在で、日本側30大学、ロシア側33大学、計63大学が参画しています。

	日本側加盟大学		ロシア側加盟大学
1	北海道大学	1	モスクワ国立大学
2	東北大学	2	アルタイ国立大学
3	筑波大学	3	アストラハン国立大学
4	千葉大学	4	ベルゴロド国立大学
5	東京外国語大学	5	ヴォルゴグラード国立大学
6	東京工業大学	6	ヴォロネジ国立大学
7	新潟大学	7	極東連邦大学
8	信州大学	8	ロシア外務省付属外交アカデミー
9	金沢大学	9	カラシニコフ記念イジェフスク国立工科大学
10	名古屋大学	10	イルクーツク国立大学
11	神戸大学	11	カバルダ・バルカル国立大学
12	鳥取大学	12	カザン連邦大学
13	広島大学	13	クラスノヤルスク国立医科大学
14	山口大学	14	クバン国立工科大学
15	長崎大学	15	モスクワ市立大学
16	大分大学	16	モスクワ国立国際関係大学
17	福島県立医科大学	17	モスクワ国立言語大学
18	神戸市外国語大学	18	ロバチェフスキー記念ニジニーノヴゴロド国立大学
19	白鷗大学	19	ノヴォシビルスク国立大学
20	東海大学	20	セチェノフ第一モスクワ国立医科大学
21	上智大学	21	グブキン記念ロシア国立石油ガス大学
22	創価大学	22	ロシア新大学
23	東京農業大学	23	リャザン国立大学
24	早稲田大学	24	サンクトペテルブルク国立建築土木大学
25	名古屋外国語大学	25	サラトフ国立大学
26	南山大学	26	サハリン国立大学
27	京都外国語大学	27	北東連邦大学
28	近畿大学	28	北方(北極圏)連邦大学
29	神戸学院大学	29	北西国立医科大学
30	日本経済大学	30	太平洋国立医科大学
		31	太平洋国立大学
		32	南ウラル国立大学
		33	南方連邦大学

(順不同)(2022年3月)

### 第3回 日露大学協会総会(日露学長会議)

---

9月16日(木)に「第3回日露大学協会総会(第9回日露学長会議)(以下、「総会」)」がオンラインで開催されました。今回の総会は新潟大学がホストとなり、日本側29大学、ロシア側26大学から、140名が参加しました。また、本総会開催にあたって、日本側3大学(日本経済大学、名古屋外国語大学、鳥取大学)、ロシア側6大学(北西国立医科大学、ヴォルゴグラード国立大学、モスクワ国立言語大学、モスクワ市立大学、アストラハン国立大学、サンクトペテルブルク国立建築土木大学)が新たに日露大学協会に加盟し、加盟校は日本側30大学、ロシア側33大学、計63大学となりました。

総会では、新潟大学 牛木 辰男 学長、モスクワ国立大学 ヴィクトル・サドーヴニチィ学長の開会挨拶の後、文部科学省丸山洋司文部科学審議官、ロシア科学・高等教育省ナタリア・ポチャロワ副大臣、上月 豊久 駐ロシア日本国特命全権大使及びミハエル・ガルージン駐日ロシア連邦特命全権大使から来賓挨拶があり、続いて北海道大学の寶金総長とモスクワ国立大学のサドーヴニチィ学長が日露大学協会の活動状況などについて基調講演を行いました。学長からの事例報告・討議では、6大学(東海大学、東京外国語大学、金沢大学、太平洋国立大学、北方(北極圏)連邦大学、イルクーツク国立大学)から、学生交流と専門人材育成についての取り組みが紹介され、その後、学長間で意見が交わされました。総会の後半では、同一週に開催されたサイドイベントである日露学生フォーラム及び日露学術フォーラムの成果報告が行われました。会議の最後に採択されたコミュニケでは、学生や若手研究者の交流促進、社会的要求や世界的課題に対応する科学技術やイノベーションを推進するため、異分野融合研究や産学連携を強化すること、日露の友好関係、交流活動の進展に向け、今後も一層の努力を続けることが関係者間で合意され、寶金総長、モスクワ国立大学サドーヴニチィ学長及び新潟大学牛木学長の3者により、コミュニケへの署名が行われました。なお、次回の総会は2023年にモスクワで開催される予定です。



進行役を務める新潟大学 牛木学長と参加者



サドーヴニチモスクワ国立大学学長と上月駐ロシア日本国特命全権大使



基調講演を行う寶金北海道大学総長



コミュニケの採択

(左上より):寶金北海道大学総長、サドーヴニチモスクワ国立大学学長、牛木新潟大学学長)

## 総会開催概要

開催日	2021年9月16日(木)16:00-19:00
開催形態	オンライン(Zoom)
参加機関	日露大学協会加盟校および加盟予定校 (日本側29大学、ロシア側26大学より140名)
テーマ	日露経済協力を資する人材育成の推進
言語	日本語・ロシア語(同時通訳あり)※発表スライドの表示言語は英語

時間	プログラム
16:00-16:10	開会挨拶 ①新潟大学 牛木辰男 学長 ②モスクワ国立大学 Victor Sadvnichiy 学長
16:10-16:30	来賓挨拶 ①文部科学省文部科学審議官 丸山洋司 様 ②ロシア科学・高等教育省副大臣 Natalia Bocharova様 ③駐ロシア日本国特命全権大使 上月豊久 様 ④駐日ロシア連邦特命全権大使 Mikhail Galuzin様
16:30-16:35	新規協会加盟校の紹介
16:35-16:55	基調講演① 北海道大学 寶金清博 総長
16:55-17:15	基調講演② モスクワ国立大学 Victor Sadvnichiy 学長
17:15-18:15	学長からの事例報告・討議等 ・テーマ 「学生交流と専門人材育成」 ・モデレーター 新潟大学牛木学長、モスクワ国立大学Sadvnichiy学長 ①事例報告 ・東海大学 山田清志学長 ・太平洋国立大学 Sergei Ivanchenko学長 ・東京外国語大学 松隈潤 副学長 ・北方(北極圏)連邦大学 Elena Kudryachova学長 ・金沢大学 田中茂雄副学長 ・イルクーツク国立大学 Alexander Shmidt学長 ②質疑応答
18:15-18:25	休憩
18:25-18:35	日露学生フォーラムの成果発表
18:35-18:50	日露学術フォーラムの成果発表
18:50-18:55	コミュニケ採択
18:55-19:00	閉会挨拶 モスクワ国立大学 Victor Sadvnichiy 学長

### 3

## 日露学術フォーラム

日露学術フォーラムは、当初、人文社会科学分野の学術交流推進を深めることを目的とし、「人社フォーラム」として開催されていましたが、2019年より、理系分野も含めた研究交流を行うこととし、名称を「学術フォーラム」と変更して開催しています。

今回は、2021年9月14日(火)～15日(水)に、SDGs及び医学教育の2つの分野で計5つの日露学術フォーラムが開催されました。

### 【SDGs分野】

9月14日に開催した、日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」では、7カ国より研究者や官公庁等の実務者約100名が参加し、ロシアにおける環境意識の向上と、北極圏の脆弱な環境のモニタリングと保護に貢献している地元の人々や組織の活動について、議論が交わされました。さらに、発表者は、環境と先住民の伝統的な生活様式とのつながりを明確にするとともに、環境立法と先住民の権利の保障がどのように連動してきたのかに着目しました。後半の発表では、地域経済と都市づくりのさまざまなモデル、世界的な脱炭素化に向けた取り組みが北極圏の持続可能な開発に与える影響や、地球温暖化が北極圏における国際関係に与える影響等を論じました。今後も、このようなセミナーの実施により、持続可能な開発や北極圏の環境保護について、マルチレベルガバナンス、国境を越えた協力に向け取り組んでいく予定です。

続いて、9月15日には3つのフォーラムを開催しました。オンラインセミナー「日露高等教育における先住民族の言語と文化」では、先住民族の文化振興とSDGsの達成に向けた先住民族との連携をさらに強化することを目的として実施しました。本セミナーには、10カ国より約50名が参加しました。このセミナーでは、日露の大学における言語学・民族学研究の歴史と現状、少数民族言語・文化の教育・研究支援体制の歴史と現状についての発表が行われました。発表を行った研究者は、先住民や少数民族自身が自らの母語や文化の研究・教育に関わることの重要性を確認しました。先住民族・少数民族ではない研究者と、先住民族・少数民族の個人やコミュニティとの協働に向け、国境を越えた協力体制を構築するための対話を継続して実施する予定です。

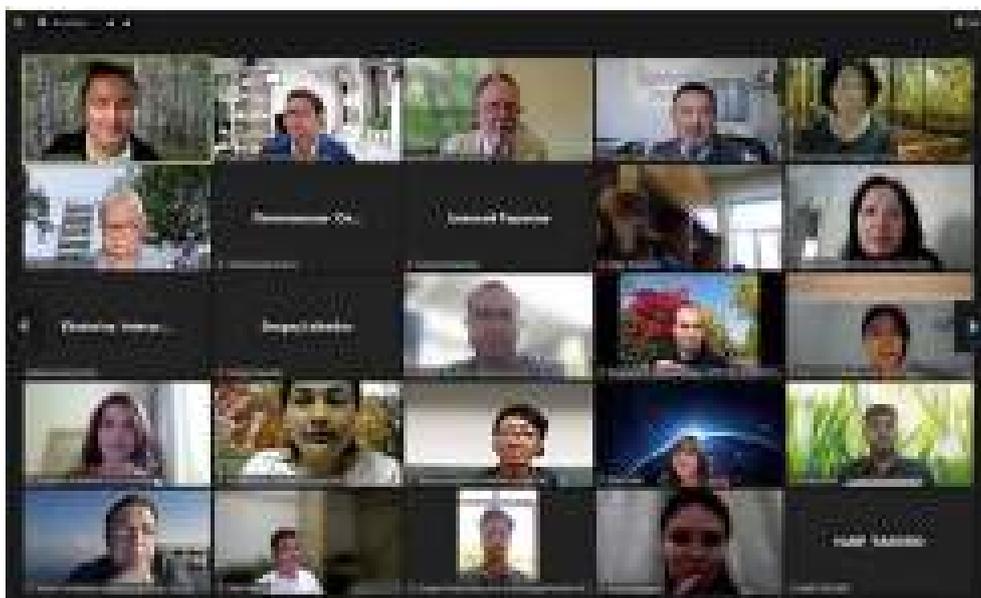
オンラインセミナー「子どもの健康と成長」では、日露より30名が参加し、SDGs目標3に掲げられている「すべての人に健康と福祉を」の実現に向けて、特にロシアと日本の次世代の子どもたちの成長、栄養、健康に焦点を当て、より良い健康的な生活へと移行していくためのライフ

スタイルについて議論しました。この実現に向けて、身長や体重、肥満や痩せを評価するのみならず、社会や文化、身体観も含めて包括的に子どもの健康を考えてくことが重要であるという結論に至りました。また、今後も日露の大学が緊密に連携していくことを確認しました。

日露オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」では、SDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」と15「陸の豊かさを守ろう」を念頭に置き、北方圏の生態系のリモートセンシングによるモニタリングより、持続可能な森林管理のためのエビデンスベースの解決策をいかに導きだすかを議論しました。このセミナーには、9カ国から60名以上の大学教員・学生等が参加しました。このセッションでは、日本・ロシア・イギリスの研究者が発表を行い、北方圏の生態系のモニタリングの精度向上に求められる、長期的なフィールド観測データと地理空間データ、特にリモートセンシングによるデータの重要性が論じられました。また、高度なマルチセンサーデータ、機械学習や「ディープラーニング」等を用いることで、近い将来、新しい発見をもたらすことも示され、今後、日本・ロシア・イギリス間の新たな研究連携が期待されます。



オンラインセミナー「日露高等教育における先住民族の言語と文化」



オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」



日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」

### 【医学教育分野】

9月15日に「医学教育」をテーマに新潟大学主催によりフォーラムが開催されました。

フォーラムでは、新潟大学染矢俊幸医学部長らによる開会挨拶の後、新潟大学牛木辰男学長と新潟県労働衛生医学協会成澤林太郎医師らによる日露医学交流のこれまでの歩みについて基調講演が行われました。その後、「学部教育と国際交流」「大学院教育と研究」のテーマ別に日露計11名の研究者から国際教育の最新事例や最先端の研究成果の報告が行われました。

- Japan-Russia Scientific Forum on Medical Education

概要：<https://www.niigata-u.ac.jp/en/information/8448/>

## 4

# 日露人材交流委員会

プラットフォームには、二つの委員会を置いており、その内の一つが人材交流委員会です。人材交流委員会は、以下の三つの目的のために設置されました。

- 日露大学間の交流の拡大と発展に資する人材育成のための学生交流の支援
- 日露大学間の単位互換及び学位認定などの教育制度の調整に係る検討
- 日露大学協会と連携した日露大学間の交流の促進

以上の三つの目的の実現のために、委員会は以下の活動に取り組んでまいりました。

1. 日露間の学生交流にかかる「優れた取り組み(Good Practice)」の共有と発信
2. 大学院レベル等での共同教育プログラムの推進
3. 大学間の単位認定及び学位授与制度の比較検討
4. 日露学生連盟に対する支援

本委員会は、これまで、日露大学間における単位互換や共同教育プログラムの構築における好事例等について情報共有を推進するとともに、これらに関する現状や課題についてアンケート調査を行い、日露大学間の学生交流を推進する上での課題等の洗い出しを行ってきました。

また、今年度は、昨年度アルタイ国立大学に委託して実施したロシアの大学教育制度(特に、ネットワーク型教育プログラムをはじめとする共同教育や単位互換に関連する部分)についての調査結果について、和訳して情報共有し、これに基づいた交流プログラムの構築等について議論を深めました。

これらをまとめて、日露大学間の共同教育プログラム構築についてのガイドブックを作成することを今年度末までの目標として、委員会を3回開催し(このうち1回はロシア側から20大学が参加)、議論を重ねてきました。これらの経緯を経て、日露大学間における共同教育プログラム構築のためのガイドブックを取りまとめました。

人材交流委員会の委員および今年度の会議の概要については、P15～P19をご参照ください。

## 人材交流委員会委員(日本の大学)

NO.	大学名(和文)	参画形態	所属(和文)	役職(和文)	氏名(和文)	備考
1	◎北海道大学	幹事委員	アイヌ・先住民 研究センター	教授	加藤 博文	
2	新潟大学		国際連携推進本部	准教授	山川 詩保子	
3	筑波大学		人文社会系	教授	加藤 百合	
4	金沢大学		理工研究 域数物科学系	教授	松本 宏一	
5	長崎大学		医歯薬学総合研究科	教授	高村 昇	
6	東海大学		国際教育センター、 工学部	国際教育センター所長、 工学部教授	山本 佳男	
7	京都外国語大学		外国語学部 ロシア語学科	教授	菱川 邦俊	
8	東北大学	委員	大学院文学研究科	教授(副研究科長・ 国際交流室長)	阿部 恒之	
9	千葉大学		大学院園芸学研究科	教授	高垣 美智子	
10	東京外国語大学		大学院総合国際学 研究院	教授	沼野 恭子	
11	東京工業大学		生命理工学院	教授	梶原 将	
12	広島大学		—	副学長(国際グロー バル化推進担当)	金子 慎治	
13	神戸市外国語大学		外国語学部 ロシア語学科	教授	金子 百合子	
14	上智大学		—	グローバル化 推進担当副学長	森下 哲朗	
15	創価大学		グローバル・コア・ センター	副学長	田中 亮平	
16	南山大学		—	副学長(国際担当)	星野 昌裕	
17	近畿大学		グローバルエデュケー ションセンター	特任講師	松下 聖	
18	神戸学院大学		国際協力センター	所長(教授)	岡部 芳彦	
19	福島県立医科大学		—	副学長	山下 俊一	長崎大学学長特別補佐を 兼任
20	東京農業大学		グローバル 連携センター	副センター長(教授)	中川 至純	

## 第7回 日露人材交流委員会

---

2021年6月30日(水)、第7回日露人材交流委員会がオンライン開催され、日本側大学の日露人材交流委員会幹事5名、委員8名及び事務担当者29名の計42名が参加しました。

今回の会議では、現在、当委員会で行っている日露大学間における単位互換に係るガイドラインの作成について、日露大学協会加盟校の1つであるアルタイ国立大学が調査を行った内容を踏まえ、ロシアの共同教育フォームである「ネットワーク型教育プログラム」等を書き加えたガイドライン案を提示しました。なお、ガイドラインについては、引き続き本委員会で議論を継続し、今年度末の完成を目指すこととしました。また、長引くコロナ禍におけるロシアとの学生交流についての情報交換を行うとともに、今後の日露交流について検討するため、次回の日露人材交流委員会では、ロシア側大学にも参加を呼びかけ実施することになりました。



## 第8回 日露人材交流委員会

2021年9月7日(火)、第8回日露人材交流委員会をオンラインにて開催しました。今回の委員会では、日本とロシアの大学間における、今後の共同教育についての検討が議題の一つとなっていたため、日本側の当委員会参画者のみならず、日本側の当委員会参画者が在籍する大学と積極的に共同教育に取り組んでいるロシア側大学にも参加を呼びかけ、日本側40名、ロシア側37名、総勢77名が参加し、活発な意見交換や議論をしました。

委員会のはじめには、当委員会委員長の北海道大学 加藤博文教授より、これまで7回開催した委員会の内容について報告があり、さらに現在、日本側の当委員会において作成している「日露大学間における単位互換についてのガイドライン」についての説明が行われ、当委員会におけるこれまでの、日露大学間での単位互換や共同教育プログラム構築を目指した活動について紹介されました。

その後、ロシアにおける共同教育プログラムの取組みや、日本側大学との共同教育プログラムの構築について、日露双方から具体的な事例紹介があり、プログラム実施のノウハウについて参加者と活発な質疑応答が行われました。また、今後の日露大学間の共同教育プログラムの構築についても有益な情報が多数寄せられ、日露双方からの参加者にとって、有意義な委員会となりました。



北海道大学 加藤教授より、これまでの委員会について報告の様子



参加者により活発な意見交換の様子

1	Far Eastern Federal University
2	Pacific National University
3	Irkutsk State University
4	M.K. Ammosov North-Eastern Federal University
5	Krasnoyarsk State Medical University
6	Saint Petersburg State University
7	Novosibirsk State University
8	Kazan Feral University
9	North-Western State medical University
10	Lomonosov Moscow State University
11	Far Eastern State Agrarian University
12	Primorskaya State Agricultural Academy
13	FSBEI HE Novosibirsk SAU
14	Novosibirsk State Agrarian University
15	State Agrarian University Novosibirsk
16	Sakhalin State University
17	National Research Nuclear University"MEPhI"
18	Ural Federal University
19	Peoples' Friendship University of Russia
20	Financial University under the Governmentof the Russian Federation

## 第9回 日露人材交流委員会

---

2022年3月11日(金)、第9回日露人材交流委員会をオンラインにて開催しました。今回の委員会では、本委員会の目標であった「日露大学間における共同教育プログラム構築のためのガイドブック」について、これまでの委員会で各委員から収集した情報やアンケート結果をもとに作成した最終案の確認を行いました。

また、本委員会委員長の北海道大学 加藤教授より、改めて、ガイドブックの概要の説明と内容の確認を行い、今後、補助事業期間終了となる3月末の完成を目指して作業を進めるとし、内容に対する意見や修正案などがあればHaRP事務局に連絡いただくこととし、同事務局にてとりまとめて完成させることとしました。

また、北海道大学より、HaRPの補助事業後についての機能について、今後も日露についての情報収集を行い、ウェブサイト等にて情報発信を続けていくとの説明があり、人材交流委員会は前述のガイドブック完成をもって、一旦活動を終了することとしました。

ガイドブック作成については、これまでの委員会やメール上でのアンケート収集などを通して、委員の皆様にも多くの情報提供と協力をしていただき多くのご協力を賜りました。この場をお借りして感謝申し上げます。



## 5

## 専門セクション

専門セクションは、2016年5月に日露首脳会談で合意された「ロシアの生活環境大国、産業・経済の革新のための協力プラン」(「8項目の協力プラン」)に沿って、日露の経済発展・交流促進に資する専門人材の育成を目的として、2018年5月開催の日露大学協会総会で設置が承認された組織です。昨年度までの追加・改編を経て、今年度も、(1)医療健康、(2)都市づくり、(3)中小企業交流、(4)SDGs:環境・資源開発・多文化教育、(5)産業多様化促進、(6)極東の産業振興、(7)先端技術協力、(8)言語・文化・観光、の8つのセクションで、単一のセクションを対象とした取組はもとより、セクション横断的な取組が活発に行われました。

このうち、HaRP事務局が主催・共催したセミナー等は、昨年度の8件を大幅に上回る13件となり、また延べ参加者数は日露合わせて1,100名を超えました(p75-77)。このほか、専門セクションの日本側参画大学(以下の27大学)においても、昨年度同様コロナ禍の影響を受けながらも、種々の取組が活発に行われました。特に、昨年度に引き続き、活動主体としては、日本の複数大学、産官学、または地域のコンソーシアムの連携による取組が多数見られるようになり、また内容としては、講義・セミナー、短期プログラムやインターンシップ等、多岐に亘る取組が主としてオンラインで実施される一方、ダブルディグリー・プログラムの実施合意書の締結など今後の交流促進に向けた基盤整備の取組も見られました(P21～P40参照)。

専門セクションの各セクションの活動のうち、主な活動についてP42～P53に詳細を報告します。

## 専門セクションへの参画状況

セクション名	参画大学(参画者の所属大学)
①医療健康	新潟大学(リーダー校)、北海道大学、筑波大学、金沢大学、長崎大学、東海大学、福島県立医科大学、鳥取大学
②都市づくり	北海道大学(リーダー校)、東京大学、新潟大学、長岡技術科学大学、札幌市立大学
③中小企業交流	北海道大学(リーダー校)、金沢大学、創価大学、大阪大学
④SDGs: 環境・資源開発・多文化教育	北海道大学(リーダー校)、東北大学、金沢大学、東海大学、神戸市外国語大学、室蘭工業大学
⑤産業多様化促進	北海道大学(リーダー校)、小樽商科大学、札幌大谷大学
⑥極東の産業振興	新潟大学(リーダー校)、北海道大学、千葉大学、金沢大学、小樽商科大学、大阪大学、東京農業大学
⑦先端技術協力	金沢大学(リーダー校)、北海道大学、東京工業大学、東海大学、近畿大学、室蘭工業大学、大阪大学
⑧言語・文化・観光	北海道大学(リーダー校)、東北大学、東京外国語大学、新潟大学、神戸市外国語大学、東海大学、上智大学、創価大学、神戸学院大学、小樽商科大学、大阪大学、札幌市立大学、札幌大学、公立はこだて未来大学



## 専門セッション活動報告② –医療・健康セッション–

### 「Japan-Russia Online Symposium on Medical Education」の開催

新潟大学は2021年6月21日(月)、ロシアのモスクワ国立大学と合同で「日露医学教育オンラインシンポジウム」を開催しました。医師養成に携わる教員や医科学者ら約50人が参加し、日露の特徴的な教育プログラムのほか、最新の研究成果などを紹介し合いました。

同シンポジウムは、9月に新潟大学が主催し、日露の医科学系研究者が集う「日露学術フォーラム」のプレイベントとして、企画されました。「日露学術フォーラム」は、新潟大学が9月に開催する「第3回日露大学協会総会」の関連イベントに位置付けられています。同総会は、日露の主要大学学長らが一堂に会し、両国の関係強化を図る国際的な行事として、定期的で開催されているもので、本年度はオンラインでの実施を予定しています。

今回のシンポジウムでは、日露双方から計7つの発表があり、日露の医学教育にかかわるユニークな取り組みや医学研究の最新事例が紹介されました。日本側からは、総合診療医養成プログラム(新潟大学)や、放射線被害に関する研究活動(福島県立医大)について、ロシア側からは、細胞の再生と老化(モスクワ国立大学)や医学分野における日露の連携状況(アルタイ国立医科大学)について、報告がありました。専門の異なる日露の研究者がオンラインで集まり、最新情報を持ち寄る貴重な機会となりました。

本シンポジウムの成果は、9月開催の「日露学術フォーラム(医学)」に持ち寄られます。同フォーラムでは、今回の成果を踏まえた上で、専門家による充実した議論が期待されます。



シンポジウムで講演する  
新潟大学・齋藤昭彦教授



開会の辞を述べる  
モスクワ国立大学・Tkachuk教授

## 専門セッション活動報告③ – 都市づくりセッション –

---

### オンラインサマースクール「Architecture of Eco-Tourism Complexes in the Arctic: Opening “Terra Incognita”」の開催

2021年7月5日～16日に北海道大学工学院と Санкт-Петербург国立土木建築大学 (SPbGASU) はサマースクール「Architecture of Eco-Tourism Complexes in the Arctic: Opening “Terra Incognita” (北極圏におけるエコツーリズム複合体の建築: オープニング『テラ・インコグニータ』)」をオンラインで共催しました。SPbGASUがホストとなり、北海道大学の学生はRJE3基礎科目「日露デザインスクール」としてそのオンラインコースを受講しました。

第1部は2日間の理論的講義、バーチャルツアーが含まれており、北極の自然、建築、その他の観光スポットのユニークなオブジェクトを素晴らしい写真と共に見ることができました。

講師は、北極の住宅および公共の建物の実験的かつ実施されたプロジェクト、北極建築の特殊性、北極のエコツーリズム複合体のシステムの開発の関連性についての講義をしました。

第2部は8日間の実践編でした。サマースクール講師の指導の下、参加者が環境にやさしい観光集合体と住宅観光モジュールの建築プロジェクトを開発し、建築環境を設計する3つのワークショップで構成されました。コースの最後に、学生は専門家が参加するラウンドテーブルで研究結果を発表しました。

詳細は両大学それぞれのHPで閲覧できます。

・SPbGASU (英語)

<https://x.gd/ucO6c>

・2021年度RJE3基礎科目「日露デザインスクール」の授業が始まりました。

<https://x.gd/L9jIh>

・2021年度RJE3基礎科目「日露デザインスクール」の授業が終了しました。

<https://x.gd/1yTmP>

## 専門セッション活動報告④ –中小企業セッション、先端技術協力セッション–

### 「オンラインによるアントレプレナー教育」の実施

2021年11月9,12,16日及び12月7,8,9日の計6日間に渡り、金沢大学はオンラインによるアントレプレナー教育として、授業とセミナーを行い、金沢大学理工学域の学生5名と、ロシア協定校(カザン連邦大学、イルクーツク国立大学、極東連邦大学)から48名、北陸先端科学技術大学院大学学生4名の計57名が参加しました。

本プログラムは、理工系学生が、特に日露関係をベースとした起業事例などを通じて、国際的な起業家となるための基礎を学ぶことを主目的とした、アントレプレナーシップ講義であり、講義では、日露をつなぐアントレプレナー(起業家)や、アントレプレナーシップ教育に特化した専門家らに講義ビデオの作成および、オンラインでのオフィスアワー提供を依頼しました。

プログラムの詳細は以下のとおりです。

#### 【スケジュール】

- ・10月上旬より順次ビデオ教材(30分程度、計8回)をアップロード。受講学生は期日までに視聴し、質問や感想をGoogle formより提出。
- ・11月上旬～12月上旬にかけて、あらかじめ提出された質問を基に各ビデオ教材の講師とオンラインディスカッションを実施(1時間程度、計8回)。ディスカッション後に講義の感想等をGoogle formより提出。
- ・12月末に最終レポート提出。
- ・所定の成績を修めた学生は、本学学生には単位を与え(1単位)、ロシア人学生には修了証を発行しました。

#### 【講義内容】

##### 第1回

Challenges and opportunities of UK-based health-tech start-up with Russian roots entering Japanese market in COVID-19 era Atlas Biomed社(アトラス日本合同会社)

Managing Director Daria Potapova氏

## 第2回

Story of an Entrepreneur -Story of a Japanese Entrepreneur in Russia-  
ROBBO社 創業チーム内プロデューサー Pavel Frolov氏

## 第3回

How to optimize costs and reduce the burn rate of tech startups  
Copter Express社 最高経営責任者Oleg Ponfilenok氏

## 第4回

Introduction to Estonia's success story in the field of IT and Start up  
エストニア・アントレプレナーシップ応用科学大学  
スタートアップ課程長 講師 Vanessa Vorteil氏

## 第5回

Leveraging user research to adopt your product to the Japanese market  
Algorithmics社 Managing director Pavel Shklyudov氏

## 第6回

留学生の僕が、日本で起業した理由とは？  
株式会社LikePay 代表取締役 ヴォロシオフ・イーゴリ氏

## 第7回

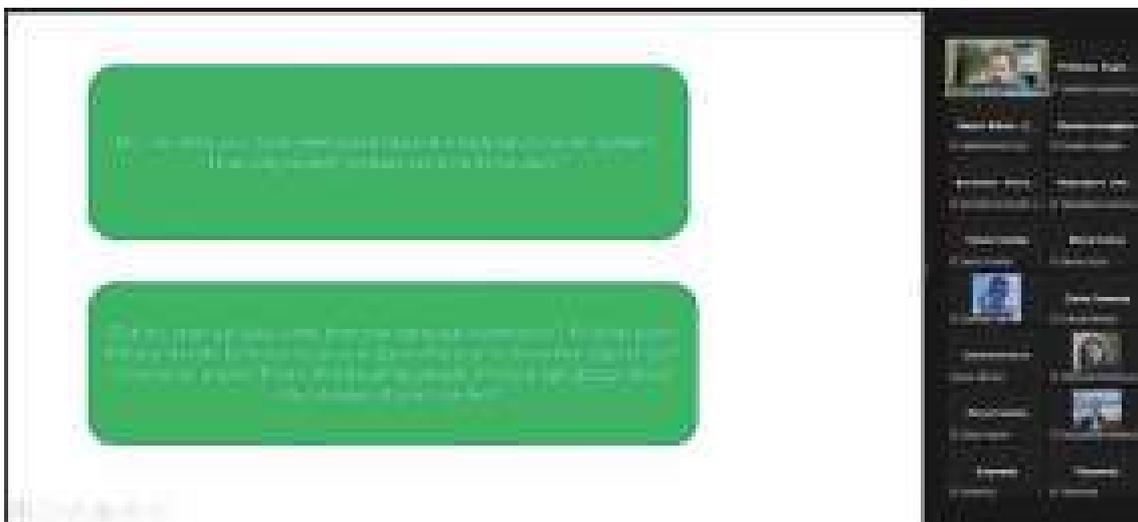
アントレプレナーストーリー ～日本人起業家とロシアの物語～  
株式会社TalentEx 代表取締役 越 陽二郎氏

## 第8回

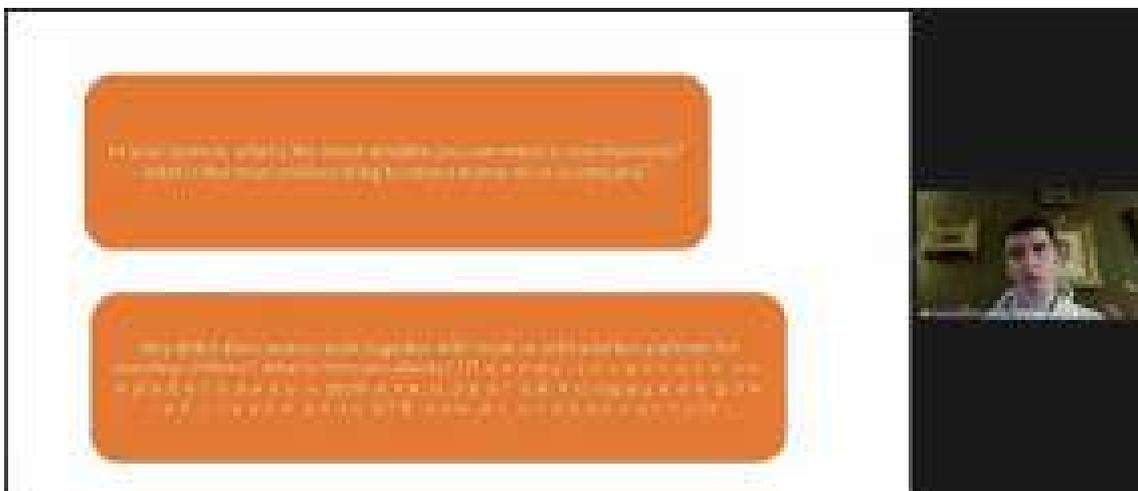
Labor market transformation: skills for the VUCA world  
Atlas of Emerging Jobs社 シニアエキスパート Dmitry Sudakov氏



オンラインディスカッションの様子(Lecture1)



オンラインディスカッションの様子(Lecture8)



オンラインディスカッションの様子(Lecture5)

本活動を通して、ビデオ講義とオンラインオフィスアワーを組み合わせることで、学生に対し、実際に起業した日露の講師らの豊富な実践経験や、起業家に求められる資質、マインド等を多角的に伝えることができました。これにより、参加学生は、未来の社会を創る主体としてアントレプレナーシップを身近に感じ、体得できたと考えられます。また、オンラインという、国内外の参加学生とともに学ぶ環境を通して日露間・産学間のつながりが生まれ、将来的に地域間企業連携の足掛かりとなることも期待されます。

また、ロシアはビジネス環境(マーケット等)に係る情報を得ることが難しい国であり、これが起業のハードルを高める要因となっていますが、今回の取り組みにより、学生・教員が、実際に起業した講師や、アントレプレナーシップ教育に特化した講師からの実体験に基づく質の高い情報を得られたことは、起業や日露間の産学連携への心理的抵抗を減じ、ひいてはこれらの促進につながっていくと考えられます。

また、他大学への波及効果として、本活動で作成したビデオ講義動画は、必要に応じて当該講義以外の場面でも使用できるよう、制作者と書面を取り交わしており、今回、参画しなかった大学や、これから国際アントレプレナー教育に注力しようとしている大学にも、参考資料として提供することができるものがあげられます。

### 日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」の開催

2021年9月14日、オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」を、持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指して日露間の学術協力の推進を図る日露学術フォーラムにおける4つのセッションの1つとして実施しました。本セミナーは、北海道大学北極域研究センター、HaRPの専門セッション「SDGs:環境・資源開発・多文化教育」、北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)国際政治課題「複雑化する北極域政治の総合的解明と日本の北極政策への貢献」サブグループ4「非国家主体とパラディプロマシー」、北極圏大学(UArctic)アジアにおける北極圏・北極圏におけるアジア分科会、モスクワ国立大学、日露大学協会による協力事業として実施されました。

本セミナーは2部制で実施されました。

第1部では、日露の研究者ならびにNGOの代表が発表2件と講評2件を行いました。(モスクワ国立大医学 Olga Tutubalina、WWFロシア Irina Onufrenya、ユカギール民族長老会議 議長・サハ共和国北方先住少数民族協会 副会長 Vyacheslav Shadrin、北海道大学 Jeffrey Gayman)

第2部では日本、ロシア、ノルウェーの大学の研究者が2件の発表と2件の講評を行いました。(モスクワ国立大学 Alexander Pilyasov、同 Nadezhda Zamyatina、北海道大学 田畑 伸一郎、ロシア国立研究大学高等経済学院 Ilya Stepanov、ノルウェー北極大学 バレンツ研究所 Aileen A. Espiritu)

第1部ではロシアにおける環境意識の向上と、北極圏の環境のモニタリングと保護を目的として地域住民や組織が実施する様々な具体的活動に焦点が当てられました。また、発表では先住民族の伝統的な生活様式と環境の関係性を強調するとともに、環境法規制と先住民族の権利保護がどのように連動してきたかを分析しました。

第2部では地域経済や都市づくりの様々なモデルを分析し、世界的な脱炭素化に向けた取り組みが北極圏の持続可能な開発に与える影響や、地球温暖化が北極圏における国際関係に及ぼす影響について議論しました。

本セミナーには、ロシア、日本、フィンランド、ノルウェー、カナダ、インドネシア、ブルガリアから総勢約110名が参加し、様々な大学、研究機関、NGO、国や地方の政府と関連機関、民間企業の代表者による発表や意見交換が行われました。セミナーの成果として、①北極圏の環境保護において非国家主体の果たす役割に関する議論、②持続可能で社会的・経済的な責任を

果たせる北極圏の開発に関する議論、③地域環境力において非国家主体の果たす役割に関する議論、という3つの目標に大いに貢献したと言えます。

なお、本セミナーは ArCS II と HaRP が共催する一連のセミナー(マルチレベルガバナンスと地域間協力)の一環として実施されました。

・ 第1回 オンラインセミナー:

マルチレベルガバナンスと地域間協力:Vol.1 – 北極および太平洋地域(2021年1月12日開催)

・ 第2回 オンラインセミナー:

北極圏と北方圏における日露の地域間協力 – 理論と実践 – (2021年3月3日開催)

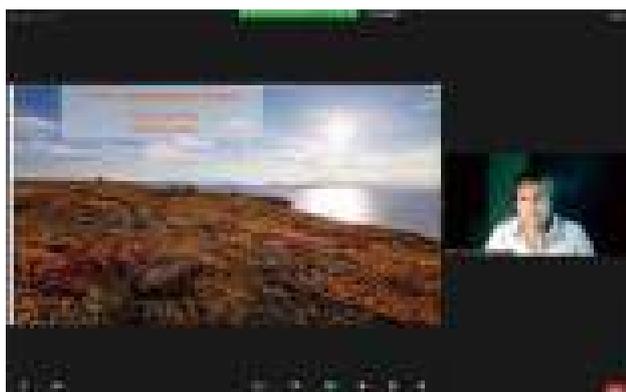
<https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/report/6031>

・ 第3回 オンラインセミナー:

マルチレベルガバナンスと地域間協力:Vol.2 – バレンツ地域(2021年6月9日開催)

<https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/report/6446>

また、本セミナーでは2019年と2020年に実施された「北方の持続可能な開発フォーラム (Cold Lands seminars / Northern Sustainable Development Forum)」で培ったネットワークや協力関係を活用しました。





## ● 当日動画 (YouTube)

9/14 日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」

[https://youtu.be/aiG\\_xojs7Ws](https://youtu.be/aiG_xojs7Ws)

## ● プログラム

当日のプログラム詳細は <https://x.gd/8zH14> をご覧ください。

## ● プレゼンテーション資料

Commentary-1-Irina-Onufrenya

(ダウンロード:<https://x.gd/EJvzO>)

Presentation 2 Vyacheslav Shadrin

(ダウンロード:<https://x.gd/uz0xZ>)

Commentary 2 Jeffrey Gayman

(ダウンロード:<https://x.gd/bewab>)

Presentation 3 Alexander Pilyasov and Nadezhda Zamyatina

(ダウンロード:<https://x.gd/BWzKj>)

Commentary 3 Shinichiro Tabata

(ダウンロード:<https://x.gd/Y0T3a>)

Presentation 4 Ilya Stepanov

(ダウンロード:<https://x.gd/hDfEJ>)

Commentary 4 Aileen A. Espiritu

(ダウンロード:<https://x.gd/XsyJD>)

### オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」の開催

#### セミナーの目的:

本セミナーの主たる目的は、マルチセンサー・リモートセンシングによる衛星データ (PALSAR、Sentinel-1、Sentinel-2、Landsat) を処理するアルゴリズムを開発し、北方地域の生態系をモニタリングすることです。北方地域の生態系は陸上の動植物の中で最大級であり、世界的な炭素の循環において大きな役割を果たしています。近年、北方地域の生態系における森林火災や傷んだ森林の崩壊が、二酸化炭素の排出量増加の原因となっています。マルチセンサー・リモートセンシングで収集されたデータからは生態系の変化に関する正確な情報が分かり、森林を持続的に管理できるようになります。本セミナーは、持続可能な森林管理を行うために、マルチセンサー・リモートセンシングで収集したデータを用いて根拠に基づく解決策を探る方法を議論することで、SDGs目標13「気候変動に具体的な対策を」ならびに目標15「陸の豊かさを守ろう」の実現への貢献が期待されます。

#### セミナーの概要:

日本、ロシア、英国からの登壇者ならびに8か国から64名が参加しました。セミナーでは、フィールドにおいて長期で観測したデータ、地理空間データ (特に北方地域の生態系をリモートセンシングで正確にモニタリングしたデータ) の重要性が強調され、充実した内容となりました。サハ共和国中部のスパースカヤ・パージといったフィールドは、生態系モニタリングにおける国際協力における優れたプラットフォームになり得ますし、セミナーの結果として、日英露の新たな協力が生まれる可能性があります。また、本セミナーでは高度マルチセンサーと機械学習、ディープラーニングのアルゴリズムで収集したデータを活用することで、近い将来に新たな成果を上げられることを実証しました。

#### セミナーの成果:

- ・ セミナーにより、日露の研究者が協力し、連携拡大や情報交換を図る機会を提供
- ・ 実習により、現在行われている研究において機械学習とディープラーニングアルゴリズムを実際に適用する機会を提供
- ・ 自動運転の実習により、データの収集と処理の方法の修得機会を提供
- ・ 今後の地球情報学における機械学習 (machine learning, ML) とディープラーニング (DL) の応用に関する共同出版や共同研究についての検討
- ・ 本シンポジウムに基づき、モスクワ国立大学 (MSU) でも学生を対象に Google Earth エンジンを用いた研修を実施



1日目 テクニカル・セッションにて(2021年9月15日)



2日目 実習セッションにて(2021年9月16日)

●当日動画(YouTube) <https://youtu.be/CvXAVccKoBs>

●プログラム詳細

<https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/event/6753>

●プレゼンテーション資料

Presentation 1 Prof. Trofim Maximov (ダウンロード:<https://x.gd/ktIBT>)

Presentation 2 Dr. Ayumi Kotani (ダウンロード:<https://x.gd/kqkZZ>)

Presentation 3 Dr. Olga Tutubalina (ダウンロード:<https://x.gd/ZuA4V>)

Presentation 4 Dr. Ram Avtar (ダウンロード:<https://x.gd/bTLIV>)

## 専門セッション活動報告⑦

### ー産業多様化促進セッション、SDGs: 環境・資源開発・多文化教育セッションー

#### オンラインワークショップ「太平洋北極圏における持続可能なクルーズ産業の発展：過去の発展と将来の展望」の開催

2021年12月8～9日、オンラインワークショップ「太平洋北極圏における持続可能なクルーズ産業の発展：過去の発展と将来の展望」を開催しました。主催・共催は北極域研究共同推進拠点(J-ARC Net)、北海道大学北極域研究センター、日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム(HaRP、特に専門セッション「SDGs: 環境・資源開発・多文化教育」)、北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)、北極圏大学「アジアにおける北極圏・北極圏におけるアジア」分科会(UArctic Thematic Network on the Arctic in Asia, Asia in the Arctic)、ロシア極東北極圏開発機構です。

本ワークショップには北海道、極東北極圏ロシア、オホーツク海、北太平洋、ベーリング海、チュコト海などの陸海域におけるクルーズ観光に関心を持つ研究者、公的機関、民間企業、NGOが一堂に会し、経済的・環境的・社会的に持続可能で責任のあるクルーズ観光について様々な視点で話し合いました。議題は環境保護、統合的地域管理、先住民族を含む地域のコミュニティと観光産業の関わりにおける法的・経済的規制、社会的操業許可、港湾・観光関係インフラ及びその開発に向けた政府の政策、新たな観光事業の経済的実現可能性、地域間協力、人材育成など多岐にわたりました。

なお、本ワークショップはJ-ARC Netの経費支援による進行中のクルーズ観光研究事業の一環として実施されました。また、専門セッション「SDGs: 環境・資源開発・多文化教育」ならびに北極域研究加速プロジェクト(ArCS II、特に国際政治課題「複雑化する北極域政治の総合的解明と日本の北極政策への貢献」サブグループ4「非国家主体とパラディプロマシー」)の日本側参加者が共催した以下のセミナーの結果を踏まえております。

1. セミナー1ー マルチレベルガバナンスと地域間協力: Vol.1 – The Pacific Arctic (2021年1月12日)
2. セミナー2ー 北極圏と北方圏における日露の地域間協力 – 理論と実践 (2021年3月3日)
3. セミナー3ー マルチレベルガバナンスと地域間協力: Vol.2 – バレンツ地域 (2021年6月9日)
4. セミナー4ー マルチレベルガバナンスと地域間協力: Vol.3 – 持続可能な地域開発、国際協力、北極環境の保護 (2021年9月14日)
5. セミナー5ー ロシア極東とアジア側の北極の発展に向けたアジア太平洋地域における越境地域間協力 (2021年10月18日)

セミナーは日英露の同時通訳で実施され、1日目の参加者は122名、2日目は112名でした。ロシア、日本、ブルガリア、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、米国より学術関係者(13名の学生含む)、様々なレベルの政府機関、自然保護区、民間企業、NGOの代表者らが出席しました。

本セミナーでは2つのセッションが行われました。

1日目は、持続可能な観光と環境保護について議論しました。プログラムの最初に、大塚夏彦教授(北海道大学北極域研究センター)ほか日露の大学、研究所、NGO、自然保護区を代表する9名が発表を行いました(京都大学野生動物研究センター 三谷曜子教授、知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議座長・北陸先端科学技術大学院大学(JAIST) 敷田麻実教授、コマンドルスキー諸島自然保護区 Anastasia Kuznetsova 管理局长、クロノツキー自然保護区 Roman Korchigin 管理局次長、ヴランゲリ島自然保護区 Alexander Gruzdev 管理局长、NPO チュクチ科学研究支援グループ Gennady Zelensky グループ長、ロシア科学アカデミー生態進化研究所・ロシア海洋生物協議会 Dmitry Glazov 氏、全ロシア環境保護研究所 Stanislav Belikov 氏, Angelina Gnedenko 氏, Darya Chernyshova 氏、ロシア科学アカデミー生態進化研究所 Olga Shpak 氏、北海道大学法科大学院 児矢野マリ教授)。また、北海道大学北極域研究センターの田中雅人特任教授が閉会挨拶を述べました。

2日目はクルーズ産業、地域社会、地域間協力、人材育成について議論しました。プログラムは司会のユハ サウナワーラ氏、マリーナ ロマーエヴァ氏(北海道大学北極域研究センター)による開会挨拶に始まり、日露の大学の研究者(学生含む)、研究所、政府機関(中央、地方、市町村)、NPO、民間企業、先住民コミュニティより11名の発表がありました(北海道庁総合政策部国際局国際課 佐藤知至ロシア担当課長、小樽市産業港湾部港湾室港湾振興課 水上貴文主査、ロシア科学アカデミー極東支部 経済研究所 Elena Zaostrovskikh 氏、Vasta Discovery LLC Sergey Khvorostyanyy 氏、NPO カムチャッカ観光協会 Georgiy Emelin 氏、カムチャッカ・コリヤーク民族代表 Anna Russkikh / Vulk'yn'yuv 氏、北海道大学観光学高等研究センター 岡田真弓准教授、Vladivostok Sea Terminal LLC Valeryi Nagornyi 最高経営責任者、ロシア国立研究大学高等経済学院 サンクトペテルブルクキャンパス Valeria Galchenko 氏, Anastasia Polomarchuk 氏, Ekaterina Andreeva 氏, Anna Veshkurtseva 氏, Alina Papirosova 氏, Valery Gordin 氏、サハリン州投資振興局 Vasily Grudev 局長、サハリン北部先住民族協会・サハリン州議会少数先住民族代表 Alexey Limanzo 氏)。また、ロシア極東北極圏開発機構の Roman Sementsov 常務取締役が閉会挨拶を述べました。

ワークショップでは、クルーズ産業と持続可能性に関する問題には様々な角度からアプローチ可能だということを実証しました。クルーズ産業が環境に多大な影響を及ぼすことは明らかであり、大気汚染と温室効果ガス排出、石油流出の可能性、使用燃料の種類、騒音と海洋生物に対する影響、上陸する観光客がもたらす各地への影響に十分な注意を向けなくてはなりません。こういった問題を軽減し、乗客が目にする壮大な自然と動植物について学び、北極の生態系が地球温暖化によって直面している脅威を知ってもらうには様々な方法が

あります。北極ならびに北方地域におけるクルーズ産業と観光は、雇用創出、経済成長、インフラの改善にも貢献するでしょう。しかし、何百人、何千人もの旅客を乗せた船舶が突然現れることで、地域のコミュニティやインフラに負荷が掛かる可能性も否めません。

本ワークショップは、国家間・地域間・業種間の協力に基づき、地域の環境、社会、インフラの可能性と限界を理解することの重要性を強調した上で、広く太平洋側の北極において持続可能なクルーズを推進する構想の一部を担いました。港湾ほか観光関連のインフラ、環境法、先住民族を含む地域のコミュニティにおいて社会的操業許可など、基本変数(重要かつ変わりやすい要素)に焦点を当てました。このようにクルーズ産業に影響を与える要素を特定し分析した上で、関係者間で事業の実現可能性、展望、事業化に関する議論を行うことが可能となります。

参加者からの声として、ロシア側からは知床世界遺産など日本の保護地域管理ノウハウ、環境保護における日露協力の法的枠組、クルーズ観光の主要な魅力となる海棲哺乳類の研究状況について学ぶ貴重な機会だったとの評価がありました。また、日本側参加者はロシアの魅力的な野生生物とその保護に関する最近の研究の方向について学び、中央政府と地方政府、自然保護区、観光業、港湾業、研究者、そして市民社会の努力によって極東と北方地域(特にカムチャッカとチュクチ半島)を統合的に管理する計画の全体像を理解する貴重な機会に感謝しました。

本ワークショップの開催は、北海道ならびにロシア極東、北方地域を含む関係者間でコミュニケーションを確立する最初の大きな一歩となりました。参加者の中には、様々な地域・国レベル、国際的なフォーラムやNGOのメンバーや協力者もいました(北極評議会、北極探検クルーズオペレーター協会(AECO)、日ロ交流協会、海洋遺産協会、WWFロシア、ロシア海洋生物協議会、カムチャッカ観光協会など)。本ワークショップが取り上げた議題や視点がこれらの組織に持ち帰られ、将来的に開催される国際的なイベントにおいても継続的な議論がなされることを期待します。

## 参加団体リスト

### <日本>

- ・ セントラルコンサルタント株式会社
- ・ 北海道総合商事株式会社
- ・ 北海道庁
- ・ 北海道大学
- ・ インターナショナル・クルーズ・マーケティング株式会社(ICM)
- ・ 北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)
- ・ 株式会社ジャパン・エア・トラベル・マーケティング
- ・ 日本貿易振興機構(ジェトロ)
- ・ 有限会社ジャパントラベルセンター
- ・ 株式会社JTC(Japan Travel Concierge)
- ・ 日口交流協会
- ・ 京都大学
- ・ 武蔵野大学
- ・ 名古屋大学
- ・ 国立極地研究所
- ・ 小樽市
- ・ 上智大学
- ・ 東京大学
- ・ 株式会社トライウエルインターナショナル
- ・ 横浜国立大学

### <ロシア>

- ・ ロシア科学アカデミー A.N. Severtsov 生態進化研究所(IIE RAS)
- ・ 全ロシア環境保護研究所(VNII Ecology)
- ・ 沿海地方・北極海東部 海洋港 管理局
- ・ 北極・南極研究所(AARI)
- ・ 北極評議会事務局
- ・ 海洋遺産協会
- ・ Atomflot(ロシア連邦国営単一企業アトムフロート)
- ・ チュクチ科学研究支援グループ
- ・ コマンドルスキー諸島自然保護区
- ・ ロシア連邦商工会議所 アジア・オセアニア委員会(CCI RF)
- ・ Dealan Energo LLC
- ・ ロシア科学アカデミー 極東経済研究所(ERI FEB RAS)
- ・ 極東連邦大学
- ・ 極東地域水文気象学研究所(FERHRI)
- ・ 極東国立水産工科大学
- ・ GoArctic.ruウェブポータル
- ・ サハリン州政府
- ・ ロシア国立研究大学高等経済学院 サンクトペテルブルクキャンパス
- ・ カムチャッカ観光協会
- ・ 全ロシア漁業海洋学研究所(VNIRO)
- ・ KamchatNIRO(全ロシア漁業海洋学研究所 VNIRO カムチャッカ支部)
- ・ PINRO(全ロシア漁業海洋学研究所 VNIRO 北極支部)
- ・ SakhNIRO(全ロシア漁業海洋学研究所 VNIRO サハリン支部)
- ・ カンダラクシャ自然保護区
- ・ ハバロフスク国立経済法科大学
- ・ クロノツキー自然保護区
- ・ クリル自然保護区
- ・ M.G. Safronov ヤクート農業研究所
- ・ ロシア海棲哺乳類協議会
- ・ カムチャッカ地方観光局
- ・ 北東連邦大学(ヤクーツク)
- ・ 北東連邦大学(チュクチ支部)
- ・ 北東国立大学
- ・ 北方(北極)連邦大学
- ・ Northern Expeditions LTD
- ・ NTTロシア
- ・ ロシア科学アカデミー極東支部 太平洋地理学研究所
- ・ 太平洋国立大学
- ・ ロシア科学アカデミー極東支部 太平洋海洋研究所
- ・ ロシア地理学会沿海地方支部
- ・ ロシア北極圏開発プロジェクトオフィス(PORA)
- ・ サハリン州議会 先住民代表
- ・ ロシア極東北極圏開発機構
- ・ ロシア大統領府附属ロシア国民経済行政学アカデミー(RANEPa)
- ・ ロシア国立水文気象大学
- ・ サンクトペテルブルク国立大学
- ・ サンクトペテルブルク国立建築土木大学(SPbGASU)
- ・ サハリン国立大学
- ・ シベリア連邦大学
- ・ ロシア科学アカデミー 南部科学センター(SSC RAS)
- ・ ウラル連邦大学
- ・ Vasta Discovery LLC
- ・ ウラジオストク市役所
- ・ Vladivostok Sea Terminal LLC(クルーズ船ターミナルオペレーター)
- ・ Vostok Tour LLC
- ・ ヴランゲリ島自然保護区
- ・ WWFロシア

### <その他>

- ・ 北極探検クルーズオペレーター協会(AECO、ノルウェー)
- ・ ブルガリア海洋研修センター(ブルガリア)
- ・ North Pacific Wildlife Consulting(米国)
- ・ ラップランド大学(フィンランド)
- ・ 南デンマーク大学(デンマーク)

### Russia-Japan Joint Mini-symposium on Plant Protection 2022の開催

2022年1月20日、新潟大学は、日露に共通して発生する植物ウイルス病研究を支える植物保護科学分野の研究者・学生を対象としたRussia-Japan Joint Mini-symposium on Plant Protection 2022を開催し、128名(事前登録者数)の研究者及び学生が参加しました。

本シンポジウムは、ロシア科学アカデミー極東支部極東アグロバイオテクノロジー連邦科学センターが立案・企画し、①ロシア国内(特に極東地域)の作物における植物保護科学研究の現状、②極東地域のジャガイモに発生する植物ウイルス、③日本国内でのユリ科作物および野草に発生する植物ウイルス、④ロシア国内における蔬菜類の病害抵抗性育種、⑤これまでの日露における植物ウイルス・ウイロイドに関する共同研究事例と研究成果、⑥日露に共通して発生する昆虫伝染性ウイルス、について両国からの専門家・大学院生によるプレゼンテーションおよびそれに付随する意見交換・質疑応答を日露同時通訳にて行いました。さらに、国際共同研究の立ち上げにあたり、ロシア国内で関心が高まっている研究分野・視点を理解し、日本国内の植物保護科学分野を専門とする研究機関・大学の研究者に発信するため、近年ロシア基礎研究基金(PFBR)やロシア科学基金(RSF)の支援を受けて実施されている植物保護科学関連の研究課題やその概要についてロシア語および英語での資料整備を行いました。

このシンポジウムは、ロシア国内、特に病虫害の影響が深刻である極東地域について主食作物であるジャガイモやムギ類に加え、花卉・蔬菜類に至る多様な農作物におけるウイルス病の発生状況や研究の現状、また同種のウイルスについて日本国内における発生と進化・分子生物学的研究成果が両国の専門家間で共有され、将来の農業生産を担う学生と植物保護科学についての問題意識を共有することを目的として開催され、日露双方からの学生が多数参加し、日露の若手研究者及び学生が両国に植物保護科学分野における共通の課題があることを専門的観点から認識し、共に解決に向けて取り組む将来への一助となりました。

また、「植物の越境性病害虫」すなわち、国境を越えて作物に蔓延する植物病や害虫は、FAOの定める世界10大クライシスにも数えられ、日本やロシアをはじめとする国際社会が解決策を模索する地球規模課題ですが、日露において植物保護科学分野での共同研究事業例は多くある一方で、プロジェクト横断的に「日ロ交流」を目的とした専門家・学生向けイベントは極めて少ない状況であり、本シンポジウムでは7名の演者から日露の共通課題であるウイルス・ウイロイド病について過去の共同研究事例から現代の研究内容・将来の共同研究へのアイデアが発表され、これまで交流機会のなかった学生・研究者が日露の大学・研究機関における協働の可能性を見出すことが出来、今後の学術研究の連携にシナジー効果が期待されました。

## 専門セッション活動報告⑨ ―言語・文化・観光セッション―

### 円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家育成及び語学教育における日露連携」の開催

5月20日(木)、サンクトペテルブルク国立大学及び日露大学協会と円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」を共催しました。これは、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～(タイプB:プラットフォーム構築プログラム)」により本学が支援を受ける“HaRP”の取組の一環として実施したもので、その専門セッションの一つである「言語・文化・観光」の参加者をはじめ、日本側11大学・20名(うち本学9名)、ロシア側18大学・36名、両国の学生3名のほか、言語サービス・語学教育・コンサルティング等の企業10社や通訳13名を含む計80名以上が参加しました。

日本側からスピーカーとして、東京外国語大学の新井滋特任教授が日本映像翻訳アカデミー社との共同事業である「J-Anime Meeting in Russia2020」におけるアニメの選択や字幕翻訳、PR、協賛候補企業へのアプローチ等における日露学生の取組の状況について、また、神戸市外国語大学の金子百合子教授から、ロシア語学科の学生を対象に実施する学術論文の露日翻訳インターンシップや国際イベントにおけるボランティア通訳、日露自治体交流における学生コンテスト、地域コミュニティを支援するコーディネーター養成企画について紹介したのに対し、ロシア側参加者からは、通訳・翻訳の教授法や教材開発、オンライン教育技術等について報告がありました。

一方、ロシア翻訳・通訳教員協会とロシア翻訳家・通訳連合の代表からは、通訳・翻訳家に関する専門的基準の策定や通訳ガイドの免許制度改正等に関する最新情報が共有されたほか、企業関係者からは、雇用者から見た現在特に需要の高い通訳・翻訳の分野や語学専門家に求められるスキル、彼らを養成する上で必要な専門的基準の共同開発等の現状について報告がありました。

参加者からは、大学、企業、業界団体の関係者が一堂に会して議論できた点や各大学が開発した斬新な教授法やアプローチについて知る機会が得られたこと、また、各発表者が扱ったテーマが多様性に富んでいた点を評価する声とともに、両国の求人市場や翻訳家・通訳のメディアリテラシー、AIをはじめとする最新IT技術の活用、学生のインターンシップ受入に際しての条件といった生の情報交換ができる機会を望む声が多く聞かれました。

今回の円卓会議を契機に、言語分野の研究者・実務者のネットワークがさらに発展することで、新たな産官学連携やパートナーシップが生まれていくことが期待されます。



円卓会議(オンライン)の様子



開会挨拶をする  
北海道大学 横田理事・副学長



東京外国語大学の  
新井特任教授による発表



神戸市外国語大学の  
金子教授による発表

● 当日動画(YouTube)

<https://youtu.be/wMD4hFz9uek>

● プログラム詳細

2021.5.20-SPbU-HaRP-Round-table-program-as-of-20.05.2021.docx

<https://x.gd/LMULZ>

● プレゼンテーション資料

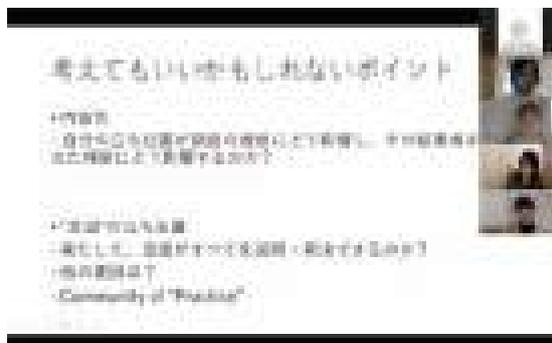
2021.5.20-SPbU-HaRP-Round-table-program\_all\_materials (ダウンロード:<https://x.gd/GX2FL>)

### オンライン会議「バイリンガルの子供たちの教育システム形成と教材作成」の開催

2021年10月23日(土)・24日(日)に、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、日本ロシア語教育研究会、日本ロシア語学校教師会、HaRPが主催し、「バイリンガルの子供たちの教育システム形成と教材作成」国際シンポジウムを開催しました。

今回のシンポジウムは2021年2月6日(土)・7日(日)に開催された「日本におけるロシア語教育：母語・継承語・外国語 ～若い世代の経験、課題、展望～」国際シンポジウムの続編として実施されたものであり、日本及びロシアの大学から大学院生5名、大学教員7名とロシア語教育に関わる市民団体代表4名、バイリンガルの子どもの保護者3名が発表を行いました。また、日本とロシアだけではなく、アメリカ合衆国、アンドラ、ドイツ、イスラエル、韓国からもロシア語教育の専門家が参加し、研究発表や活動報告を行いました。

今回のシンポジウムでも、ロシア語教育の問題について教師、研究者、保護者、学習者といったそれぞれの観点からディスカッションを行ったほか、2日目には、「教育システム形成と教材」というテーマに掘り下げて研究交流を実施しました。今回のシンポジウムには、世界のロシア語教師、研究者や学生など延べ113名が参加し、活発な意見交換や今後の研究・教育の展開について充実した議論ができました。



#### ●プログラム詳細

<https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/event/6967>



## 2021年度 専門セクションの活動(2022年2月現在)

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(1) 医療健康	新潟大学	医学・医療全般	・クラスノヤルスク国立医科大学 ・極東国立医科大学 ・北東連邦大学 ・サントペテルブルク国立大学 ・太平洋国立医科大学 ・カザン連邦大学 ・カザン国立医科大学 ・モスクワ国立大学 ・モスクワ国立第一医科大学(セチェノフ大学)	・新潟県 ・新潟市 ・環日本海経済研究所(ERINA) ・株式会社 第四銀行 ・愛宕商事株式会社 (日露医学医療交流コンソーシアムにいがた)	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築(Japan-Russian G-MedEx Project、G-MedEx)	学生の派遣 その他(企業・地方自治体等(地域コンソーシアム)との連携)	学部 修士 博士	<p>① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 夏期医学生交流プログラム(主催:新潟大学医学部医学科、8月):新潟大学で例年実施している夏期医学生交流を、「医療健康セクション」参画校へも提供し、参加者を募集した。日露を中心に、4か国(日本、ロシア、中国、スリランカ)15校の医学部生が参加した。「医療健康セクション」からは本学以外に筑波大学等3校の学生が参加した。各国の医学生が、大学紹介、医学部における教育や研究、コロナ禍での学生生活等について発表と意見交換を行った。プログラム終了後に、希望者に、本学大学院医歯学総合研究科に所属する留学生との交流の場を設け、医師として国際的なキャリアを見据え、海外留学に関する知識を深める機会を提供した。</p> <p>② 企業・地方自治体等との連携 新潟大学と「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」が、12月9日～10日の2日間、「ロシア連邦対象オンライン日本留学フェア」を共催し、延べ148名が参加した。1日目は医科学分野専攻学生向けに実施され、「医療健康セクション」とも共同して、同参画校5校を含む8校が発表を行った。2日目は「新潟で学ぶ、働く、暮らす」をテーマに、新潟県内8校の学校紹介の他、同コンソーシアム参画4団体(自治体、シンクタンク、商社)が発表を行った。</p> <p>③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) ・6月21日、日露学術フォーラムのイベントとして、新潟大学(医療健康セクション)とモスクワ国立大学と合同で「日露医学教育オンラインシンポジウム」を開催し約50名が参加した。 ・9月15日、新潟大学(医療健康セクション)とモスクワ国立大学と合同で「日露学術フォーラム(医学教育)」を開催し、約50名が参加した。</p>	山川 詩保子

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対 象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(1) 医療健康	東海大学		・極東連邦大学 ・サハリン国立大学 ・モスクワ国立大学 ・国立研究大学高等 経済学院(HSE) ・極東国立医科大学 ・サハリン国立大学 ・極東連邦大学附属 病院 ・北斗医療センター(ウ ラジオストク) ・北斗リハビリセンター (ウラジオストク)等	・神奈川県伊勢原市役所 ・未病センター (神奈川県)	ライフケア分野に おける日露プリッ ジ人材育成―主 に極東地域の経 済発展を目的とし て―	学生の相互 派遣	学 部 修 士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 海外研修(派遣44名、受入56名)、中期・長期交換留学(派遣16名、受入 14名)、健診人材実務者研修(派遣10名、受入10名)を実施(実施予定を 含む)  ② 企業・地方自治体等との連携 オンラインサマースクールを函館市の後援により実施  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 留学生向けのキャリアセミナーを実施予定、オンライン学生交流会を実施	山本 佳男
(1) 医療健康	長崎大学	被ばく医 療	・北西国立医科大学 (・ゴメリ国立医科 大学 ・ベラルーシ国立医 科大学)	・福島県立医科大学 ・福島県川内村 ・福島県富岡町 ・福島県大熊町 ・原子力安全研究協会 ・アルパイン株式会社	日露の大学間連 携による災害・被 ばく医療科学分 野におけるリー ダー育成事業	学生の相互 派遣	修 士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 大学間協定 ・北西国立医科大学と長崎大学との間における学術交流協定の追加合意書 ・長崎大学と福島県立医科大学及びメーチニコフ名称国立北西医科大学 との間の学術交流協定書 ・ダブル・ディグリー・プログラムの共同実施に関する合意書 ・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、福島県立医科大学大学院医学 研究科及びメーチニコフ名称国立北西医科大学との間におけるダブル・ ディグリー・プログラム実施要項  学生交流(オンライン講義及び実習) 【短期受入】10月「福島医大救急医学実習」、「長崎大川内村実習」、「放射 線防護学I・II」 11月「リスク管理学特論」、「リスクコミュニケーション学」 【短期派遣】2月「生物統計学」 【ダブル・ディグリー・プログラム】10月より北西国立医科大学からのダブ ル・ディグリー・プログラム学生を長崎大学へ受け入れ開始した。  ② 企業・地方自治体等との連携 北西国立医科大学の学生が、福島県川内村の長崎大学 川内村復興推進 拠点、一般社団法人 かわうちラボ、食品検査場(川内村及び富岡町)及び ふたば医療センターにおいてオンラインによるフィールド実習に参加した。  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) キルギス国立医科アカデミーとオンライン会議を実施し、学術交流につい て検討した。	高村 昇

セッション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(1) 医療健康	福島県立医 科大学	被ばく医 療	・北西国立医科大学 (・ゴメリ国立医科 大学 ・ベラルーシ国立医 科大学)	長崎大学		学生の相互 派遣	修 士	<p>① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 (1) 2021年10月、北西国立医科大学学生3名に対して川内村救急医学のオンライン実習を実施(長崎大学と共同)。 (2) 2021年度下期から北西国立医科大学ダブルディグリー学生に対して「救急医学特論I、II」のオンライン講義(英語)を実施(長崎大学と共同)。 (3) 2022年2月に修士学生1名が北西国立医科大学の「生物統計学」をオンライン受講予定。(長崎大学と共同)。</p> <p>② 企業・地方自治体等との連携 長崎大学と連携して国際交流を推進。</p> <p>③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) (1) 北西国立医科大学との修士ダブルディグリープログラム実現に向けたオンライン会議(長崎大学と共同)。 (2) 修士ダブルディグリープログラム実施のため、北西国立医科大学、長崎大学、本学の三大学間学術交流協定書及び合意書を2021年7月に締結(長崎大学と共同)。 (3) 2021年11月に、中央アジア地域向けの日本留学フェアに参加し、広報活動を実施。</p>	和栗 聡
(1) 医療健康	金沢大学	・脳神経 科学 ・予防医 科学 ・がん医 科学 ・循環医 科学	・カザン連邦大学 ・クラスノヤルスク国 立医科大学 ・サンクトペテルブル ク国立第一医科大 学 ・タタルスタン共和国 がんセンター	理化学研究所	日露をつなぐ未来 共創リーダー育 成プログラム(先 制医療プログラ ム)	学生の相互 派遣	教員 (研究交 流) 博 士	<p>① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 世界展開力強化事業(ロシア)の「先制医療プログラム」における交流から波及し、2021年度金沢大学交換留学プログラム(KUEP)およびKUEP-Onlineの枠組みで学生5名がクラスノヤルスク医科大学から留学中。</p> <p>② 企業・地方自治体等との連携 理化学研究所</p> <p>③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 2017年度から実施している世界展開力強化事業(ロシア)の体系的で多層的な学生交流プログラム「先制医療プログラム」は、2020年度から引き続きコロナ禍の影響により、講義教材を閲覧しレポート提出という形で交流を行っている。 また、2021年9月30日にカザン連邦大学、クラスノヤルスク医科大学、サンクトペテルブルグ医科大学との共催でオンラインシンポジウムを開催し、両国の大学院生はオンラインにて研究発表を行った。また、各大学から教員・大学院生も参加し、活発な意見交換があった。今後の共同研究などに繋がる事が期待される。</p>	原 章規

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(1) 医療健康	筑波大学		・ロシア国立研究医科大学 ・モスクワ国立大学 ・カザン連邦大学 ・ノヴォシビルスク国立医科大学 ・太平洋国立医科大学 ・ロシア各地の病院		ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム	その他(実習、実務研修)	学部(一部修士・博士)	③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 日露学術フォーラム(テーマ:医学教育)(2021年9月15日)に医学医療系鈴木保之教授が参加	山本 祐規子  インセバー エヴァ サビーナ
(2) 都市づくり	北海道大学	寒冷地 適応型 省エネ技術	・太平洋国立大学 (NIOINC2021主催)	・関東学院大学	日露デザインスクール	学生の相互派遣	教員 修士 博士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 サントペテルブルク建築土木大学とのサマースクール(7月,本学:日露デザインスクールに該当)/RJE3 Special Seminar I: Fieldwork on Development Technologies in Cold Region(8月,サマーインスティテュート)/ハバロフスク太平洋国立大学よりRJE3プログラム長期受入れ学生/日露デザインスクール(2月)	瀬戸口 剛 渡部 典大
(3) 中小企業 交流	金沢大学		カザン連邦大学		日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム	学生の相互派遣 その他(アントレプレナー教育、インターンシップ)	修士	② 企業・地方自治体等との連携 Atlas Biomed, ROBBO, COEX Copter Express, Algorithmics, 株式会社LikePay, 株式会社TalentEx, Atlas of Emerging Jobs  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 日露間で活躍する企業や団体、大学から講師を招き、オンラインにて国際アントレプレナーシップ講義を行った。講義に対するオフィスアワーの時間を設けることで講師と学生間で活発な意見交換が行われた。	大友 信秀
(4) SDGs: 環境・資源 開発・多文 化教育	北海道大学	北極圏・ 北方圏の 地域開 発	・北東連邦大学 ・サントペテルブルク国立大学 ・モスクワ国立国際関係大学 ・ハバロフスク国立経済法科大学	・北海道 ・札幌市 ・北海道国際交流・協力総合センター(HIECC) ・公益財団法人 環日本海経済研究所(ERINA)	北極域研究推進プロジェクト (ArCS II)	その他(産学官連携型のイベントへの教員の参加、講演・ワークショップ開催)	学部 修士 その他(教員、官民団体関係者)	② 企業・地方自治体等との連携 企業や地方自治体と連携し、以下のオンラインセミナー及びワークショップをHaRP事務局と共同で主催した。 1. 2021年6月9日 “Multilevel Governance and Interregional Cooperation: Vol. 2 – The Barents Region” 2. 2021年9月14日 “Multilevel Governance and Interregional Cooperation: Vol. 3 – “Sustainable Regional Development, International Cooperation and the Protection of the Arctic Environment” 3. 2021年10月18日 “Cross-border interregional cooperation in the Asia-Pacific Region as a driver for the development of the Russian Far East and the Asian Arctic” 4. 2021年12月8,9日 “The development of sustainable cruise industry in the Pacific Arctic: Past developments and future prospects”  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 2021年12月16日にロシア国立研究大学経済高等学院の学生への講義の実施。また、2022年4月もしくは5月に、ハバロフスク州立経済法科大学学生への講義について調整中。	サウナワラ ユハ

セッション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(4) SDGs: 環境・資源 開発・多文 化教育	北海道大学	SDGs達成を目指した環境観測における無人航空機(UAV)の適用	・モスクワ国立大学 ・北東連邦大学			その他	修士	③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 2021年9月15日オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」を実施し、日本、ロシア等の国から64名が参加。	アバタル ラム
(4) SDGs: 環境・資源 開発・多文 化教育	金沢大学	環境教育や日露SDGs教育	・モスクワ国立大学 ・サンクトペテルブルク国立大学 ・カザン連邦大学 ・極東連邦大学 ・アルタイ国立大学 ・イルクーツク国立大学			学生の相互 派遣	学部 修士 博士	② 企業・地方自治体等との連携 石川県ロシア協会、石川県、金沢市、白山ユネスコエコパーク協議会、NPO法人白山しらみね自然学校  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」及びSDGs4「質の高い教育をみんなに」の達成に貢献すべく、本学の日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム「文化交流プログラム」にて学生交流および講義を行った。これらは全てオンラインで実施した。また、白峰地区の地域住民と学生の交流の場を設け、地域活性化と地域コミュニティ能力の向上を図った。	ママードウァ アイダ
(4) SDGs: 環境・資源 開発・多文 化教育	北海道大学	・持続可能な開発のための教育(ESD) ・ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム	・サハリン国立大学 ・ウラル国立教育大学		・双方向型短期留学支援プログラム「ESD Campus Asia Pacific」 ・ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム	学生の相互 派遣	学部 (2、4年生、2年生が主体)	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 サハリン国立大学との間で継続している以下の3つの学生交流を通じた教育連携のうち、1と3を実施した。2は計画したが、コロナにより未実施。  1.双方向型短期受入派遣プログラム「ESDキャンパスアジアパシフィックプログラム2021」(10日間の夏秋双方向型短期受入派遣)(-2016年より毎年開催)本年度は夏冬にオンライン開催とした。夏季8月17-19日。冬季2月15-16日  2.双方型短中期受入派遣プログラム「ESDグローバル協働教育2022」(3か月1クォーター双方向受入派遣プログラム)(-2016年より毎年開催、2020、2021年はコロナにより中止)  3.第4回日露3大学ジョインセミナープログラム 2021 Russian-Japanese joint seminar, The impact of post-coronavirus society on the psychophysical and psychosocial spheres of personality: a new era of an interdependent society(大学院生の交流を中心とした若手指導者育成プログラム)2019年より毎年オンライン開催。非協定校であるウラル国立教育大学とともに3大学共同開催を実施した。56名の参加者があった。	池田 恵子

セッション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
								③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 協定校のサハリン国立大学に加えて、非協定校であるウラル国立教育 大学との間で学生交流を実施。さらに、ロシア語圏内にあるウズベキスタンの タシケント情報科学大学の教員も参加した。第4回日露3大学ジョインセミナー プログラム 2021 Russian-Japanese joint seminar, The impact of post-coronavirus society on the psychophysical and psychosocial spheres of personality: a new era of an interdependent society (大学院生の交流を中心とした若手指導者育成プログラム)2019年より 毎年オンライン開催。非協定校であるウラル国立教育大学とともに3大学 共同開催 を実施した。56名の参加者があった。	
(4) SDGs: 環境・資源 開発・多文 化教育	北海道大学	・東アジ ア・極東 ロシア地 域におけ る移住プ ロセス ・異文化 コミュニ ケーション	・サハリン国立大学 ・ノヴォシビルスク国 立工科大学	・日本ロシア語教育研究会 ・日本ロシア語学校教師会	タンデム・ランゲー ジ・ラーニング・プ ロジェクト (Tandem Language Learning Project: TLLP)	その他(国際 シンポジウム の開催、共 同プロジェク トの実施、共 同出版プロ ジェクトなど)	修士 博士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 学生及び教員の日露学生フォーラムの参加  ② 企業・地方自治体等との連携 日本ロシア語教育研究会、日本ロシア語学校教師会、CaSA NPo  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト (Tandem Language Learning Project: TLLP)への参加	パイチャゼ スヴェトラナ
(5) 産業多様化 促進	札幌大谷大 学	文化	・サンクトペテルブル ク国立文化大学 ・モスクワ国立大学	小樽商科大学		その他(教員 の派遣)	学部 その他(教員)	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 サンクトペテルブルク国立文化大学  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 2020年度にも行ったオンライン学生間交流会について、継続のアレンジを 行った。 2022年3月から4月にZoomを使用し、オンライン学生間交流会を行うこと となった。	山田 政樹
(6) 極東産業 振興	新潟大学	植物保 護科学	・ロシア科学アカデ ミー極東支部極東アグ ロバイオテクノロジー 連邦科学センター ・全ロシア大豆研究所			共同研究・ 協同人材育 成	学部 修士 博士	③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 日露に共通して発生する植物ウイルス病研究を支える植物病理学分野の 研究者・学生を対象としたミニシンポジウム 「Russia-Japan Joint Mini-symposium on Plant Protection 2022」開催	湊 菜未

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(6) 極東産業 振興	金沢大学	・海洋科学 ・環境科学 ・生態学 ・毒性学 ・魚病学 ・大気科学	・極東連邦大学 ・ロシア科学アカデ ミー極東支部 太平 洋海洋研究所		日露をつなぐ未来 共創リーダー育 成プログラム	学生の相互 派遣 研究者の受 け入れ シンポジウム の開催	修 士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラムにおけるシンポジウムの中 で、環境学をテーマとした個別シンポジウムを開催し、極東連邦大学、 ロシア科学アカデミー極東支部、V. I. イリチェフ太平洋海洋学研究所と 金沢大学の学生がオンライン交流を行なった。  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 共同利用・共同研究拠点での研究集会(1件:ロシア科学アカデミー極東 支部太平洋海洋研究所)・共同研究(2件:ロシア科学アカデミー極東 支部太平洋海洋研究所、ロシア極東連邦大学)が採択。オンラインでの 研究集会を3月に開催予定。	長尾 誠也
(6) 極東産業 振興	千葉大学	・スマート 農業 ・温室ビジ ネス(植物 工場、食ビ ジネス) ・農業工学 ・園芸学	・沿海地方国立農業 アカデミー ・極東国立農業大学 ・サハリン国立大学 ・ウスリースク市 ・ノヴォシビルスク国 立農業大学 ・ロシア側民間企業 (温室・養蜂等)	・農林水産省 ・柏市 ・イワタニアグリグリーン株 式会社 ・株式会社プラネット ・双日株式会社、双日食料 株式会社 ・ハンモ株式会社 ・NPO植物工場研究会	極東ロシアの未来 農業に貢献できる 領域横断型人材 育成プログラム (FARM)	学生の相互 派遣 インター シップ	学 部 修 士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 協定4大学との学生交流をオンラインで継続、渡航可能となった段階で 対面での交流プログラムを実施する予定だったが、12月現在、来日・ 派遣共の年度内の実施が難しくなったため、今年度の交流プログラムは オンラインのみの実施になる。  ② 企業・地方自治体等との連携 企業と連携したインターシップを継続予定。2020年度はオンラインと 対面で実施したが、2021年度はオンラインのみで実施の可能性が高い ため、オンライン教材の整備をすすめている。  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 施設園芸に関わる修士課程での共同プログラムの覚書をノボシビルスク 農業大学、極東農業大学との間で締結し、講義科目のオンライン共同 開講を開始している。	高垣 美智子
(6) 極東産業 振興	東京農業大 学	・食品開発 ・食文化 ・農業振興 ・海洋科学 ・日露青年 交流	・極東連邦大学 ・LLC Euro-Asian Trading House Innovation (ООО «Евро-Азиатски й Торговый Дом Иновация»)	・自治体:高知県、茨城県、 北海道網走市、岩手県久 慈市など42件 ・教育機関:北見工業大 学など8件 ・企業:ロイヤルホールディ ングス、野村証券、日本香 堂など26件 ・日立トリプルウィン 株式会社 ・株式会社ホープ ・サクラ化学工業 株式会社		学生の受入 その他(イチ ゴ栽培に関 する極東連 邦大学との 共同研究)	学 部 修 士 ( 予 定)	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 9月以降、ロシア語の授業を極東連邦大学にオンラインで実施し、学生 交流を行った。  11月に開催された極東連邦大学との共同のオンライン国際シンポジウ ムを通して、両大学の学生が登壇し、互いの文化を紹介し理解を深める などの交流を行った。また、シンポジウムを記念した書籍の出版に向けた 準備を実施し、文化・人的交流を深めた。	中川 至純

セッション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対 象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(7) 先端技術 協力	金沢大学	・電子情報 ・機械工学 ・数学 ・物理学 ・物質科学 ・ナノ生命 科学 ・製薬	・カザン連邦大学 ・極東連邦大学 ・ロシア科学アカデ ミー極東支部 ・アルタイ国立大学 ・ロシア製薬企業 (Visterra社)	・株式会社PFU ・株式会社アクトリー ・津田駒工業株式会社	日露をつなぐ未来 共創リーダー育 成プログラム(基 礎科学プログラ ム、先端科学技術 プログラム)	学生の相互 派遣 インターン シップ	修 士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム「基礎科学プログラム」 「先端科学技術プログラム」において学生交流、講義、インターンシップを 全てオンラインで実施した。 また、2021年度金沢大学交換留学プログラム(KUEP理工系)の枠組みで、 カザン連邦大学より2名を受け入れた。  ② 企業・地方自治体等との連携 Atlas Biomed, ROBBO, COEX Copter Express, Algorithmics, 株式 会社LikePay, 株式会社TalentEx, Atlas of Emerging Jobs  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 日露間で活躍する企業や団体から講師を招き、オンラインにて国際アン トレプレナーシップ講義を行った。講義に対するオフィスアワーの時間を 設けることで講師と学生間で活発な意見交換がおこなわれた。	田中 茂雄
(7) 先端技術 協力	北海道大学	生物計測 化学	・モスクワ国立大学 ・メンデレーエフ記念 化学工科大学	・東北大学 ・Tianma Japan株式会社		学生の受入	修 士 博 士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 モスクワ大学  ② 企業・地方自治体等との連携 Tianma Japan株式会社との連携  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) オンラインおよびメールによる学生の指導。	渡慶次 学
(7) 先端技術 協力	東海大学	レーザー 技術	・モスクワ国立大学 ・極東連邦大学 ・トムスク国立大学 ・ロシア科学アカデ ミー極東支部沿海 地方科学研究セン ター	東北大学		学生の相互 派遣	学 部 修 士 博 士	③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 日露共同研究による論文発表を10報実施	山口 滋

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(7) 先端技術 協力	近畿大学	・再生可能 エネルギー ・製品開 発、プロ ジェクトを 推進・牽引 するグロー バル人材 の養成	・モスクワ国立大学 ・ドゥブナ国立大学 ・ITMO大学 ・チュメニ国立大学 ・極東連邦大学 ・サントペテルブル ク国立大学 ・ロシア政府附属財 政大学 ・モスクワ国立工業 物理研究大学 (MEPhI) ・モスクワ市立教育 大学	・豊田通商株式会社 ・豊田通商ロシア(Toyota Tsusho RUS LLC、モス クワ) ・大阪府 ・ものづくりビジネスセン ター大阪 ・「モノづくり」企業10社	日露間で活躍で きるモノづくり中 核人材の育成	学生の相互 派遣 インターン シップ	学部 修士 博士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 新型コロナウイルスの影響により、渡航を伴う交流は受入6名、派遣4名 (今年度末までの見込み)。  ② 企業・地方自治体等との連携 ものづくり企業での受入学生インターンシップを実施し、2名が参加した。  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) オンラインプログラム「近大・ロシアものづくり学生フォーラム」を2021年 8月、2022年2月の2回実施。	田中 仙君
(7) 先端技術 協力	大阪大学	・核エネル ギー ・原子力 ・素粒子・ 原子核物 理学 ・数値シ ミュレー ション ・計算科学	・極東連邦大学 ・合同原子核研究所	・高知大学 ・名古屋大学 ・九州大学		学生の相互 派遣	修士 博士 その他(若 手研究者、 ポストドク 等)	③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 極東大学出身のポストドク研究者との共同研究を継続している。	保坂 淳

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	東京外国語大学	・人文社会科学分野 多様なビジネス分野に関わる応用力を備えた、卓越した日露ビジネス人材を育成 ・貿易・金融・観光・交通、農水産業、製造業・IT、医療通訳、報道、文化交流等の多様な分野で日露経済活動を活性化	(交流協定締結先) ① モスクワ国立大学 ② モスクワ国立国際関係大学 ③ ロシア国立人文大学 ④ 国立研究大学高等経済学院 ⑤ サンクトペテルブルク国立大学 ⑥ 極東連邦大学  ・モスクワ市立大学(協定校ではない) (JVTA主催、東京外国語大学が共催する日本アニメ上映イベント@モスクワ 2020.05.23-24での「協力校」)  (インターンシップ受入ロシア企業) ・LLC RYATICO(モスクワ)	(学生交流相手) ・創価大学 ・創価学園(高等学校)(東京外国語大学の受入学生を派遣し、学生同士の交流を進めている) ・稲城市立若葉台小学校(国際理解を深める授業に東京外国語大学の学生とロシアからの受入学生を派遣し「ロシアについて」出張授業を行う) (インターンシップ受入先) ・日本映像翻訳アカデミー株式会社(JVTA) ・ジェトロ ・ソニー株式会社 ・日立建機日本株式会社 ・横河電機株式会社 ・伊藤忠商事株式会社 ・三井物産株式会社 ・住友商事株式会社 ・株式会社ヤマハミュージックリテイリング ・京セラ株式会社 ・京セラドキュメントソリューションズ株式会社 ・飯田グループホールディングス株式会社 ・ジェーアイシー(JIC)旅行センター株式会社 ・名取事務所 ・国際交流基金 ・SAMI LLC(東京外国語大学ロシア語科OBがペテルブルクで立ち上げたIT系コンサルティング会社)	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム	学生の相互派遣 その他(インターンシップ)	学部	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 ・短期受入:2週間のオンライン「日露ビジネスサマースクール」(タンデム学習、国際日本学、字幕翻訳インターンシップ)実施 ・長期受入:日本語及び日本の文化・社会・経済を学ぶ科目を履修 ・短期派遣:学部前半のロシア語専攻学生ロシア語・ロシア文化を学習(オンラインで実施) ・長期派遣:6協定大学でロシア語や他の一般科目を履修  ② 企業・地方自治体等との連携 ・昨年度に引き続き日本映像翻訳アカデミー株式会社(JVTA)受入による事業参加型インターンシップ「J-ANIME MEETING IN RUSSIA 2021」を実施した。  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) ・JVTAが受入のインターンシップ(J-ANIME 2021)において、本学の学生20名とロシア協定校(モスクワ国立大学、モスクワ国立国際関係大学、高等経済学院、サンクトペテルブルク国立大学)およびモスクワ市立教育大学、モスクワ言語学大学、サンクトペテルブルク映画・TV大学の学生計29名が交流した。さらに、日本の大学(神戸市外国語大学、上智大学、大阪大学、筑波大学、東京大学、京都大学の計18名の学生も加わった(人数は開始時点)。  ・春学期の「日露ビジネス講義」、秋学期の「駐在員のロシア語」、サマースクールでの国際日本学・日露タンデム学習を通じて、語学力強化を含むビジネス人材の育成が図られた。	沼野 恭子

セッション名	日本側大学	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対象者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の氏名
(8) 言語・文化・観光	東北大学	日露異文化交流	モスクワ国立大学	一般財団法人 東北多文化アカデミー(予定)	ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラム(修士・博士)  モスクワ国立大学心理学部学生短期交流プログラム	学生の相互派遣	学部 修士	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 モスクワ国立大学  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) モスクワ大学のアレクサンダー・ラエフスキー准教授を、日本学術振興会外国人特別研究員として受け入れ、共同研究を推進した。	阿部 恒之
(8) 言語・文化・観光	神戸市外国語大学	・学術面・・・人文学、特に語学、通訳・翻訳学、外国語教育 ・教育面・・・共同研究・教材開発・共同論文指導(コチュテル)・招聘研究者による講義・相互の遠隔講義(通訳・翻訳、語学教育と国際理解教育を目的とする短期相互派遣プログラム、ICTを用いた日露の学生による協働の学び、アクティブラーニング、若手研究者の育成) ・自治体と大学との連携・仲介による相互の学生インターン受け入れ支援、コミュニティ通訳養成	・モスクワ国立大学 ・国立プーシキン記念ロシア語大学 ・クバン国立大学 ・ウラル連邦大学 ・太平洋国立大学 ・エカテリンブルグ市	・総務省 ・神戸市 ・神戸大学 ・神戸学院大学		学生の相互派遣	学部 修士 博士 その他(教員)	① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 ・交換留学の実施。派遣(クバン国立大学・ウラル連邦大学各1名:渡航、太平洋国立大学1名:オンライン)、受入(太平洋国立大学1名:オンライン)  ・クバン大学とのオンライン学生交流会(2021年7月) <a href="https://www.jrex.or.jp/russia-classrooms/">https://www.jrex.or.jp/russia-classrooms/</a> 神戸市外国語大学xクバン国立大学%e3%80%80オンライン/  ・日本人学習者向けロシア語教育に関する教育実習生受け入れ(実習生:ニジニーノヴゴロド国立言語大学大学院生1名、期間2021年11~12月)  ② 企業・地方自治体等との連携 総務省の日露自治体間交流を実施(神戸市/エカテリンブルク市間)ウラル連邦大学、本学、神戸大学、神戸学院大学が参加 <a href="https://www.city.kobe.lg.jp/a74716/20211222.html">https://www.city.kobe.lg.jp/a74716/20211222.html</a>  ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) J-ANIME MEETING(「日本映像翻訳アカデミー(JVTA)」主催・東京外国語大学共催)へ本学より10名の学生がインターンシップ参加	金子 百合子

セッション名	日本側 大学	交流分野	ロシア側 相手大学等	日本の他大学・自治体・ 企業等との連携(地域連携)	プログラム名	交流形態	対 象 者	2021年度の活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	参画者の 氏名
(8) 言語・文化・ 観光	上智大学	・ロシア語 ・ロシア文化社会 ・グローバル社会	・モスクワ国立大学 ・モスクワ国立言語 大学 ・サンクトペテルブル ク国立大学 ・サンクトペテルブル ク国立文化大学 ・ゲルツェン記念ロシ ア国立教育大学 ・リャザン国立大学 ・ヴォロネジ国立大 学 ・ペトロザヴォーツク 国立大学 ・極東連邦大学			学生の 相互 派遣	学 部 修 士 博 士	<p>① 大学間/部局間協定に基づく学生交流 派遣 13名(当初計画 春出発9名→オンライン留学3名(うち1名は秋のみ渡航)、留学中止6名、秋出発4名→オンライン0名、22年春のみ渡航留学希望3名、留学中止1名)、交換受入 2名(オンライン履修)</p> <p>今年度新たに2校(MGIMO、モスクワ市立大学)が加わり、計11の交換留学協定校と、ロシア語、ロシア文化社会、グローバル社会の分野において、単位互換に基づく学生交換を実施している。 2021年度においても新型コロナウイルス感染症の影響で、大学全体の渡航留学は引き続き原則中止とした。そのため、ロシアへ派遣予定だった学生も大半はオンラインでの留学もしくは留学中止となった。また、秋学期(2021年秋出発)については、春学期にオンライン留学をした学生1名のFEFUへの渡航留学も、個別審査を行ったうえで再開した。また、当初21年秋出発を予定していた学生の大半は、秋学期のオンライン留学を見送り、22年春学期のみ渡航を希望する計画を提出しており、現地での学びを希望する学生が多い傾向が続いているほか、学内選考への応募人数もほぼ変動なく推移している。</p> <p>一方、交換留学生の受入については、2021年度は春学期・秋学期ともに渡日を伴う受入は中止したが、オンラインによる交換留学プログラムを提供した。春学期はサンクトペテルブルク国立文化大学から、秋学期はサンクトペテルブルク国立大学からそれぞれ1名ずつオンラインで受け入れた。</p> <p>③ その他(学生交流・人材育成に関する実績) 今年度新たにMGIMO、モスクワ市立大学の2校と交換留学協定を締結。 上記2校を加え交換留学協定校は11大学となった。 (モスクワ国立大学、モスクワ国立言語大学、サンクトペテルブルク国立大学、サンクトペテルブルク国立文化大学、ゲルツェン記念ロシア国立教育大学、リャザン国立大学、ヴォロネジ国立大学、ペトロザヴォーツク国立大学、極東連邦大学、MGIMO、モスクワ市立大学)</p>	森下 哲朗

## 6

## 日露学生連盟

日露学生連盟は、2018年5月に行われた第1回日露大学協会総会開催の際に、「学生の立場と目線」から日露交流を促進することを目的とし、学生が主体となって運営される組織として設立されました。



日露学生連盟のロゴ

日露学生連盟の主な活動内容の1つである日露学生フォーラムは、これまでに日露大学協会設立前のプレイベントとして1回及び日露大学協会総会に合わせて2回開催されていますが、今年度は第3回日露大学協会総会に合わせ、2021年9月に開催され、日露合わせて128名の学生が参加しました。本フォーラムでは、日露の文化や地域紹介、学生プロジェクトなどについて意見交換することを目的とした全体セッションが行われた後、学生の希望に応じて4つの専門セッションに分かれ、ワークショップ等を通じて、学生達は活発に議論を行い、オンラインでの開催にも関わらず、自分の研究分野を中心に交流を深めることができました。

また、学生達は両国の代表学生を中心として、日露学生連盟の運営について打ち合わせの機会を設け、各国における運営体制を整備しました。日本側の運営体制としましては、日本国内を5ブロック(北海道、東北、関東、関西、中国・九州)にエリア分けし、それぞれのエリア長が中心となって日露両国の学生のための交流イベントの企画や実施を行いました。

さらに、予てから検討を行ってきた本連盟の規約についての最終調整を行い、本連盟を中心として、日露の学生による交流を促進することを目的とし、本連盟の会員の資格や、両国の代表の選出方法などをとりまとめた「日露学生連盟規約」を確定させました。

また、日露学生連盟の活動として、Facebook、Twitter、InstagramなどSNSを活用した情報共有・情報提供を行っており、下記のSNSから情報を発信しています。

### 学生連盟SNS

- Facebook <https://www.facebook.com/jrsu2020/>
- Twitter <https://twitter.com/russiaaccount>
- Instagram <https://www.instagram.com/jrsuofficial/>

### 第3回 日露学生フォーラム

---

9月12日(日)～13日(月)には“Crossing All Boundaries and Sharing Your Ideas”をスローガンに日露学生フォーラムが開催され、日本側21大学、ロシア側31大学より128名の学生が参加しました。参加者はまず日露の文化、地域紹介、学生プロジェクトや地球課題などについて発表や意見交換を行う「文化交流セッション」に参加しました。学生自身がモデレーターを務め17名の学生から発表が行われた後、意見交換が行われました。その後、学生の希望に応じて「医歯薬学」「自然科学」「社会科学」「人文科学」のそれぞれの専門セッションに分かれ、各担当教員のコーディネートのもとでワークショップなどが行われ、専門分野の交流を深めました。2日目の最後には参加学生が再度集まり、各専門セッションの成果発表や日露の学生代表による総括が行われ、フォーラムは盛会の内に終了しました。2日間の英語による活発な意見交換を通して、参加学生からは、「大変有意義なフォーラムで多くの友人を作ることができた」「次は対面でこういったイベントに参加したい」と言った声が多く聞かれました。



挨拶する日露の学生代表（左：新潟大学学生、右：モスクワ国立大学学生）



日露学生フォーラムの参加者

## The 3rd Japan-Russia Student Forum Schedule

●Date: September 12(Sun) - 13(Mon), 2021

●Time:15:00-19:00(JST) / 9:00-13:00(MSK) / 16:00-20:00(VLAT)

Sep.12, Sun		Day 1					
Time (JST)	min.	Event	Speakers, note				
15:00 ~ 15:15	15	<b>【Opening Session】</b> <i>(All Participants)</i>	<b>Moderator : Prof. Michigami(NU)</b> ▪ Opening Remarks and Orientation (Prof.Michigami) ▪ Greetings from the representative of the 3rd Japan- Russia Student Forum				G1
15:15 ~ 18:00	165	<b>【Main Session】</b> <i>(All Participants)</i> <b>Ice Breaking / Japan-Russia Cultural Exchange Session</b>	<b>In charge : Prof.Lyude(NU)</b> <i>cooking / food culture, fashion, art, entertainment, study abroad experience etc., related to Japan and Russia</i>				G2
15:15 ~ 15:57		◆Theme1: Culture/ Food Culture	#1-KONDO Yoshimi, Russian stolovaya and Japanese family restaurant #2-FUKUDA Yui, Borsch and Zoni*My cooking challenge #3-BABA Sakiko, Ramadan challenge #4-MALINOV Sergei Indigenous people of the Russian Federation Q/A, Discussions				
15:57 ~ 16:50		◆Theme2: Region/ Global Issues	#5-KATAGAi Rio, About Sapporo tourist attractions #6-SAVITSKAYA Victoriia, About Saint-Petersburg state university of culture and arts /"Nichiro platform" #7-OKAMURA Yui, Space medicine #8-SCHERBAKOVA Vladislava- Russian medical education - before and during the pandemic #9-MORIKAWA Rikito, Nuclear disarmament from a gender perspective realized with civil society Q/A, Discussions				
16:50 ~ 17:50		◆Theme3: Student Activity	#10-CHIKARA Ryoko, Okoto - Japanese instrument #11-Niigata University International Volunteer Circle and Bridge-Joint presentation, TBD #12-DUBIK Kseniia / ISHIHARA Nozomu, J-Anime meeting #13-UMEMOTO Kazumasa, TBD #14-GILMUTDINOVA Tanziliya, About study and job experience in Japan Q/A, Discussions				
17:50 ~ 18:00		◆Japan-Russia Student Union	#15-ZIMAKOVA Ekaterina, Brief introduction and PR from JRSU				
Break Time (Preparing Time)	15						
18:15 ~ 19:00 18:15 ~ (20:00)	45 (105)	<b>Pre-Group Sessions in four specialized fields</b> organized by instructors  <i>(participants are divided into 4 sessions)</i>	<b>A</b> <b>Medical Sciences</b> until 20:00	<b>B</b> <b>Natural Sciences</b>	<b>C</b> <b>Social Sciences</b>	<b>D</b> <b>Humanities</b>	

Sep.13, Mon		Day 2					
Time(JST)	min.	Event	Speakers, note				
15:00 ~ 18:00  <b>(16:30) ~ 18:00</b>  (Including Break Time)	180  <b>(90)</b>	<b>Group Sessions in four specialized fields</b>  (participants are divided into 4 sessions)  organized by instructors	A <b>Medical Sciences</b>  16:30 start	B <b>Natural Sciences</b>	C <b>Social Sciences</b>	D <b>Humanities</b>	
Break Time (Preparing Time)	15						
18:15 ~ 19:00	45	<b>Closing Session (All Participants)</b>  Resulting Presentation/ Wrapping up/ Closing	<b>【Moderator : Prof.Michigami(NU)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Resulting Presentation by AtoD Representative (5 minutes each)</li> <li>• Closing Remarks from the representative of the 3rd Japan- Russia Student Forum</li> <li>• Closing Remarks (Prof.Michigami)</li> </ul>				G3



## Japan-Russia Student Union



**The 3<sup>rd</sup> Japan-Russia Student Forum**

Daiki Kuriyama  
Niigata University

Ekaterina Zimakova,  
Moscow State University

16th September 2021



## Japan-Russia Student Union



**Platform for student cooperation and youth interaction, created by the universities of Japan and Russia**

**Our Vision:**

Increasing the number of people who are interested in studying or working in Russia/Japan

**Our Aim:**

Improving relationship between Japan and Russia by enhancing educational, cultural and science exchange



## Japan-Russia Student Union



**For youth Japan and Russian friends  
education, science, professional growth, social adaptation,  
cultural and personal development**



新潟大学  
NIIGATA UNIVERSITY

- ✓ students, 54 universities;
- ✓ geographic and interregional character;
- ✓ interaction with the authorities of both countries and international organizations;
- ✓ cultural exchange, meetings and events with foreign students;
- ✓ language practice;
- ✓ help in social adaptation;
- ✓ scientific research;
- ✓ technical help and economic development;
- ✓ sports activities.

## Student Forums






Japan-Russia Student Forum 2018



Russia-Japan Student Forum 2019



Japan-Russia Student Forum 2021  
(online)

<p><b>Preview</b> in Vladivostok, Russia</p> <p>Sep, <b>2017</b></p>	<p><b>1st</b> in Hokkaido, Japan</p> <p>May, <b>2018</b></p>	<p><b>2nd</b> in Moscow, Russia</p> <p>Sep, <b>2019</b></p>	<p><b>3rd</b> in online format</p> <p><b>2021</b></p>
--	--	---	---

## Zoom-meetings of JRSU

**Self-isolation can bring us closer together**

**MONTHLY MEETINGS**

**COVID-19**



**Changes in COVID-19**



**Ecology**



**JAPAN-RUSSIA STUDENT UNION**

ENVIRONMENTAL PROBLEMS AND SOLUTIONS IN RUSSIA AND JAPAN



**Business**



## The 3<sup>rd</sup> Japan-Russia Student Forum

**Cultural exchange**

**Culture/  
Food Culture**

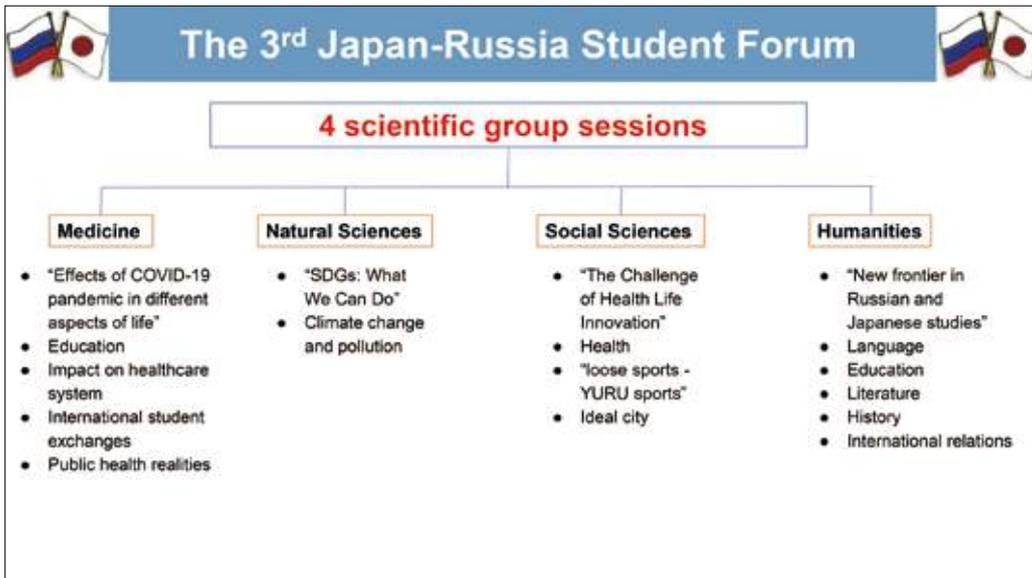
- Russian stolovaya and Japanese family restaurant
- Borsch and Zoni
- My cooking challenge
- Ramadan challenge
- Indigenous people of the Russian Federation

**Region/  
Global Issues**

- Sapporo tourist attractions
- Saint-Petersburg state university of culture and arts
- Space medicine
- Russian medical education
- Nuclear disarmament from a gender perspective realized with civil society

**Student Activity**

- Okoto - Japanese instrument
- Niigata University International Volunteer Circle
- J-Anime meeting
- Study and job experience in Japan
- PR of Japan-Russia Student Forum



## Results of the 3<sup>rd</sup> Japan-Russia Student Forum

- 57 universities**
  - 21 universities from Japan
  - 36 universities from Russia
- 100 participants**
- Learned different cultures, experience, perspectives, ideas**
- Participants all had a great time**



## Future plans of JRSU



Community



Data



Projects



Activities

**Key tasks & expected results:**

- Making JRSU a stable association
- Developing the website
- Agree Charter of JRSU
- Creating specialized committees including scientific field.





# JRSU Charter



Main provisions of JRSU

7 Chapters

18 Articles



**Japan-Russia Student Union Regulations**

**Table of Contents**

- Chapter 1: General Provisions (Articles 1 to 5)
- Chapter 2: Membership (Articles 6 and 7)
- Chapter 3: Governing Body (Articles 8 to 12)
- Chapter 4: Form of Activities (Article 13)
- Chapter 5: Japan-Russia Student Forum (Articles 14 to 16)
- Chapter 6: Amendment (Article 17)
- Chapter 7: Miscellaneous Provisions (Article 18)
- Supplementary Provisions

**Chapter 1: General Provisions**

**Article 1 (Organization and Name)**

1. The Japan-Russia Student Union (hereinafter, "the Union") is a union of students of member universities of the Association of Japanese and Russian Universities and related parties.
2. The names "Japan-Russia Student Union" and "Russia-Japan Student Union" are equivalent.

**Article 2 (Purpose)**

The Union will engage in activities for the following purposes:

- (1) To deepen exchange between Japanese and Russian students;
- (2) To increase the number of students interested in Japanese and Russian culture, technology, narrowly focused and interdisciplinary research;
- (3) To serve as a platform for Japanese and Russian students to submit proposals to universities and government agencies, etc.

**Article 3 (Location)**

The location of the Union in Japan shall be Hokkaido University (Nishi 5-chome, Kita 8-jo, Kita-ku, Sapporo City), and the location in Russia shall be Lomonosov Moscow State University (Russian Federation, Moscow, Leninskiy Gory, 1, Lomonosov Moscow State University).

## Japan-Russia Student Union










## Thank you very much!

2021

2022年2月2日(水)午後、「令和3年度大学の世界展開力強化事業(ロシア) 事業総括報告会」を開催しました。文部科学省の平成29(2017)年度「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～」の補助事業期間が2021年度にて終了することから、本会議は、5ヶ年度の事業成果を振り返るとともに、社会のニーズに根差した大学の日露人材育成の方向性を検討し、その推進のために有益となる情報やノウハウを共有することを目的として実施されました。

新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響により、事業5ヶ年度の締めくくりとなる今年度も、昨年度の活動状況報告会に引き続きオンラインでの開催となりましたが、日露交流を行う国内の大学21機関から79名、文部科学省から4名、日露関係機関6機関から7名、自治体・企業等10機関から11名、計101名が本報告会に参加しました。

報告会の前半では、北海道大学横田理事・副学長の開会挨拶、文部科学省岸本高等教育国際戦略プロジェクトチームリーダーの来賓挨拶の後、交流推進プログラム(タイプA)として採択された8大学(千葉大学、東京外国語大学、東京工業大学、金沢大学、長崎大学・福島県立医科大学、東海大学、近畿大学)による7事業の成果や補助事業終了後の展望について発表が行われました。各大学からは、ダブルディグリープログラムの構築、短期プログラム参加を経て正規課程留学に発展した事例、民間企業と連携した互恵的なインターンシッププログラムの実施、コンソーシアム・同窓会設立による日露間ネットワークの強化といった成果につき言及がありました。また、プラットフォーム構築プログラム(タイプB)として採択された北海道大学・新潟大学より、補助事業期間終了後も引き続き維持するプラットフォーム機能についての説明が行われました。

また、報告会の後半では、東京外国語大学による民間企業との協働インターンシッププログラム「J-Anime meeting in Russia」が紹介されるとともに、参加した学生・企業からプログラム参画を通じて得た成果につき発表があり、社会が求める人材を大学で養成していくことの意義を共有しました。続いて、北海道大学が、日露人材育成プログラム自走化の事例紹介に加え、現在進行中の文部科学省委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」について発表を行い、キャリアパスも含めた留学生への体系的支援や、大学を超えた同窓生のネットワーク構築といった長期的な人材育成の重要性に触れました。

文部科学省からは、各大学の事業において日露学生の共修、大学・企業・地域の連携、インターンシップといった社会活動への学生の参画が実現しており、大学の世界展開力強化

事業の今後のモデルとなり得る、補助事業終了後も日露間交流促進を期待したい、といったコメントがありました。

総計で1,000名を超える日露間の学生交流を通じて各大学が培ったノウハウやネットワークを財産として、補助事業期間終了後も大学間で連携し各事業の継続に取り組んでいく意思を参画者間で共有し、報告会は盛況のうちに終了しました。

## 概要

開催日 2022年2月2日(水) 14:00～16:15

開催形態 オンライン形式(Zoom)

言語 日本語

時間	プログラム
14:00-14:05	開会挨拶 北海道大学 理事・副学長 横田 篤
14:05-14:10	来賓挨拶 文部科学省高等教育局主任視学官 高等教育国際戦略プロジェクトチームリーダー 岸本 織江
14:10-15:05	平成29年度タイプA採択校の発表 (5年間の総括と今後の展望) ・各大学より、報告会後半のテーマの観点に触れていただきつつ、事業5年間の成果を総括いただく。  (司会進行) 北海道大学国際連携機構副機構長・教授 川野辺 創  (7分以内×7) ・ 千葉大学 園芸学研究院 教授 高垣 美智子 ・ 東京外国語大学 総合国際学研究院 教授 沼野 恭子 ・ 東京工業大学 生命理工学院 教授 梶原 将 ・ 金沢大学 国際機構 准教授 MAMMADOVA Aida ・ 長崎大学・福島県立医科大学 長崎大学医歯薬学総合研究科 教授 高村 昇 ・ 東海大学 語学教育センター 所長・教授 山本 佳男 ・ 近畿大学 グローバルエデュケーションセンター 特任講師 松下 聖

時 間	プログラム
15:05-15:20	<p>HaRP事業 (平成29年度タイプB) の総括と補助事業終了後の運営について</p> <p>(7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道大学・新潟大学 北海道大学国際連携機構 副機構長・教授 川野辺 創</li> </ul> <p>(8分)</p> <p>質疑応答</p>
15:20-16:05	<p>発表・意見交換</p> <p>テーマ:ロシア専門人材育成の長期的展望について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界展開力強化事業における人材育成活動の成果をどのように捉え、分析するか。以下の観点から発表・意見交換を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ーロシアにおける専門家養成やそれによる人的ネットワークの強化</li> <li>ー日本で活躍するロシア高度人材の育成 (産官学連携の観点含む)</li> <li>ーロシア人留学生との共修環境提供による日本人学生への好影響 (グローバル人材育成)</li> </ul> </li> </ul> <p>(モデレーター)</p> <p>北海道大学工学研究院 研究院長・教授 瀬戸口 剛</p> <p>(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表1: J-Anime meeting in Russia におけるインターンシップ活動 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 特任教授 新井 滋 国際社会学部 4年生 香春 汐里</li> </ul> <p>(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表2: ロシア人材育成に資する取組紹介 (RJE3プログラム・日本留学海外拠点連携推進事業等) 北海道大学ロシアモスクワオフィス 所長・教授 加藤 博文</li> </ul> <p>意見交換</p>
16:05-16:15	文部科学省からのコメント・参加者との意見交換
16:15	閉会

参加機関 計38機関より101名

・関係省庁(1機関4名)

文部科学省

・高等教育機関(21機関より79名)

2017(平成29)年度採択校(タイプA):千葉大学、東京外国語大学、東京工業大学、金沢大学、長崎大学・福島県立医科大学、東海大学、近畿大学

2017(平成29)年度採択校(タイプB):北海道大学・新潟大学

2014(平成24)年度採択校(タイプA):筑波大学、東京大学

その他関係大学:名古屋大学、神戸大学、上智大学、創価大学、南山大学、京都外国語大学、東京農業大学、長岡技術科学大学、立教大学

・日露関係機関(6機関より7名)

在ロシア日本大使館、日露青年交流センター、日本貿易振興機構(JETRO)、日ロ交流協会、モスクワ日本センター、ウラジオストク日本センター

・自治体・企業等(10機関より11名)

北海道、京セラドキュメントソリューションズロシア、双日株式会社、豊田通商株式会社、日本映像翻訳アカデミー株式会社、プライスウォーターハウスクーパース ロシア、三井物産、JOGMEC、NEC NEVA Communications Systems、SBI バンク



東京外国語大学による発表(上段左から:新井教授、学生の香春さん)  
北海道大学による発表(下段左から:モデレーターの瀬戸口教授、加藤モスクワオフィス長)



# 資料 1

## HaRP事業5年間の活動一覧表

---

2017年度 - 2021年度

## HaRP 5年間の活動一覧

2017年度	北海道大学と新潟大学が平成29年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～(タイプBプラットフォーム構築プログラム)」に共同申請し、採択される。
2018年5月	第1回日露大学協会総会、日露学生フォーラム、日露人社フォーラムを開催
2019年2月	第1回日露産官学連携実務者会議を開催 第1回日露人材交流委員会を開催 (於:筑波大学東京キャンパス)
5月	モスクワ国立大学内に北海道大学・モスクワ国立大学共同オフィスの開設
6月	第2回日露人材交流委員会を開催(於:北海道大学東京オフィス)
9月	第2回日露大学協会総会、日露学生フォーラムを開催 日露学術フォーラムを開催 第3回日露人材交流委員会を開催 (於:モスクワ国立大学)
2020年1月	第2回日露産官学連携実務者会議を開催 第4回日露人材交流委員会を開催 (於:筑波大学東京キャンパス)
2020年8月	専門セクション「エネルギー開発」を「SDGs:環境・資源開発・多文化教育」へ改編
11月	第5回日露人材交流委員会を開催
2021年1月	第6回日露人材交流委員会を開催 第3回日露産官学連携実務者会議を開催
6月	第7回日露人材交流委員会を開催
9月	第8回日露人材交流委員会を開催
9月	第3回日露大学協会総会、日露学生フォーラムを開催 日露学術フォーラムを開催
2022年2月	令和3年度大学の世界展開力強化事業(ロシア)事業総括報告会を開催
3月	第9回日露人材交流委員会を開催

# 資料 2

## HaRP事業5年間における推移

---

2017年度 - 2021年度

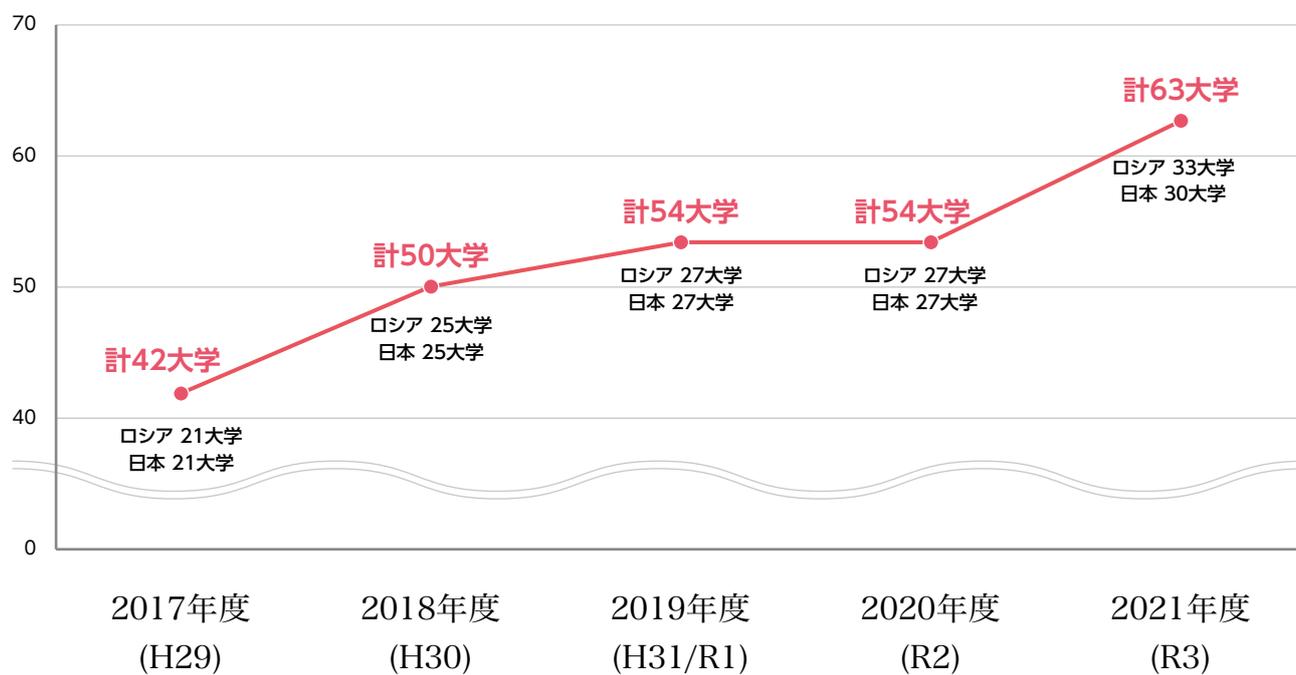
## HaRP事業5年間の推移(一覧表)

	項 目	2017年度(H29)	2018年度(H30)
1	日露大学協会加盟校数	42大学(日本側21大学、ロシア側21大学)	50大学(日本側25大学、ロシア側25大学)
2	専門セッション参画者数(延べ人数)	専門セッション発足前	1. 医療健康6名(6大学) 2. 都市づくり6名(4大学) 3. 中小企業6名(4大学) 4. エネルギー4名(3大学) 5. 産業多様化促進2名(7大学) 6. 極東の産業振興9名(7大学) 7. 先端技術協力9名(7大学) 8. 言語・文化・観光14名(11大学)
3	日露学生フォーラム参加者数	開催なし	34名(日本:19名、ロシア:15名)
4	実務者会議参加数 (参加者、参加機関の数と内訳)	48名(採択校報告会) 関係省庁:文部科学省、日本学術振興会 H26年度世界展開力採択校5校:東北大学、筑波大学、東京大学、新潟大学、北海道大学 H29年度世界展開力採択校8校:千葉大学、東京外国語大学、東京工業大学、金沢大学、長崎大学、福島県立医科大学、東海大学、近畿大学	98名 関係省庁:文部科学省、経済産業省 H26年度世界展開力採択校5校:東北大学、筑波大学、東京大学、新潟大学、北海道大学 H29年度世界展開力採択校8校:千葉大学、東京外国語大学、東京工業大学、金沢大学、長崎大学、福島県立医科大学、東海大学、近畿大学 日露大学協会加盟校(神戸大学、広島大学、上智大学、南山大学、神戸学院大学) 専門セッション参画校(室蘭工業大学、小樽商科大学、長岡技術科学大学、大阪大学) ロシアの大学(モスクワ国立大学、太平洋国立大学、クラスノヤルスク医科大学、極東連邦大学、イルクーツク国立大学、サハリン国立大学、北東連邦大学) 企業・自治体・団体等(株式会社日建設計総合研究所、Manto Man株式会社、双日株式会社、日本たばこ産業株式会社、ピー・ジェイ・エル株式会社、株式会社ジャパン・エア・トラベル・マーケティング、TTTアブロードアカデミー、ジェーアイシー旅行センター株式会社) 自治体・団体等:経済産業省北海道経済産業局、北海道、愛知県、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所、独立行政法人日本貿易振興機構、NPO法人日本・ロシア協会青年部、NPO法人日本サハリン協会
5	HPに掲載した(案内)イベント数	0	5
6	日露大学協会主催の学術交流イベント参加者数	0	149名 人文社会フォーラム、 第1回日露大学協会総会「医療健康」分科会、 第1回日露産官学連携実務者会議

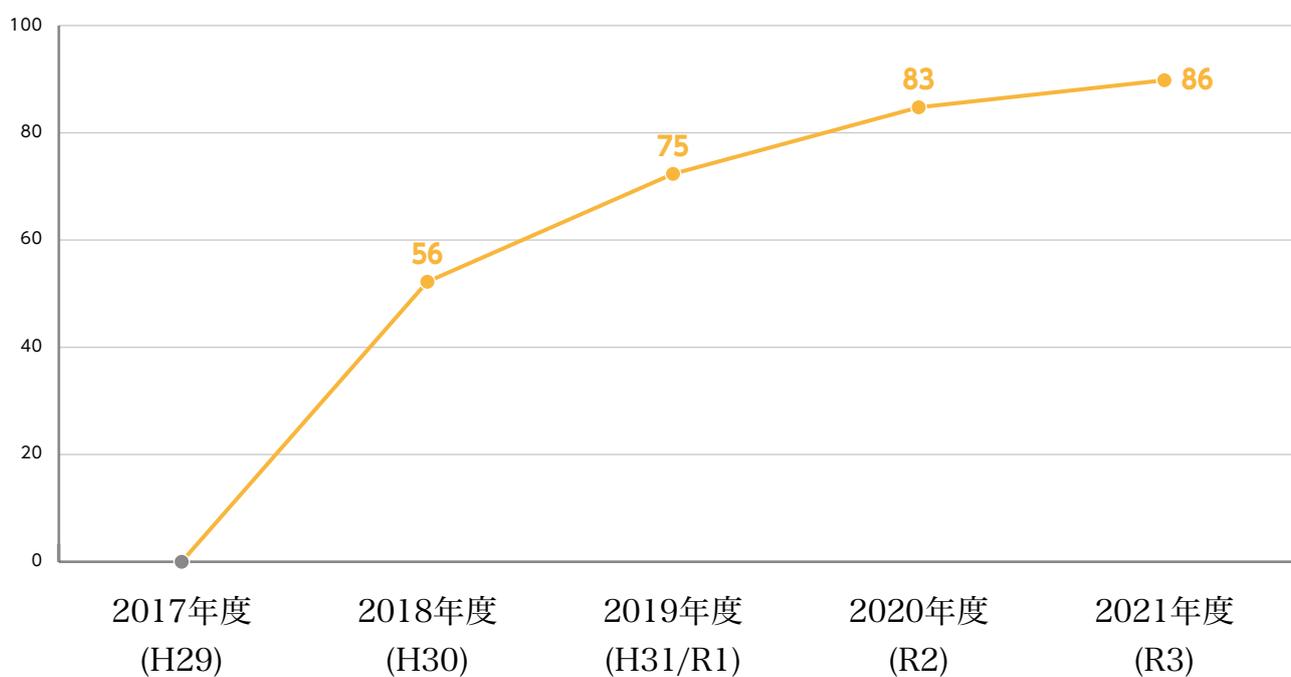
2019年度(H31/R1)	2020年度(R2)	2021年度(R3)
54大学(日本側27大学、ロシア側27大学)	54大学(日本側27大学、ロシア側27大学)	63大学(日本側30大学、ロシア側33大学)
1. 医療健康6名(6大学) 2. 都市づくり10名(5大学) 3. 中小企業10名(6大学) 4. エネルギー5名(3大学) 5. 産業多様化促進5名(3大学) 6. 極東の産業振興10名(7大学) 7. 先端技術協力11名(7大学) 8. 言語・文化・観光18名(12大学)	1. 医療健康7名(7大学) 2. 都市づくり9名(5大学) 3. 中小企業5名(4大学) 4. SDGs16名(6大学) 5. 産業多様化促進6名(3大学) 6. 極東の産業振興10名(7大学) 7. 先端技術協力9名(6大学) 8. 言語・文化・観光21名(14大学)	1. 医療健康7名(7大学) 2. 都市づくり8名(5大学) 3. 中小企業4名(4大学) 4. SDGs17名(6大学) 5. 産業多様化促進7名(3大学) 6. 極東の産業振興11名(7大学) 7. 先端技術協力11名(7大学) 8. 言語・文化・観光21名(14大学)
57名(日本:30名、ロシア:27名)	開催なし	128名(日本側:21大学、ロシア側31大学)
163名 関係省庁、大使館、通商代表部:文部科学省、外務省、経済産業省、在日ロシア連邦大使館、在日ロシア連邦通商代表部 日本の大学、高等教育機関 <大学の世界展開力強化事業(ロシアとの交流)> 平成29年度採択校:千葉大学、東京外国語大学、東京工業大学、金沢大学、長崎大学、福島県立医科大学、東海大学、近畿大学 平成26年度採択校:筑波大学、東京大学、新潟大学、北海道大学 (日露大学協会加盟校) 名古屋大学、神戸市外国語大学、上智大学、創価大学、南山大学 (専門セクション参画校) 札幌大学、長岡技術科学大学 (その他) 長岡工業高等専門学校、ロシアの大学 (日露大学協会加盟校) モスクワ国立大学、アルタイ国立大学、極東連邦大学、イルクーツク国立大学、カザン連邦大学、クラスノヤルスク国立医科大学、ノヴォシビルスク国立大学、セチェノフ第一モスクワ国立医科大学、サハリン国立大学、北東連邦大学、北方(北極圏)連邦大学、太平洋国立医科大学、太平洋国立大学 (その他の大学) アストラハン国立大学、ヴォルゴグラード国立大学、極東国立農業大学、極東国立交通大学、ドン国立工科大学、イルクーツク国立研究工科大学、モスクワ市立教育大学、モスクワ国立言語大学、モスクワ測地学・地図作成大学、ベルミ国立大学、ロシア民族友好大学、サンクトペテルブルク国立文化大学、サンクトペテルブルク国立工科大学、北西国立医科大学、トムスク国立工科大学、ウラル連邦大学、チェリャビンスク国立大学 日本の企業、自治体、団体等 (企業等) 日本映像翻訳アカデミー株式会社、株式会社テクノソリューションズ、双日ツーリスト株式会社、東京貿易マシナリー株式会社、三井物産株式会社、GPSSホールディングス株式会社、株式会社明神館、ソプリインターナショナルソリューションズ、サステイメント株式会社、株式会社J&Jヒューマンソリューションズ、川崎重工株式会社、自営業(自治体、団体等) 一般社団法人ロシアNIS貿易会(ROTOBO)、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、公益財団法人環日本海経済研究所、(日露アンチエイジング医学会) *オポーラロシア全国中小企業連盟協会からの参画者 ロシアの企業、団体等 オポーラ・ロシア全国中小企業連盟協会、財団「ウリヤノフスク・文化の首都」、文化情報センター「日本」、ヤクート農業研究所(ロシア科学アカデミーシベリア支部)、サハ共和国議会、サハ共和国農業局、国営企業サハ共和国貴金属及び宝石委員会、レストラン「Rekaozeroles(川・湖・森)」	185名 参加機関 【日本の機関※】(約80名) ・関係省庁:文部科学省、経済産業省 ・高等教育機関:(日露大学協会加盟校)金沢大学、近畿大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、信州大学、創価大学、千葉大学、筑波大学、東海大学、東京外国語大学、東京工業大学、東京農業大学、長崎大学、南山大学、新潟大学、広島大学、福島県立医科大学、北海道大学 (その他の大学) 愛知県立大学、小樽商科大学、慶應義塾大学、国際教養大学、東京大学、長岡技術科学大学、日本経済大学 ・企業・自治体等:北海道、日本貿易振興機構、双日株式会社、NTTロシア、三井物産(株)、自営業、ほか ※大学の世界展開力強化事業採択校活動状況報告会参加機関を含む 【ロシアの機関】(約105名) ・関係省庁:ロシア連邦高等教育科学省、在日ロシア連邦大使館 ・高等教育機関:(日露大学協会加盟校)モスクワ国立大学、太平洋国立大学、アルタイ国立大学、極東連邦大学、北東連邦大学、北方(北極圏)連邦大学、イルクーツク国立大学、サハリン国立大学、太平洋国立医科大学、南方連邦大学 (その他の大学) アストラハン国立大学、アルタイ国立工科大学、アルメチエフ国立石油大学、ヴォルゴグラード国立大学、ウリヤノフ国立大学、ウラル連邦大学、カザン連邦大学、極東国立交通大学、極東国立農業大学、クラスノヤルスク国立医科大学、高等経済学院、クズバス国立工科大学、サフト国立大学、サンクトペテルブルク国立経済大学、サンクトペテルブルク国立建築土木学、サンクトペテルブルク国立文化大学、サンクトペテルブルク国立大学、シベリア国立大学、シベリア国立科学技術大学、セチェノフ第一モスクワ国立医科大学、チェリャビンスク国立大学、チュメニ国立大学、トムスク国立制御システム無線電子工科大学、トムスク国立大学、ドン国立工科大学、ニジニノヴゴロド国立言語大学、ノヴォシビルスク国立医科大学、ノヴォシビルスク国立建築土木学、ハバロフスク国立経済法科大学、ベルミ国立工科大学、北西国立医科大学、北極圏国立農工大学、モスクワ市立教育大学、モスクワ国立言語大学、ムルマンスク国立工科大学、ロシア大統領府附属ロシア国民経済行政学アカデミー、MISIS国立研究工科大学 ・行政機関・地方公共団体・研究機関・企業等:ロシア連邦交流庁、サハ共和国対外関係・先住民局、サンクトペテルブルク市科学高等教育委員会、極東連邦農業バイオテクノロジー研究センター、ヤクート農業研究所、ロシア科学アカデミーシベリア支部北方圏生物問題研究所、露日協会チェリャビンスク支部、LLCUNIQORUSSIA、Robowizard/KawasakiRobotics ・日本の在外公館、大学の事務所(ロシア・CIS諸国)在エジノサハリンスク日本国総領事館、名古屋ウズベキスタン事務所	101名(事業総括報告会) ・関係省庁(1機関4名) 文部科学省 ・高等教育機関(21機関より79名) 2017(平成29)年度採択校(タイプA):千葉大学、東京外国語大学、東京工業大学、金沢大学、長崎大学・福島県立医科大学、東海大学、近畿大学 2017(平成29)年度採択校(タイプB):北海道大学・新潟大学 2014(平成24)年度採択校(タイプA):筑波大学、東京大学 その他関係大学:名古屋大学、神戸大学、上智大学、創価大学、南山大学、京都外国語大学、東京農業大学、長岡技術科学大学、立教大学 ・日露関係機関(6機関より7名) 在ロシア日本大使館、日露青年交流センター、日本貿易振興機構(JETRO)、日ロ交流協会、モスクワ日本センター、ウラジオストク日本センター ・自治体・企業等(10機関より11名) 北海道、京セラドキュメントソリューションズロシア、双日株式会社、豊田通商株式会社、日本映像翻訳アカデミー株式会社、ブライスイウォーターハウス クーパーズ ロシア、三井物産、JOGMEC、NEC NEVA Communications Systems、SBI バンク
6	25	44
263名 学術フォーラム、 第2回日露産官学連携実務者会議	473名 円卓会議「日露の大学・企業・地方自治体間のパートナーシップ」、オンライン会議「コロナ禍における日露国際教育交流の実践」、Global ecosystem and environmental changes in the Arctic、第3回日露産官学連携実務者会議	449名 円卓会議「ロシア語通訳・翻訳養成及び語学教育における日露連携」、医療学術フォーラム、日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」、オンラインセミナー「日露高等教育における先住民の言語と文化」、オンラインワークショップ「子どもの健康と成長」、日露オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」、「Japan-Russia Scientific Forum on Medical Education」

## HaRP事業5年間における推移

## 1. 日露大学協会加盟校数



## 2. 専門セッション参画者数(延べ人数)



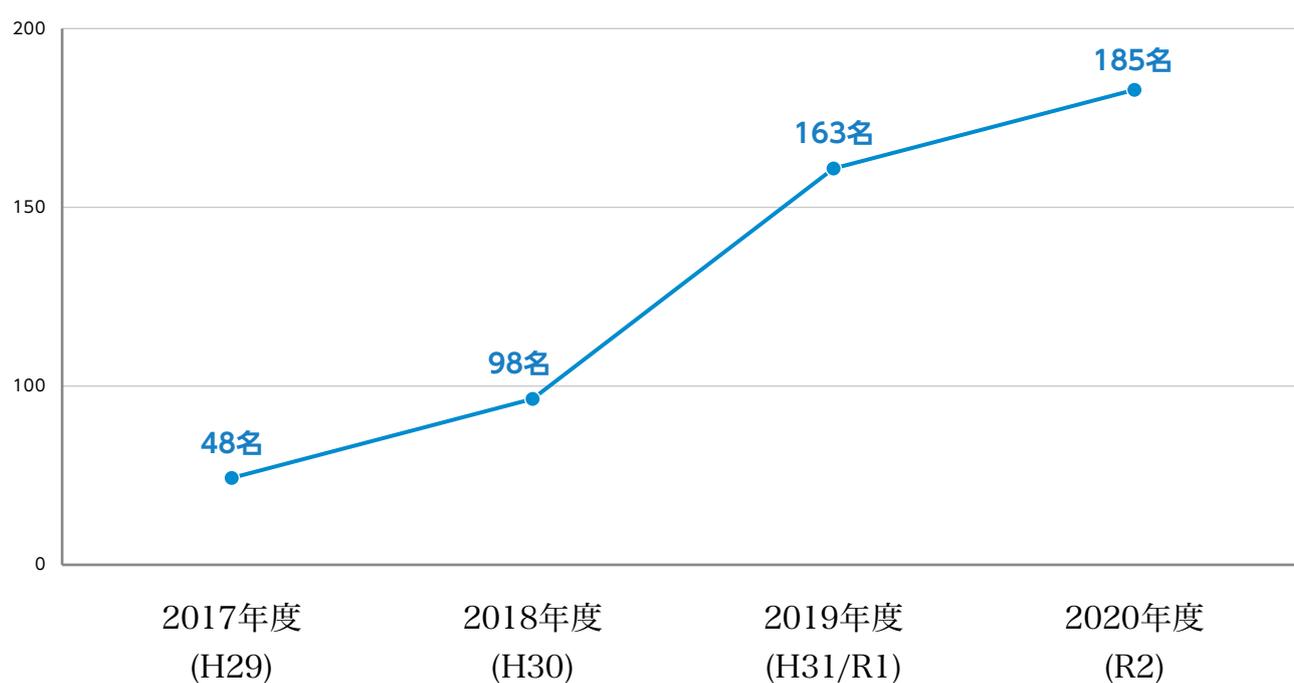
専門セッション発足前のため参画者なし

## HaRP事業5年間における推移

## 3. 日露学生フォーラム参加者数 ※1年半～2年に1度開催

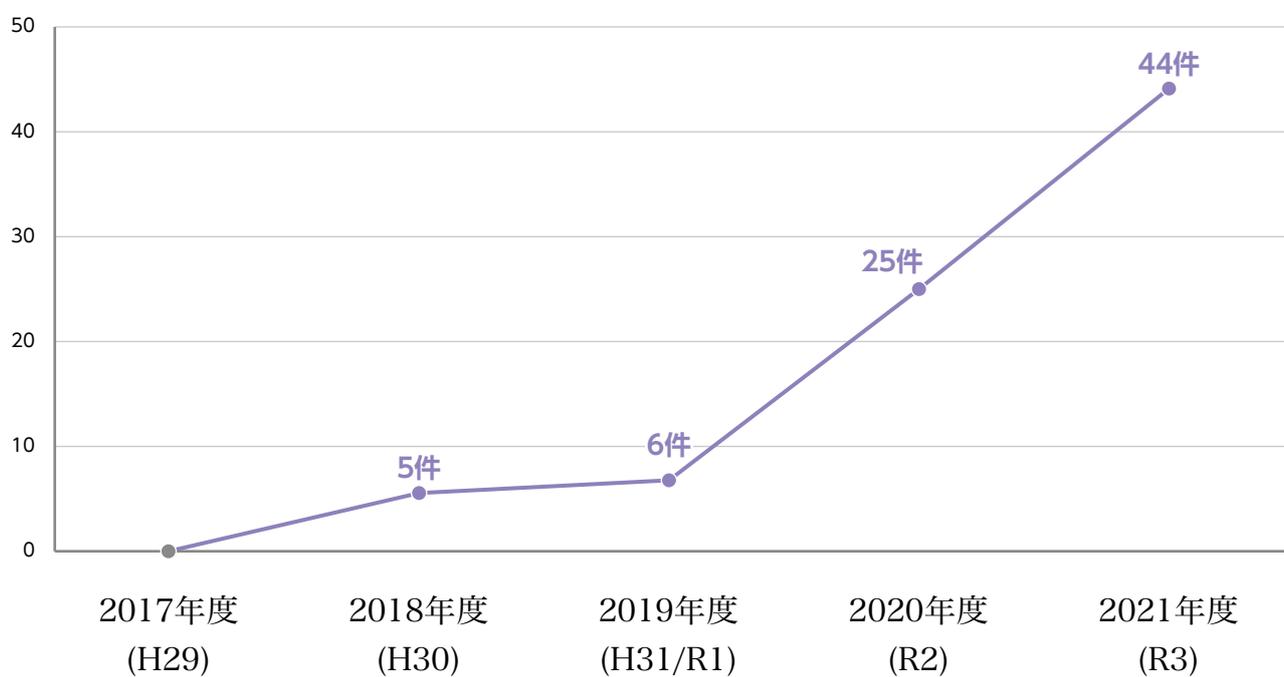


## 4. 実務者会議参加数 ※2017年度(H29)は採択校報告会、2021年度(R3)は事業総括報告会を開催



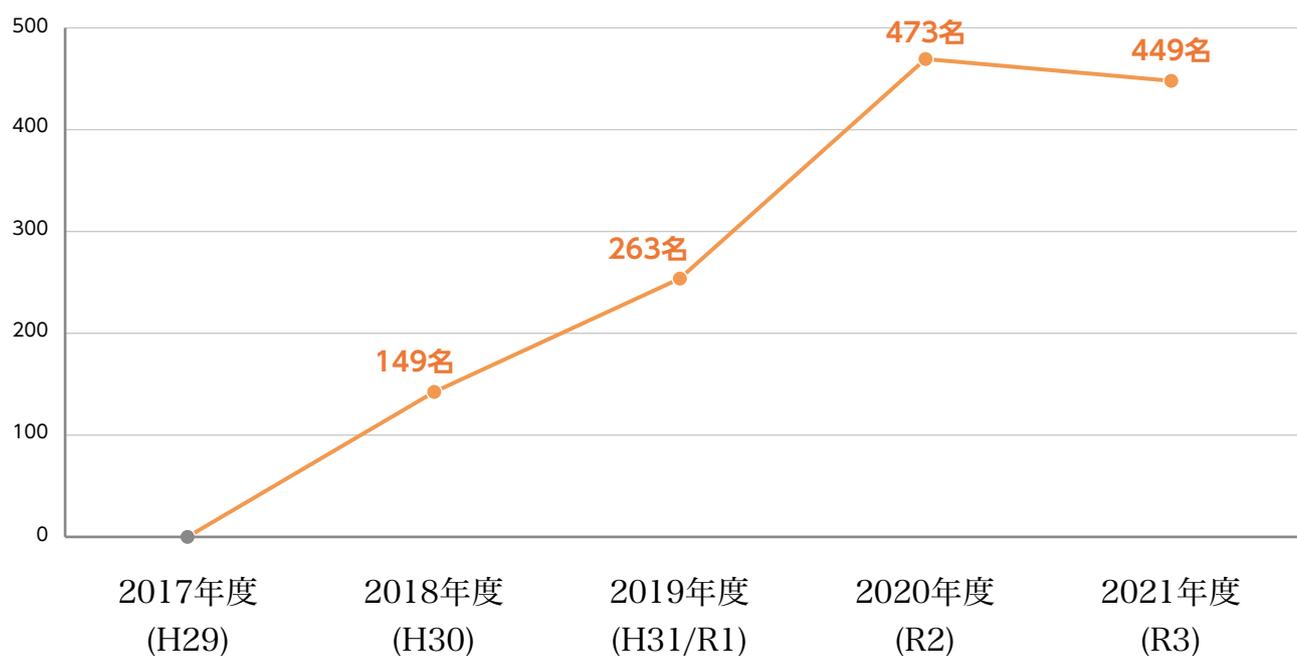
## HaRP事業5年間における推移

## 5. HPに掲載した(案内)イベント数



事業採択年度につき該当なし

## 6. 日露大学協会主催の学術交流イベント参加者数



事業採択年度につき該当なし

## HaRP事業主催・共催の学術交流セミナー等開催実績（2018年5月 専門セッション設立以降）

年度	開催時期	活動名	活動分野	実施主体	参加者数	参加者数の内訳詳細	年度計	
2018	1	2018年 5月20日	第1回日露大学協会総会 人文社会フォーラム	専門セッション --関係セッション-- 全セッション	日露大学協会	35		【活動】 4件  【参加者】 299名
	2	2018年 5月20日	第1回日露大学協会総会 「医療健康」分科会	専門セッション --関係セッション-- [1: 医療健康]	日露大学協会	16		
	3	2018年 11月 9-10日	日露医学医療シンポジウム2018	専門セッション --関係セッション-- [1: 医療健康]	新潟大学、公益財団法人 日露医学医療交流財団、 HaRP事業	150	ロシア人研究者等約60人を含む 150人以上	
	4	2019年 2月28日	第1回日露産官学連携実務者会議	人材交流委員会 専門セッション --関係セッション-- 全セッション	HaRP事業、日露大学協会	98	日本22大学、ロシア7大学、文部 科学省、経済産業省、企業・団体 等17の機関・団体から計98名	
2019	1	2019年 9月24日	第2回日露大学協会総会 学術フォーラム	専門セッション --関係セッション-- 全セッション	日露大学協会	100		【活動】 4件  【参加者】 352名
	2	2020年 1月30日	先端技術協力セッション連絡会・ 日露情報交換会	専門セッション --関係セッション-- [7: 先端技術協力]	HaRP事業(北海道大学)、 金沢大学	60	日本6大学7組織(企業・行政機関 等)から24名、ロシア22大学3組 組織(NGO等)から36名、計60名	
	3	2020年 1月31日	第2回日露産官学連携実務者会議	人材交流委員会 専門セッション --関係セッション-- 全セッション	HaRP事業、日露大学協会	163	日本38機関より97名、ロシア40 機関より66名、計163名	
	4	2020年 2月21日	ロシア語通訳・翻訳専門家育成に 関する連絡会・意見交換会	専門セッション --関係セッション-- [8: 言語・文化・観光]	HaRP事業(北海道大学)	29	日本側大学(7校)、ロシア側大学 (3校)、在札幌ロシア連邦総領事 館、経済産業省北海道経済産業 局、北海道庁、企業関係者、NGO 関係者等計29名	
2020	1	2020年 9月25日	円卓会議「日露の大学・企業・ 地方自治体間のパートナーシップ	専門セッション --関係セッション-- [1: 医療健康] [3: 中小企業交流] [5: 産業多様化促進]	アルタイ国立大学、HaRP事 業(北海道大学)、日露大学 協会	130	日露の大学(ロシア側36校・日本 側7校)、企業(日本側5社)、シンク タンク(日本側2団体)、地方自治 体含む政府機関(ロシア側3機関・ 日本側2機関)から約130名	【活動】 8件  【参加者】 943名
	2	2020年 9月30日	オンライン寒冷地セミナー 「北方圏における日露連携」	専門セッション --関係セッション-- [2: 都市づくり] [3: 中小企業交流] [4: SDGs:環境・資源開発・ 多文化教育] [5: 産業多様化促進] [6: 極東産業振興]	北東連邦大学、HaRP事業 (北海道大学)	140	日露の大学(ロシア側20校、日本 側9校)、企業(日本側2社)、シンク タンク(日本側2団体、ロシア側4団 体)、NGO(ロシア側1団体)、地方 自治体含む政府機関(ロシア側3 機関)から、主に寒冷地研究・寒冷 地の開発に携わる研究者、実務 者、学生等、約140名	
	3	2020年 10月9日	オンライン円卓会議 「日露の大学・企業による共同人材 育成事業－課題と展望」	専門セッション --関係セッション-- 全セッション(特に以下のセ クション) [3: 中小企業交流] [5: 産業多様化促進] [6: 極東産業振興]	ハバロフスク国立経済法科 大学、HaRP事業(北海道大 学)	90	日露の大学(日本側9校、ロシア側 16校)、企業(日本側4社、ロシア側 6社)、シンクタンク(日本側3団体、 ロシア側2団体)、NGO(日本側1 団体、ロシア側1団体)、地方自治 体含む政府機関(日本側3機関、ロ シア側5機関)から90名以上	
	4	2020年 11月20日	オンライン会議 「コロナ禍における日露国際教育交 流の実践」	人材交流委員会	HaRP事業、日露大学協会	128	日本側21大学より56名、ロシア側 30大学より72名、計128名	
	5	2020年 12月11日	Global ecosystem and environmental changes in the Arctic	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs:環境・資源開発・ 多文化教育]	モスクワ国立大学、日露大 学協会	30		

## HaRP事業主催・共催の学術交流セミナー等開催実績（2018年5月 専門セッション設立以降）

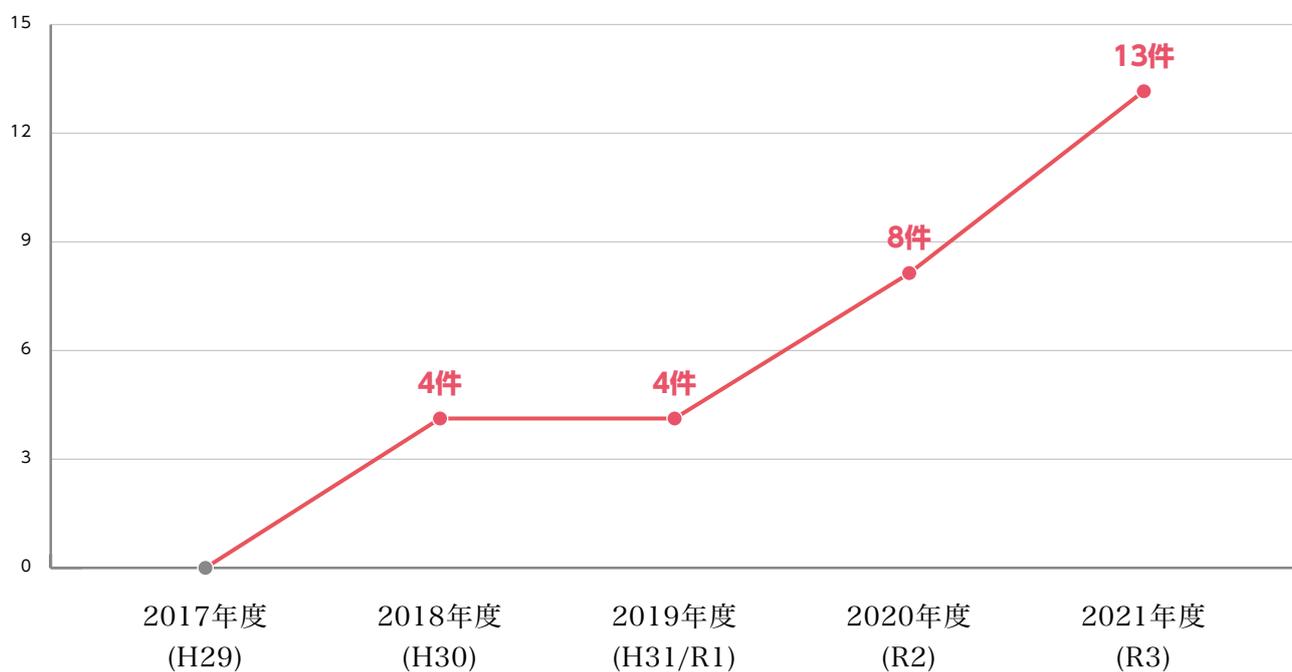
年度	開催時期	活動名	活動分野	実施主体	参加者数	参加者数の内訳詳細	年度計
2020	6 2021年 1月27日	第3回日露産官学連携実務者会議	人材交流委員会 専門セッション --関係セッション-- 全セッション	HaRP事業、日露大学協会	185	日本側31機関より約80名、ロシア側から57機関より約105名、計185名	
	7 2021年 2月 6-7日	国際ロシア語教育会議 「日本におけるロシア語教育：母語・継承語・外国語～若い世代の経験、課題、展望～」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育] [8: 言語・文化・観光]	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、HaRP事業(北海道大学)、日本ロシア語教育研究会、日本ロシア語学校教師会	130		
	8 2021年 3月3日	オンラインセミナー 「北極圏と北方圏における日露の地域間協力 - 理論と実践 -」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	北海道大学北極域研究センター、HaRP事業(北海道大学)、北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)、北極圏大学「アジアにおける北極圏・北極圏におけるアジア」分科会	110	日本、ロシア、フィンランド、ノルウェー、米国、カナダ、英国、中国、韓国から約110名	
2021	1 2021年 5月20日	円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」	専門セッション --関係セッション-- [8: 言語・文化・観光]	サンクトペテルブルク国立大学、HaRP事業(北海道大学)、日露大学協会	80	日本側11大学20名、ロシア側18大学36名、両国の学生3名、言語サービス・語学教育・コンサルティング等の企業10社や通訳13名、計80名以上	【活動】 13件 【参加者】 1,120名
	2 2021年 6月9日	オンラインワークショップ 「Multilevel Governance and Interregional Cooperation: Vol. 2 - The Barents Region」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	北海道大学北極域研究センター、HaRP事業(北海道大学)、北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)、北極圏大学「アジアにおける北極圏・北極圏におけるアジア」分科会、ノルウェー北極大学(UiT)	43	ロシア(18名)、日本(14名)、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンから43名(大学から32名、研究所から5名、在外公館を含む行政機関から5名、民間企業から1名)	
	3 2021年 6月21日	医療学術フォーラム	専門セッション --関係セッション-- [1: 医療健康]	HaRP事業(新潟大学)、日露大学協会、モスクワ国立大学	50	日露の大学や医療・研究機関などから約50名	
	4 2021年 9月14日	第3回日露大学協会総会 学術フォーラム 日露オンラインセミナー「持続可能な地域開発、国際協力、北極圏の環境保護」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	HaRP事業(北海道大学)、日露大学協会、モスクワ国立大学	110	ロシア、日本、フィンランド、ノルウェー、カナダ、インドネシア、ブルガリアから計約110名	
	5 2021年 9月15日	第3回日露大学協会総会 学術フォーラム オンラインセミナー「日露高等教育における先住民族の言語と文化」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	HaRP事業(北海道大学)、日露大学協会、モスクワ国立大学	65	日本、ロシア、スペイン、フィンランド、カナダから約65名	
	6 2021年 9月15日	第3回日露大学協会総会 学術フォーラム オンラインワークショップ「子どもの健康と成長」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	HaRP事業(北海道大学)、日露大学協会、モスクワ国立大学	30		
	7 2021年 9月15日	第3回日露大学協会総会 学術フォーラム 日露オンラインセミナー「生態系モニタリングにおける日露協力」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	HaRP事業(北海道大学)、日露大学協会、モスクワ国立大学	64	8か国から64名	
	8 2021年 9月15日	第3回日露大学協会総会 学術フォーラム Japan-Russia Scientific Forum on Medical Education	専門セッション --関係セッション-- [1: 医療健康]	HaRP事業(北海道大学)、日露大学協会、モスクワ国立大学	50	日本側大学関係者30名、ロシア側大学関係者20名、計50名	
	9 2021年 10月18日	国際オンラインセミナー「ロシア極東とアジア側の北極の発展に向けたアジア太平洋地域における越境地域間協力」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs: 環境・資源開発・多文化教育]	ハバロフスク国立経済法科大学、北海道大学北極域研究センター、HaRP事業(北海道大学)、北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)、北極圏大学「アジアにおける北極圏・北極圏におけるアジア」分科会	80	日本・ロシア・中国より参加者80名以上	

## HaRP事業主催・共催の学術交流セミナー等開催実績（2018年5月 専門セッション設立以降）

年度	開催時期	活動名	活動分野	実施主体	参加者数	参加者数の内訳詳細	年度計
2021	2021年 10月 23-24日	オンライン会議「バイリンガルの子どもたちの教育システム形成と教材作成」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs:環境・資源開発・多文化教育] [8: 言語・文化・観光]	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、日本ロシア語教育研究会、日本ロシア語学校教師会、HaRP事業(北海道大学)	113	世界のロシア語教師、研究者や学生など延べ113名	
	2021年 12月 8-9日	オンラインワークショップ「太平洋北極圏における持続可能なクルーズ産業の発展:過去の発展と将来の展望」	専門セッション --関係セッション-- [4: SDGs:環境・資源開発・多文化教育] [6: 極東産業振興] [8: 言語・文化・観光]	北極域研究共同推進拠点(J-ARC Net)、北海道大学北極域研究センター、HaRP事業(北海道大学)、北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)、北極圏大学「アジアにおける北極圏・北極圏におけるアジア」分科会、ロシア極東北極圏開発機構	234	1日目の参加者:122名、2日目:112名 ロシア、日本、ブルガリア、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、米国より学術関係者(13名の学生含む)、様々なレベルの政府機関、自然保護区、民間企業、NGOの代表者ら	
	2022年 1月20日	Russia-Japan Joint Mini-symposium on Plant Protection 2022	専門セッション --関係セッション-- [6: 極東産業振興]	HaRP事業(新潟大学)	100		
	2022年 2月2日	2021年度大学の世界展開力強化事業(ロシア)事業総括報告会	人材交流委員会 専門セッション --関係セッション-- 全セッション	HaRP事業	101	国内の大学21機関から79名、文部科学省から4名、日露関係機関6機関から7名、自治体・企業等10機関から11名、計101名	

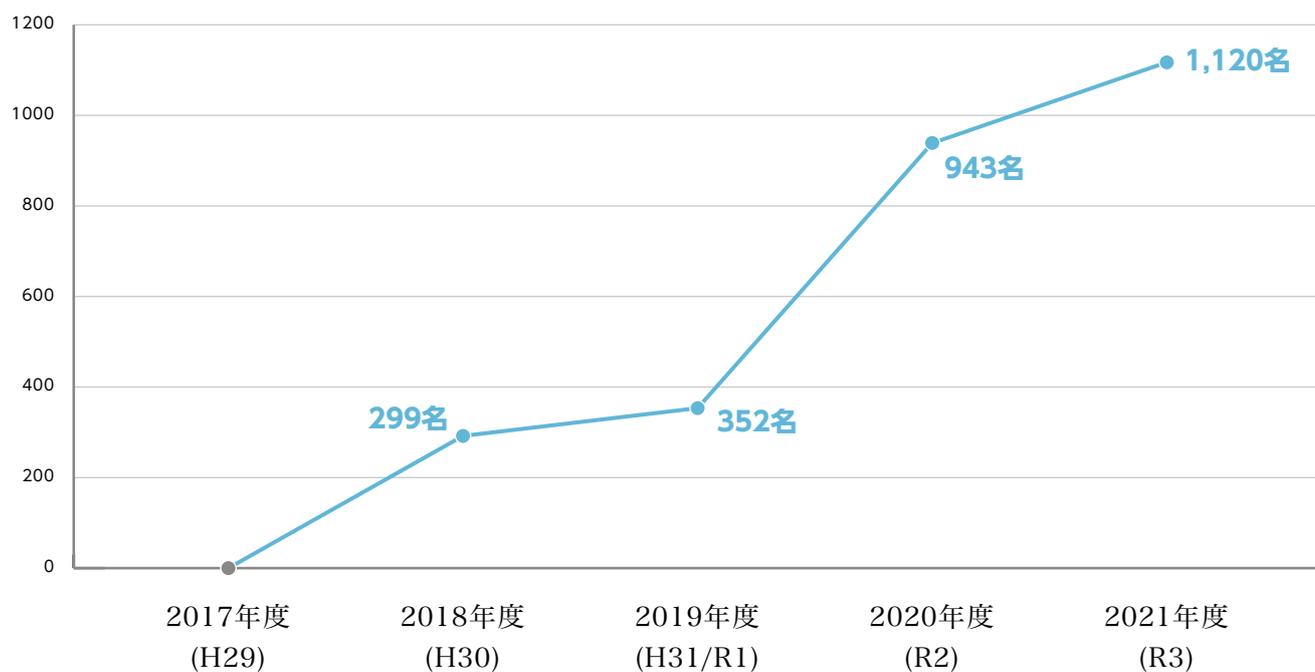
## HaRP事業主催・共催の学術交流セミナー等開催実績

## ・開催件数



専門セッション発足前のため開催無し

## ・合計参加者数



専門セッション発足前のため開催無し

# 付録 1

---

## 日露学生フォーラムアンケート結果

1. 「第3回日露学生フォーラム特設サイトについて」
2. 「第3回日露学生フォーラム特設サイトについて」の「Pre-Study Learning Materials for Students」サイトについて
3. 日露学生フォーラムの募集期間について
4. 日露学生フォーラムの期間について
5. 日露学生フォーラムの参加人数について
6. 9月12日の日露文化交流セッションで一番良かった点・面白かった分野
7. 日露学生フォーラム全体についてのコメント

## 日露学生フォーラムアンケート結果

### 1. 「第3回日露学生フォーラム特設サイトについて」

The 3rd Japan-Russia Student Forum Special Site :  
<https://www.niigata-u.ac.jp/en/information/8255/>

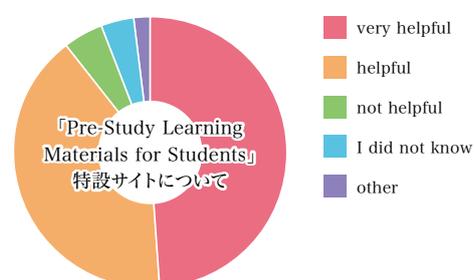
1	very helpful	55
2	helpful	47
3	not helpful	2
4	I did not know	2
5	other	0
Total:		106



### 2. 「第3回日露学生フォーラム特設サイトについて」の

「Pre-Study Learning Materials for Students」サイトについて  
<https://www.niigatau.ac.jp/en/information/7899/>

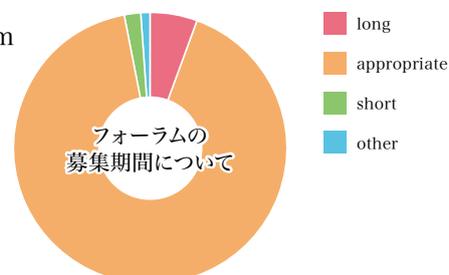
1	very helpful	52
2	helpful	43
3	not helpful	5
4	I did not know	4
5	other	2
Total:		106



### 3. 日露学生フォーラムの募集期間について

About the recruitment period of the Japan-Russia Student Forum

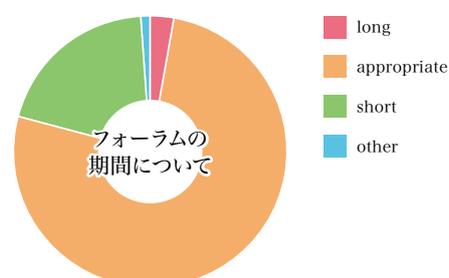
1	long	6
2	appropriate	97
3	short	2
4	other	1
Total:		106



### 4. 日露学生フォーラムの期間について

About the period of the Japan- Russia Student Forum

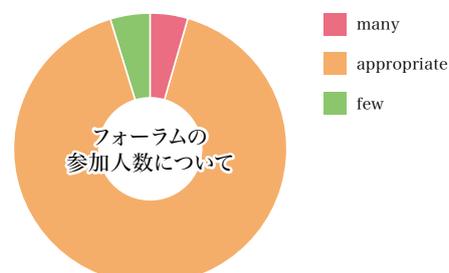
1	long	3
2	appropriate	81
3	short	21
4	other	1
Total:		106



### 5. 日露学生フォーラムの参加人数について

About the number of participants in the Japan-Russia Student Forum

1	many	5
2	appropriate	96
3	few	5
Total:		106

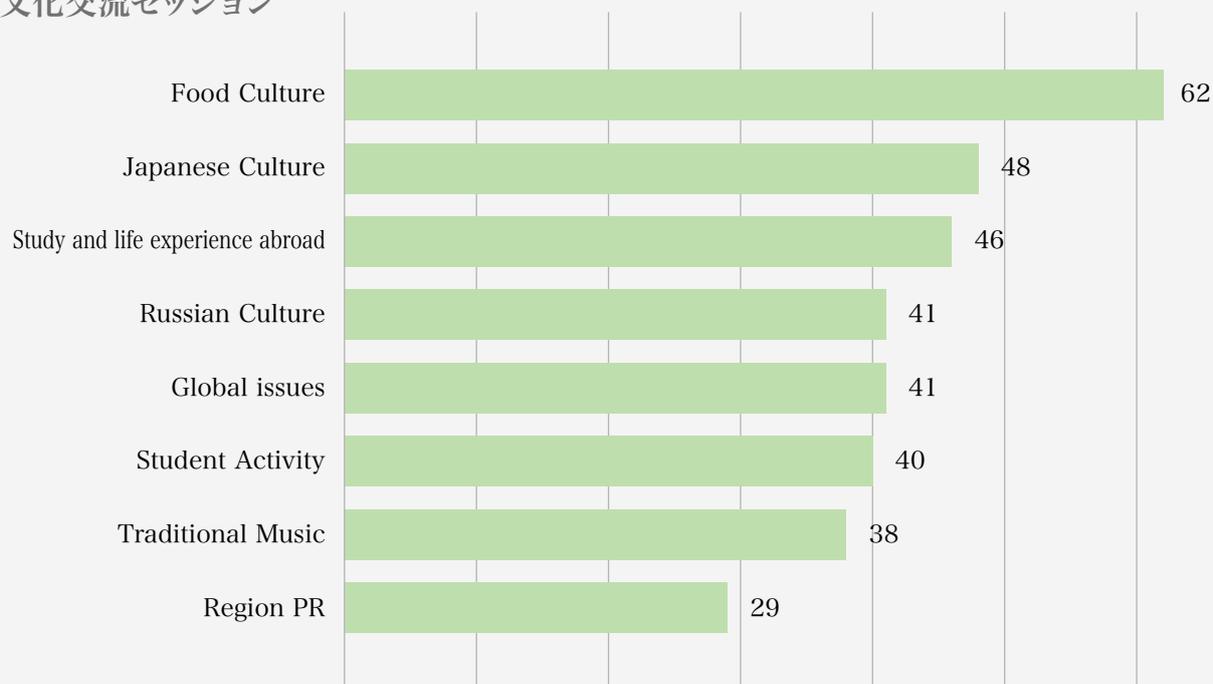


## 日露学生フォーラムアンケート結果

6. 9月12日の日露文化交流セッションで一番良かった点・面白かった分野は何ですか (複数選択可)  
 What was the best point / interesting field of the Japan-Russia Cultural Exchange Session on September 12? (Multiple choices allowed)

Food Culture	62
Japanese Culture	48
Study and life experience abroad	46
Russian Culture	41
Global issues	41
Student Activity	40
Traditional Music	38
Region PR	29
<b>Total:</b>	<b>345</b>

### 文化交流セッション



## 日露学生フォーラムアンケート結果

### 7. 日露学生フォーラム全体についてのコメント

1. Thank You! It was very interesting and valuable for me!

2. It will be wonderful if the next forum will be face to face.

3. I will look forward to the next Russian-Japanese Student Forum

4. 貴重な機会をご提供いただいたことに感謝申し上げます。

5. ありがとうございました(2)

6. これから病院実習等で忙しくなるので、これまでみたいに参加することができないかもしれませんが、今後もいずれかの形で国際交流に参加することができればと思います。

7. The only wish is to participate in such event offline next time!

8. Мне все очень понравилось! Я бы хотела почувствовать и в будущем в таком замечательном форуме! (全部はよかったと思います。このようなフォーラムに将来も参加したいです。)

9. I have no comments. Organization was good and forum was rather interesting. It was helpfull and great experience. Thank you

10. I would like to participate in such conferences in the future! I would like to see in future more session and have fun with Japanese students! The game format of preventing information is so cool, thank you!

11. Wonderful forum! Thank you all for planning and coordinating this precious experience. I hope this meeting will continue for a long.

12. 私は13日のみの参加だったので、他の生徒より学んだ量が少ないと思うが、各国の文化の違いを学ぶことが出来たと感じました

13. 開催にあたり、多くの人達が長い間準備してくださっていたことがよくわかる内容でした。お疲れ様でした。参加して良かったです。ありがとうございました。

14. ロシアの学生や日本の他の大学の学生と交流する機会を持てたことは、コロナ禍以降に大学に入学したために渡航する機会を失った私にとって非常に幸運でした。またこのような機会があれば参加したいです。日露学生フォーラムに参加させていただき、ありがとうございました。

15. 交流する上で、国籍は関係ないのだなと感じました。世界にはあらゆる共通の問題があると思います。それをどのように一緒に解決していくのが課題であると感じました。そのような気づきを得る機会を与えてくださったことに感謝します。

16. 今後もこのイベントが継続されることを願っています。

17. It was good and rare opportunity for me to know about Russian real culture.

18. Thank you very much, I enjoy it.

19. 本当にいい経験になりました。企画から運営までありがとうございました。

20. Keep it up. I really got interested in such cultural exchanges forums after participating in it.

21. Keep doing what you are doing

22. It is very difficult to organise online event, anyway real event seems more better.

## 日露学生フォーラムアンケート結果

23. Online meeting is good, but connection face to face is better. Thank you to your efforts.
- 
24. 今回はコロナ禍の中でオンライン開催でしたが、できる限りのことはできたと思います。開催していただきありがとうございました。
- 
25. I really like this forum/ I sure that we have many same forums in the future!
- 
26. I truly hope that this tradition will be continuing, and much more people will be informed and involved into this great forum.
- 
27. It will be cool if we can meet face-to-face on the next year
- 
28. I don't have any suggestions about forum) it was great
- 
29. I gain many new information by joining this forum. It was very interesting.
- 
30. Everything was perfect
- 
31. It was a great experience for me to take part in such event. Thank you!
- 
32. Everything is great
- 
33. とても楽しかったのでこのような機会があれば是非お知らせを頂きたいです!
- 
34. Thanks to the organizers who managed to join together all the participants from Japan and Russia despite the pandemic restrictions!
- 
35. また機会があればよろしく願います。
- 
36. Many thanks to the organizers for an excellent and useful event!
- 
37. It was great!
- 
38. Looking forward to participate in the next forum in person!
- 
39. Cセッションに参加したが各セッションのまとめを聴くことができ、よかった。I thought it would be good to learn the contents of other sessions at last corner.
- 
40. 初めての参加でしたが、オンラインという制限があるにも関わらず、とても活発な交流や議論をすることができ、来年も是非参加したいと思いました。このフォーラムを通して多くの刺激を得ることができたことに心から感謝申し上げます。
- 
41. ありがとうございました!また対面のイベントに参加したいです!
- 
42. ロシア文化について学ぶことができて良かった。
- 
43. 楽しかったです、また機会がありましたら皆さんに実際にお会いして交流したいです。またよろしく願います
- 
44. モデレーターをさせていただいたが、ペアで担当してロシアの学生と交流を深められてよかった。
- 
45. 興味深い2日間をありがとうございました。ロシア人留学生の意見を聞くということがなかなかない中で面白かっただけでなく、ロシアに興味をもち日々学んでいる日本の同級生・同世代の人たちがこんなにもいるのかと、また、英語を使って自分を表現しようとする人を見て、非常に刺激になりました。今回はテーマに対して色々意見を持っていながらもなかなか自分から話に入ることができず、少し残念な思いもあるので、またぜひこのような気あきがあれば参加してみたいと思いました。ロシア語での交流・日本語での交流も、いつかワイワイとできるようになればと思います。

## 日露学生フォーラムアンケート結果

46. 今後の成功を祈ります

47. It was very interesting and there was a lot of vital information so I hope to participate again next time!

48. Nice

49. Почаще встречаться с такими интересными людьми и организаторами (今回のように面白い方、主催者との出会いが増えればいいなと思いました。)

50. I liked everything! Keep up the good work! Thank you.

51. Очень хотелось бы, чтобы все встретились лично, но в времена пандемии это невозможно, так что будем надеяться!  
(皆と対面で会いたかったが、現在のパンデミックで無理。また会えること期待します!)

52. 非常に楽しく、有意義な時間を過ごすことができた。

53. It was good that had an opportunity can talk with many other students.

54. Everything was ok. It would be great to participate more often in such forum!

55. Good luck to us all)

56. コロナが終息して対面で行える事を祈っています。フォーラムの準備、運営ありがとうございました。

57. この日露学生フォーラムを通して、ロシアの学生とも交流できたことは、貴重な経験となったので、ぜひ今後もこういった色々な学生と繋がれる機会があつてほしいなあと感じました。

58. I'm really looking forward to participating in the Forum again (and of course it would be great if it could be held offline with no covid)

59. Thank you for your effort of preparation and management.

60. I wish you good luck in the future work of the forum. I hope that the forum will continue to operate.

61. I personally would like to join forum next time

62. フォーラムがどういう流れで進むのか把握できないままあまり綿密な準備をせずに参加してしまいましたが、貴重な体験ができ満足しています。ありがとうございました。

63. このフォーラムに参加してロシアやそのほかの国との交流への情熱が一層湧きました。発表や司会の機会もいただき、とても勉強になり、また楽しかったです。運営など本当にありがとうございました。

64. オンラインだからこそその利点もあると思うので、様々なイベントを期待しています!  
ありがとうございました。

65. More presenters from the Japanese side

66. Thank you so much for the opportunity to meet and listen such talented and intelligent students from Japan and Russia!

# 付録 2

---

## 令和3年度 大学の世界展開力強化事業(ロシア) 事業総括報告会発表資料

1. 千葉大学
2. 東京外国語大学
3. 東京工業大学
4. 金沢大学
5. 長崎大学・福島県立医科大学
6. 東海大学
7. 近畿大学
8. 北海道大学

## 1. 千葉大学

ロシア タイプA

平成29年度大学教育再生戦略推進費  
「大学の世界展開力強化事業」  
～ロシア、インド等との大学間交流形成支援～

## 極東ロシアの未来農業に貢献できる 領域横断型人材育成プログラム

# 千葉大学

### 未来農業における人材育成でロシアと協力

農業の6次産業化で  
農村と都市の共働

# F A R M

最先端技術で  
アグリビジネス化

Future Agriculture with Russia Pre-Master to PhD Program



多様な未来農業  
ハウス栽培の発展  
大規模計画生産が可能  
計測診断技術

**S**  
TRAINING SENSING

計画生産により食料問題に対応  
栽培・環境管理の専門家が必要  
多様なセンシング技術が必須  
デバイスやアプリの検討  
有機栽培対応のスキームが求められる

## 未来農業



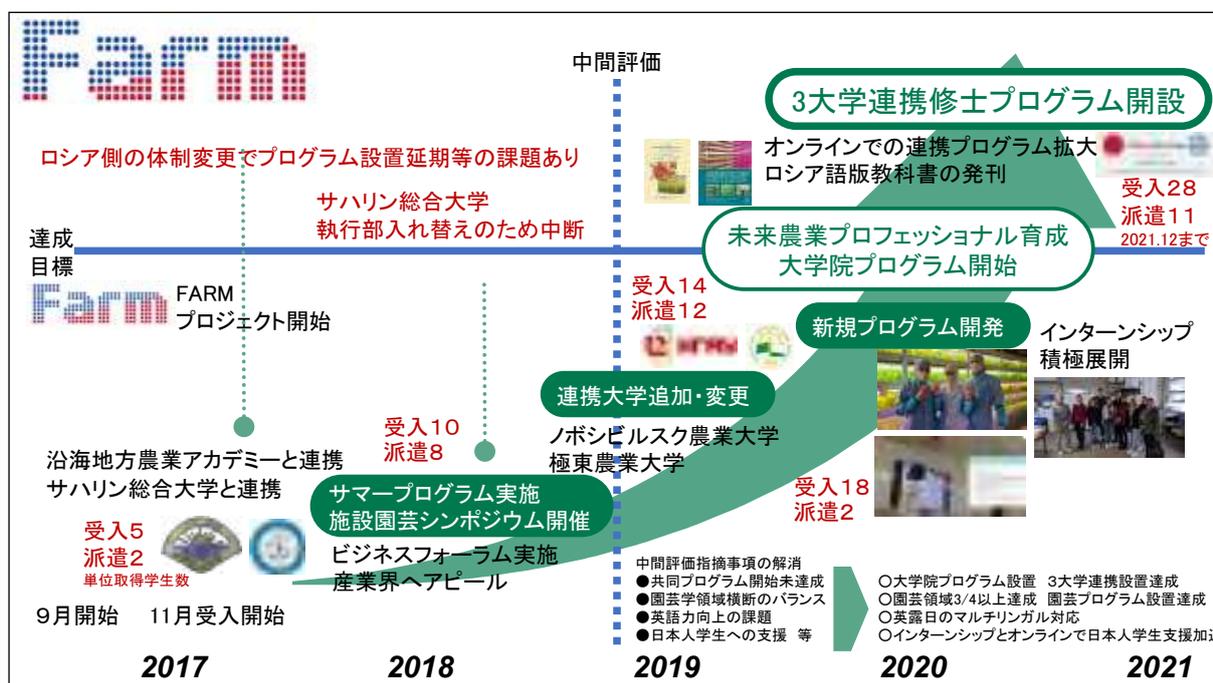
多様な植物工場  
気候に影響されない  
生産-販売一体型  
高度環境調節技術

**A**  
ARTIFICIAL ENVIRONMENT TRAINING

小型から大型まで多様なサイズとビジネスモデル  
生産から販売までの新しいモデル構築  
オンデマンド生産による食料需給の変革  
都市における新しい生産様式  
資源利用効率の最適化

日本とロシアが共同し「極東の寒冷地」を中心に極  
限環境における未来農業のスペシャリストを育成

# 1. 千葉大学

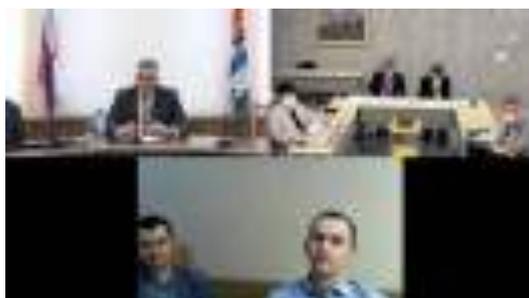


## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

### ロシアにおける専門家養成やそれによる人的ネットワークの強化(1)

ノボシビルスク農業大学、極東農業大学と連携した「施設園芸」に関わる専門家育成のための修士課程での連携プログラムの開設(2021)

連携プログラムに関わる覚書の締結(2021年7月)



# 1. 千葉大学

## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

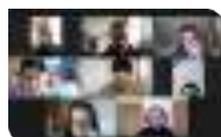
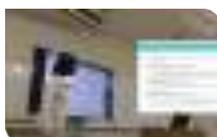
### ロシアにおける専門家養成やそれによる人的ネットワークの強化(2)

オンデマンド、ハイフレックス授業の開講(2020-2021)

コンソーシアム型授業の実施

2021

2020

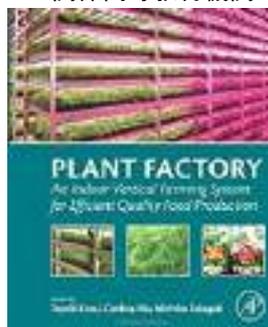


## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

### ロシアにおける専門家養成やそれによる人的ネットワークの強化(3)

高度施設園芸に関わる英語版の教科書のロシア語版出版

関係高等教育機関への無償提供による教育研究ネットワークの基盤作り(2020-2021)



集積施設園芸の基礎  
実践的工場  
植物工場  
育成管理  
遠隔操作  
...

基礎から応用までの  
バイブル



エルゼビア社  
Plant Factory

ノボシビルスク農業大学協力により  
2019-2020年でロシア語に翻訳

2020年出版  
2021年協定校や関連機関、関連企業に配布

## 1. 千葉大学

## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

## ロシアにおける専門家養成や人的ネットワークの強化(4)

施設園芸・植物工場に関わる専門通訳育成

インターンシップでの通訳実施  
教材作成の補助を担当

サハリン国立大学東洋文化学科 千葉大学文学部の学生



企業インターンシップ

施設園芸などに関わる日英露用語集作成  
デジタルデータで学生に配布

日英露用語集の利用



マニュアル



テキストブック



## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

## 日本で活躍するロシア高度人材の育成(産官学連携の観点を含む)(1)

## 留学へのロールモデル = 3回の留学を実施して専門人材

## ノボシビルスク農業大学学部生

留学1 2020年11月渡日 90日プログラムに参加(学部3年生)

留学2 2021年 オンラインプログラムに参加(学部4年生)

留学3 2022年10月

千葉大学園芸学研究科修士課程入学

(植物環境デザインプログラム)

関連企業でのインターンシップ

施設園芸に関わる修士研究を実施予定



90日プログラムでの実習成果

## 1. 千葉大学

## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

日本で活躍するロシア高度人材の育成(産官学連携の観点を含む)(2)

留学へのロールモデル構築 = 他の世界展開力の大学に進学  
 極東農業大学大学院生

留学1 2020年11月渡日 90日プログラムに参加(修士2年生)

留学2 2021年11月博士課程候補学生

留学3 2022年10月以降 日本の大学院への進学

留学1 2019年4月渡日 1週間のショートプログラムに参加(学部3年生)

留学2 2021年10月 新潟大学自然科学研究科修士課程入学

1週間のショートプログラム

## 1) ロシア専門人材育成の長期的展望について

・ロシア人留学生との共修環境提供による日本人学生への好影響  
 (日本人のグローバル人材育成に寄与)

英語が母語では無いロシア人留学生との共修

実習・実験の共修

相互理解、お互いに英語でのコミュニケーションを取ろうとする姿勢

ハイフレックスWS・授業 オンライン授業での共同学習

ロシアを良く知らなかった学生が関心を持ち、実際に行ってみたくなる



オンライン・コミュニケーション



現地視察での日本文化体験

## 1. 千葉大学

## 2) プログラム修了者の進路調査

日本(千葉大学)側: 各学部・研究科の進路調査で実施  
 各大学のプログラム責任者が実施(ロシア)  
 ネットワークの形成: 修了生の交流の場としてのSNS開設

## プログラム修了生の進路(一部確認済みのみ)

千葉大学 大学院進学  
 食・農関連企業就職

ロシア大学 関連分野大学院進学  
 農業企業就職



## 今後の展望

## 多様なハイフレックス・プログラムを継続

3大学共同プログラム 施設園芸に関わる修士課程のプログラム

極東・沿海地方、サハリン地方との連携から開始  
 アムール地方、シベリア地方へと拡大

ロシア国立人文大学内  
 千葉大学日本センターとの連携

自立化以降の展開

中央アジアのCIS地域へ

本プログラムでの設置済校

カザフスタン  
 ウズベキスタン  
 キルギス  
 タジキスタン

近隣国へ拡大



ノボシビルスク農業大学

極東農業大学

サハリン国立大学

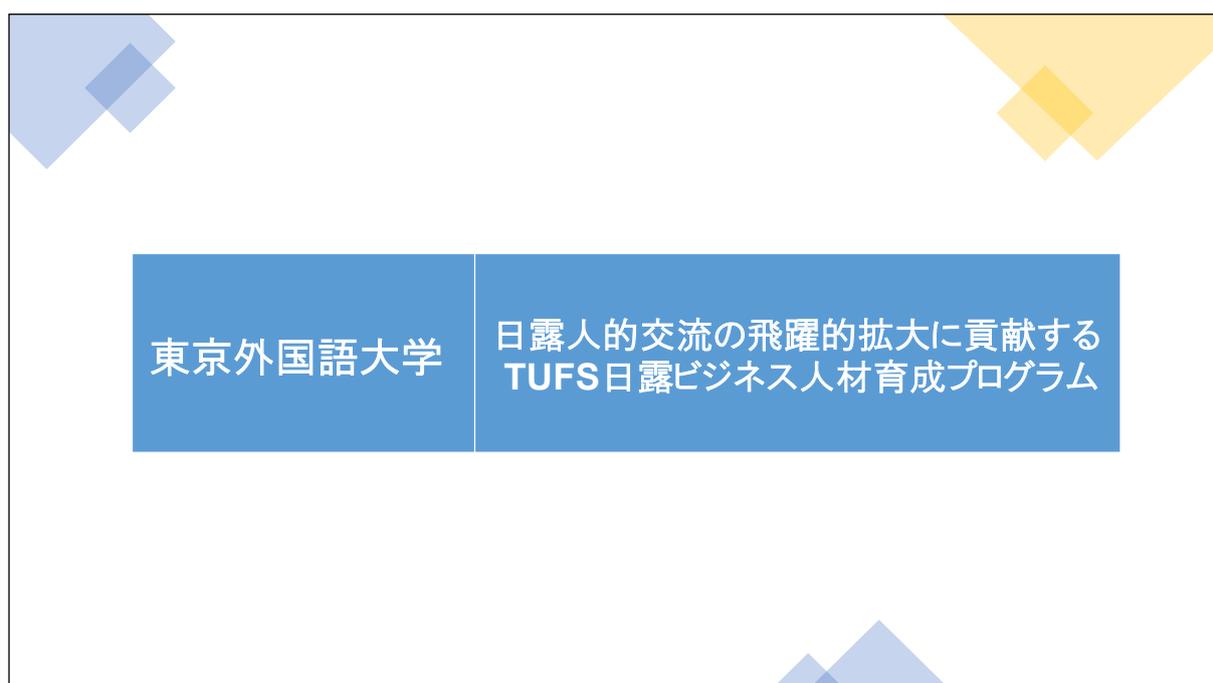
沿海地方農業アカデミー

## 2. 東京外国語大学



**RUSSIA** MOSCOW ST. PETERSBURG VLADIVOSTOK 東京外国語大学  
Tokyo University of Foreign Studies  
[2017年度 大学の世界展開力強化事業] 採択事業  
日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム

**東京外国語大学が取り組んだ  
大学の世界展開力強化事業（ロシア）  
2017-2021**



東京外国語大学 日露人的交流の飛躍的拡大に貢献する  
TUFS日露ビジネス人材育成プログラム

## 2.東京外国語大学

### 3種の交流プログラムと3つの特色

学部前半  
短期留学  
(3カ月未満)

学部後半  
長期(交換)留学  
(3~12カ月)

インターンシップ



## 2. 東京外国語大学

## 「日露ビジネス人材」とは

### 1. トライリンガル（日本語+ロシア語+英語）

やあ！

Привет！

Hi！

### 2. ビジネス(日露間含む)関連の基礎知識を身につけている

### 3. コミュニケーションスキルをもつ (調整力・交渉力を含む)



## 学生交流の飛躍的拡大 (2012-16 vs. 2017-21)



## 2.東京外国語大学

## 日露ビジネスサマースクール（2週間短期受入）



## 『共修の場』日露ビジネスサマースクール（2週間）

## 【開催の目的】

- ロシア6協定校から4～5名ずつ日本語を学習している学生を招待し、本学の学生と交流しながら日本語と、ビジネスを含め日本について学ぶ機会を提供
- 本学の学生には、ロシア語を磨き、かつ自国について(ロシア語で)学ぶ機会を提供

## 【プログラム内容】（2018/2019 対面 2020/2021 オンライン）

- **日露タンデム学習**：日露の学生同士で、それぞれの学習(目標)言語を相互に学ぶ  
+ **1日文化研修** 日露の学生が東京の名所を一緒に巡るツアー（2018/2019）
- **国際日本学**：日本についてビジネスから文化までロシア語ネイティブの先生方がロシア語で教授  
+ **1日企業研修** 複数の企業を訪問し、事業内容をヒアリング（2018/2019）

履修者総数	受入学生	本学学生
タンデム学習	109	69 ※
国際日本学	109	47

※ 履修登録なしに参加 - プラス約40名  
(タンデムでは日露学生 同数が原則)

## 2.東京外国語大学

### ビジネスの基礎知識を身につけるための実学

既存科目	世界教養科目（日本語 or 英語） 「世界の中の日本A」「世界の中の日本B」	1年次～
	「経済学A」「経済学B」 and/or 「経営学A」「経営学B」	国社 2年次秋～ 言文 3年次春～
新規開講科目	日露ビジネス講義 2018春開講	1年次～
	国際日本学(露語) 2018夏開講	3年次～
	ロシア語医療通訳入門 2018秋開講	2年次～（推奨）
	駐在員のロシア語 2019秋開講	3年次～

#### 日露ビジネス講義講師一覧

本学出身  
他大学出身  
(敬称略)

2018



新井 滋  
ソニーOB



山田紀子  
P J L



加藤 貞一  
日揮



池田 元博  
日本経済新聞



小林 文彦  
伊藤忠



目黒 祐志  
三井物産



原田 大輔  
JOGMEC

2019



富山 栄子  
事業創造大学院大学



牧野 寛  
SAMI



高橋 渉  
デロイト



富 通夫  
東京三菱銀行OB



横田 愛  
日本郵船



門馬 千尋  
日立建機



隈部 兼作  
ロシア・ユーラシア政経ヒ研

2020



杉浦 敏廣  
伊藤忠OB



寺沢 光子  
ジャパン・アーツ



山内 紀彦  
NHK・OB



伏田 昌義  
JIC旅行センター



菅原 信夫  
Sugaraha Associates



関野 博司  
伊藤忠



日高 洋介  
マルハニチロ

2021



山田紀子  
P J L



坂井 光  
日本経済新聞



一瀬 友太  
JETRO



玉置 八重  
丸 紅



大門 基子  
川崎重工



本蔵 愛里  
日本政府観光局



板野 和彦  
INPEX・OB

## 2.東京外国語大学

## 有意義なインターンシップ創出

本学の展開力事業(ロシア)で心がけた点

- ▶ 日露ビジネスに関連していること
- ▶ 1 Dayインターンシップであっても、ビジネスの現場にいる人からビジネスの生々しい話が聞けること
- ▶ 可能な限り、真の意味での就業体験ができること



## インターンシップ実績 (2017-2021)

### ロシア国内

件数	57	J学生	R学生
インターン数(延べ)	221	(200)	(21)

### 日本国内

件数	36	J学生	R学生
インターン数(延べ)	217	(79)	(138)

### 特筆すべき事例

#### J-ANIME 参加者実績

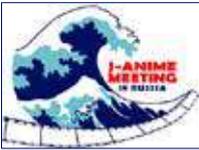
(本学とロシア協定校の学生のみカウント、全体ではこの約2倍)

2019/2020 - 22名(J)、16名(R)  
2021 - 20名(J)、12名(R)

#### 就業体験科目履修者実績

2018 - ユニオン楽器 5名(R)  
2019 - JVTA 3名(J)  
2020 - JVTA 3名(J)、2名(R)

## 2. 東京外国語大学

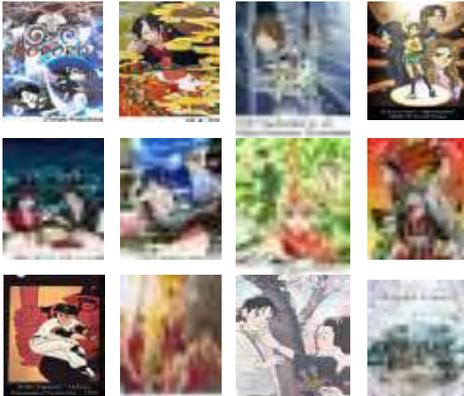


## J-ANIME MEETING IN RUSSIA

日露の学生が半年以上 協働し、  
産学プロジェクトを成功に導いた！  
～ 『共修・ネットワーキング・専門家育成の場』～



東京外国語大学

## 展開力学生(派遣留学経験者)の就職・内定先

### 製造業

- ソニー
- 富士フイルム
- 本田技研工業
- マキタ
- エー・アンド・デイ
- セイコーウオッチ
- 三井化学
- NTN
- フジクラ
- 蛇の目マシン

### その他製造

- (エンターテインメント)
- バンダイナムコ

### エネルギー

- JX石油開発
- INPEX
- JOGMEC
- JXTGエネルギー
- 電源開発
- 中国電力

### 商社

- 丸紅

### 金融

- 三菱UFJ銀行
- みずほFG

### IT・情報・通信

- ソフトバンク
- 楽天
- KDDI / NTT

### 水産・食品

- 極洋

### 公務員

- 外務省(キャリア & 専門職)

### 独立行政法人

- ジェトロ
- 国際交流基金

### 運輸・交通・旅行代理店

- 日本通運
- 東日本旅客鉄道
- 大陸トラベル
- 日本郵船

### マスコミ

- 日本経済新聞社
- 共同通信社
- 日本放送協会 (NHK)

### 出版

- JTBパブリッシング

情報源：グローバルキャリアセンター（就職支援）に提出される『進路決定届』 及び 個別調査

## 2.東京外国語大学

### 展開力参加者・修了者との交流@モスクワ



### 事業期間終了後の「自走化」

- OB・OG (TUFS日露ビズネット)との連携継続  
東京外語会モスクワ支部によるインターンシップ機会提供、懇親会  
日露ビジネス・リレーセミナー(ボランティア)等
- 日本映像翻訳アカデミー(JVTA)受入によるインターンシップ継続
- モスクワ大学とのダブルディグリープロジェクト

## 2. 東京外国語大学

The logo features the word "RUSSIA" in large, bold, grey letters. To its right, the cities "MOSCOW", "ST. PETERSBURG", and "VLADIVOSTOK" are listed vertically. Further right is the Tufs crest and the text "東京外国語大学 Tokyo University of Foreign Studies". Below this, it says "[2017年度 大学の世界展開力強化事業] 採択事業". At the bottom of the logo area, the text "日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム" is written. The character "終" (End) is centered below the logo. At the bottom of the page, there is a horizontal line followed by the text "TUFSD大学の世界展開力強化事業(ロシア)実施本部" and "Home Page : <https://wp.tufs.ac.jp/russia-jp/> e-mail : [tenkai2russia@tufs.ac.jp](mailto:tenkai2russia@tufs.ac.jp)".

**RUSSIA** MOSCOW ST. PETERSBURG VLADIVOSTOK

東京外国語大学  
Tokyo University of Foreign Studies

[2017年度 大学の世界展開力強化事業] 採択事業

日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFSD日露ビジネス人材育成プログラム

終

TUFSD大学の世界展開力強化事業(ロシア)実施本部  
Home Page : <https://wp.tufs.ac.jp/russia-jp/> e-mail : [tenkai2russia@tufs.ac.jp](mailto:tenkai2russia@tufs.ac.jp)

## 3. 東京工業大学



## 令和3年度 大学の世界展開力強化事業採択校活動状況報告会



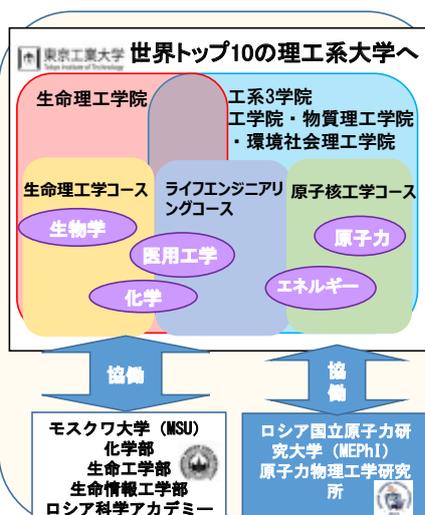
令和4年2月2日（水）

東京工業大学 生命理工学院  
教授 梶原 将

1

## “健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成”

## 協働・連携組織体制



ロシア  
(国営) Rosatom Tech社、Shimazu Europa GmbH社  
Ajinomoto Genetika Research Institute社  
日本  
電力中央研究所、JAEA、日本原子力発電(株)、  
(公財)福井原子力センター、国際廃炉研究開発  
機構、キリンビール(株)、味の素(株)、島津製作所

## 交流プログラム

## 実渡航 平成29～令和元年度

## 1. 短期派遣・受入&lt;2週間&gt;

対象：学部3、4年生、大学院生

内容：研究発表、研究室配属・グループワーク研修、外部見学

## 2. 長期派遣・受入&lt;3か月～6か月&gt; (平成30年、令和元年)

対象：大学院生

内容：相手先大学研究室の教員の指導の下、研究テーマの遂行

## 3. 日露学生交流フォーラム&lt;年1回&gt;

対象：派遣・受入学生だけでなく、多くの日露学生、教員

内容：学術講演、学生研究発表・グループ討議、同研究協議(教員)

## オンライン 令和2、3年度

## 1. オンライン日露学生交流フォーラム

対象：学部3、4年生、大学院生

内容：学術講演、学生研究発表、グループワーク討論等

## 2. MSU教員と東工大教員による共同授業

対象：大学院 修士

内容：生命工学系分野の講義(100分×7回)

### 3.東京工業大学

**短期派遣・受入**

東京工業大学 ⇒ MSU(24人) & MEPHI (11人)

MSU(23人) & MEPHI (12人) ⇒ 東京工業大学

**内容：学生間相互理解を深め、研究開発能力等をも高める多彩な交流プログラム**

研究発表



ポスター発表  
於:MSU

個別研究室配属研修



教員による学生指導  
於:東工大

研究実習



菌の培養実験  
於: MSU

グループ討論



グループ討論  
於:東工大

外部施設見学



ロスアトム社見学

公開討論競技会



第2回 国際バイオ  
トーナメント  
於: MSU

ラップアップ



ラップアップ  
於: MEPHI

**成果：国際性、社会性、コミュニケーション能力、研究スキルが向上**  
 (事例：第1回、第2回国際バイオトーナメントでMSU学生との同室合宿準備で連続入賞)

**短期派遣・受入を経て長期派遣・受入に参加 (東工大⇒MSU、MSU⇒東工大)**  
**国費留学生の本学大学院修士課程への入学 (MSUから2名)**

3

**長期派遣・受入**

東京工業大学 ⇒ MSU(4人) & MEPHI (2人)

MSU(4人) & MEPHI (2人) ⇒ 東京工業大学

**内容：希望研究先にて、相手先大学教員の指導の下、集中して研究を実施**

**成果：派遣・受入後の継続的研究教育により実際の研究成果を創出**

- ① 学生本人の学位論文への成果反映
- ② 共同研究への展開
- ③ ロシア大学との共著にて国際学会、査読付き学術誌へ掲載  
⇒ 成果の対外発信と貢献

**対外発表実績**



研究室にて (MSU)

派遣	学会	発表媒体
MEPHI	学会	XIV International Scientific and Practical Conference (2018/11)
MEPHI	学会	第41回日本核物質管理学会年次大会 (2020/11)
MSU	学術誌	Molecules (第26巻 1321ページ 2021年)
受入	学会	発表媒体
MEPHI	学術誌	Nuclear Energy and Technology (第6巻、155ページ、2020年)
MEPHI	学術誌	Scientific Visualization (第12巻、100ページ、2020年)
MEPHI	学会	日本原子力学会 (2019/3)
MSU	学術誌	Biochemie (第170巻、49ページ、2020年)
MSU	学術誌	Antibiotics (第10巻 489ページ 2021年)



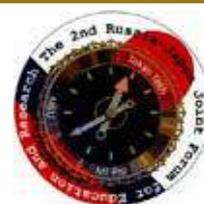
教員による指導 (東工大)

102

## 3.東京工業大学

## 日露学生交流フォーラム

**内容：** 学生による研究発表（口頭・ポスター）・グループワーク討論  
 教員による学術講演・プロジェクト運営会議  
 過去参加卒業生講演・協力企業プレゼンテーション



**成果：** 対面・オンライン合わせ計8回開催、参加者数は延べ370名  
 派遣・受入学生だけでなく、多くの日露学生・教員参加による学生交流チャネルの拡大  
 相互の研究内容の理解を通じ、共同研究を含む今後の連携に関する有効な議論の実施  
 長期派遣・受入学生の研究テーマ指導内容の双方の教員間打合の実施  
 生命工学系、原子核工学系（MSUとMEPhI）との異分野交流の好適な機会の提供

年度	実施回	開催日	形態、主催/相手先	参加者数
2017	第1回	2018 3/9	対面、本学/MSU&MEPhI	約60名
2018	第2回	2018 9/24, 25	対面、MSU/MSU&MEPhI	約70名
2019	第3回	2019 2/20	対面、本学/MSU&MEPhI	約70名
2020	第4回	2020 9/25	オンライン/MSU	約40名
2020	第5回	2020 10/27,28	オンライン/MEPhI	約40名
2020	第6回	2020 12/18 翌1/28	オンライン/MSU	約30名
2021	第7回	2021 11/26, 12/10	オンライン/MSU	約30名
2021	第8回	2021 12/2	オンライン/MEPhI	約30名



学生ポスター発表



グループワーク結果発表

5

## モスクワ大学教員と東工大教員による共同授業

**内容：** 2020年度、2021年度に学生派遣代替プログラムとして実施  
 オンライン授業開講（東工大1単位分に相当）  
 （本学では「ライフエンジニアリング特別講義第二」科目として単位認定）

**成果：** 十分な講義時間をとることができ、充実した内容の講義となった  
 講義ごとに必ず質問応答をさせた結果、集中した聴講となり教育効果を高めた  
 本学の国内学生のみならず、海外からの学生も聴講  
 聴講学生は各年10名程度



講義スライド

講師と演題（2020年度、2021年度とも同一講義）

講師	演題
Egorova Bayirta (MSU化学部講師)	核医学入門
Feniouk Boris (MSU生命情報工学部副学部長)	生物学的老化の理論
Rodina Elena (MSU化学部准教授)	タンパク質・ペプチドをベースとしたナノマテリアル
Shavkunov Konstantin (MSU生命情報工学部准教授)	RNAを介した制御とシグナル伝達
Kubareva Elena (MSU化学部教授)	遺伝子の変異と損傷 DNA修復
中村浩之 (東工大科学技術創成研究院教授)	
梶原将 (東工大生命理工学院教授)	
大西幾正 (東工大生命理工学院特任教授)	

6

## 3.東京工業大学

## その他トピックス 1

### 全学協定

MSUと本学との全学協定の締結（2019年9月）  
MEPhIとは、全学協定の5年間の延長手続きを実施（2018年8月）



調印するサドビニチMSU学  
長と本学 高田副学長

### 日露研究プログラムの採択・実施

本事業をもとに連携先MEPhIの原子力物理工学研究所とともに、日本政府とロシア政府による共同推進プログラムである「国際協力型廃炉研究プログラム」に申請、採択され共同研究がスタート（2019年）、成功裏に終了、今年度後継プログラムの公募があり、再応募して採択、共同研究を継続中

### 受入留学生奨学金

文科省の国費留学生受入プログラムに採択(2019-2021)  
テーマ名：“Graduate Program to Foster Global Ecosystem”

(財味の素奨学会の奨学金給付MSU学生の留学受入対象大学に認定（2020年）

7

## その他トピックス 2

### 情報発信：ロシアにおける日本年行事の認定と日本外務省HP掲載

2018年度の本学による本事業活動と、同年MSU生命工学部が主催した「第1回国際バイオトーナメント」の2つの活動を、個別に在露日本大使館主催“ロシアにおける日本年2018-2019年行事”に申請し、認定された



HP巻頭掲載スライド

特に本学の本事業は、日本外務省ホームページ「ロシアにおける日本年のイベント情報（[ロシアにおける日本年2018-2019 \(emb-japan.go.jp\)](http://emb-japan.go.jp)）」の巻頭に掲載され、良い広報となった



ГОД ЯПОНИИ  
В РОССИИ 2018-2019  
認定行事ロゴ

### 欧州島津(株)のロシア「国際バイオトーナメント」協賛

本学との連携により欧州島津(株)ロシア事業所が2019年9月開催の「第2回国際バイオトーナメント」のスポンサーに加わり、ロシアにおける産学連携の一助となった



バイオトーナメント冊子（表裏）

8

## 3.東京工業大学

## 総括

### 短期交流

日露学生が多彩かつハードなプログラムに共同参画することで、学生間の相互理解が深まり、国際性、社会性、コミュニケーション能力、研究スキルが向上した

### 長期交流

学生が希望する研究室にて、異国における自国とは異なる発想による研究教育指導を受けながら、集中して研究に取り組み、事前打ち合わせや帰国後の指導継続により3～6か月の比較的短期間にもかかわらず多くの研究実績を上げた

### 日露学生交流フォーラム

派遣・受入学生だけでなく、多くの日露学生・教員参加による学生交流が活性化、相互の研究内容の理解促進され、学生交流、共同教育/研究の連携チャンネルが拡大



**本事業が目的とする「日露工学系人材の育成」に寄与**

**更に、連携大学との学生交流の展開による国費留学生受入、共同教育/共同研究（ナショナルプロジェクト共同研究を含む）に関する大学間連携の深化、国際産学連携の強化、ロシアの他のトップ大学との交流が着実に推進**

9

## 今後に向けて

### 学生交流と大学間連携の継続

#### MSUとMEPhIとの学生交流の継続,共同教育や共同研究を含む大学間連携の更なる深化

1. 修士課程・博士課程の学生教育は研究とリンクするケースが多く、本事業で実施した3～6か月の期間の学生の派遣・受入は学生教育の有効な手段となった。そこで共同研究に伴う学生の派遣・受入も機会を捉え実施していく
2. 留学生受入枠の継続確保や新規枠の獲得に努め、企業奨学金JASSOの学生奨学金の活用も計画し、留学環境整備の努力を継続していく
3. 共同指導プログラム(コチュテルプログラム)の導入を検討.更に研究、教育の連携を更に深化させ、ダブルディグリーへの展開に繋げる

### 交流大学の拡大

(本事業活動実施中の活動)

#### ロシアの他の中核大学への展開、特にサンクトペテルブルグ大学との連携強化を進める

1. 原子力工学分野  
2021年9月、日本政府とロシア政府による国際共同研究プログラム「国際協力型廃炉研究プログラム」に同大と共同応募、採択
2. 生命工学分野  
教員との相互訪問による連携打合せ実施（2019年）

10

### 3. 東京工業大学



**ご清聴ありがとうございました**





4.金沢大学

## 2017～2019年 受入

## 文化交流プログラム

### 白山ユネスコエコパーク学習（白峰）

- 期間：平成30年7月1日～22日 白峰4泊5日
- 受入人数：14名
- 出身大学：カザン連邦大学5人、種東連邦大学3人、イルクーツク大学2人、アルタイ大学4人
- 対象学生：環境学、観光学、生物学、社会学など








## 2017～2019年 派遣

## 文化交流プログラム

イルクーツク



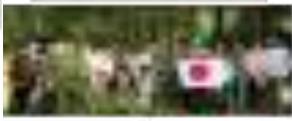

ウラジオストク




アルタイ



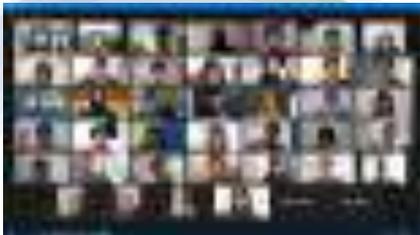

カザン




4.金沢大学

### 2020～2021年 オンライン

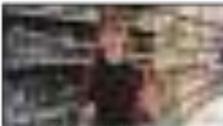


## 文化交流プログラム

#### 課題取組



道一物や器の制作



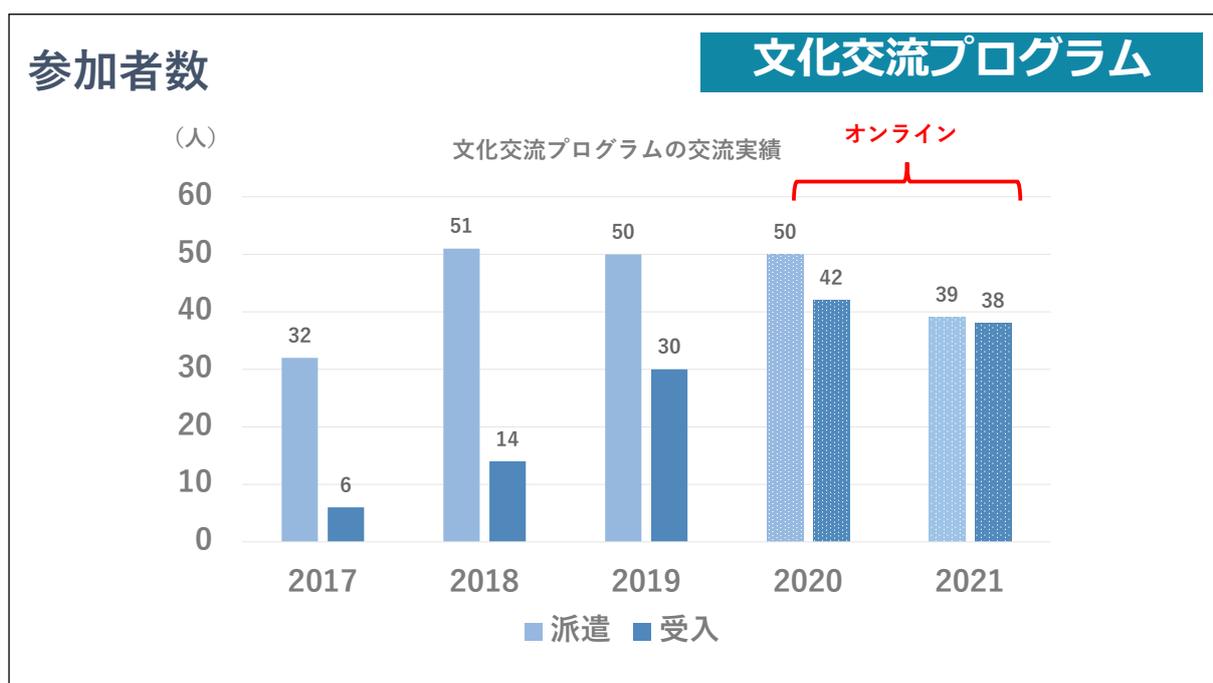
ロシアと日本の学生たちが  
二国の文化を紹介・比較する  
動画を協働で作成



建物や景色の撮影



Nature in Russia and Japan



## 4.金沢大学

### 2017～2019年 受入

ロシア受入学生の企業見学



PFU PFU

津田駒工業 アクトリー

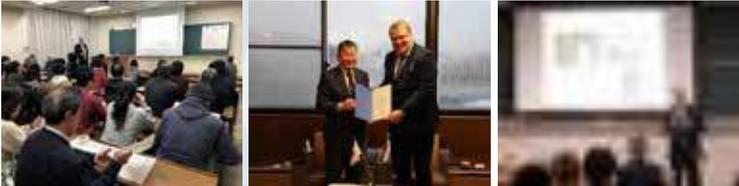


企業について学ぶアントレプレナー合宿  
「地方創生SDGs アイディアソンin珠洲」

**基礎科学プログラム**

**先端科学技術プログラム**

**カザン連邦大学とのジョイントシンポジウム・特別講義**  
2019年1月29日、2月27日 金沢大学にて



D. Tayurskii カザン連邦大学副学長による特別講義（物理分野）  
D. Tayurskii カザン邦大学副学長への国際交流シニアアドバイザー委嘱  
カザン連邦大学 I. Antipin教授による特別講義（化学分野）

**地元企業でのインターンシップは日本人とペアで  
珠洲合宿でも日本人学生と交流をおこなった**

### 2017～2019年 派遣

金沢大学の派遣学生



研究活動



カザン大学サマースクールへの参加

**基礎科学プログラム**

**先端科学技術プログラム**

**サンクトペテルブルク国立大学とのジョイントシンポジウム**  
2018年6月26日 サンクトペテルブルク国立大学にて



開会式 研究に関するディスカッション 大学院生によるポスター発表

**分野別シンポジウム、  
現地企業インターンシップも実施**

## 4.金沢大学

### 2020～2021年 オンライン・DDP

#### オンラインジョイントシンポジウム

2020年9月29日 Zoomにて 発表件数：全体会議9件、分野別28件  
 発表者は会場集合、視聴者は研究室や自宅から  
 発表学生はオンラインによる海外研修プログラム参加と認定








### 基礎科学プログラム 先端科学技術プログラム

#### オンラインによるアントレプレナー教育の実施

2020年11月17日～2021年1月31日  
 日露間をつなぐアントレプレナーが紹介する日本とロシアの様々な状況を理解するとともに、起業の事例などを通じて国際起業家となる基礎を学ぶことを主題として、オンラインにてアントレプレナー 講義を実施。

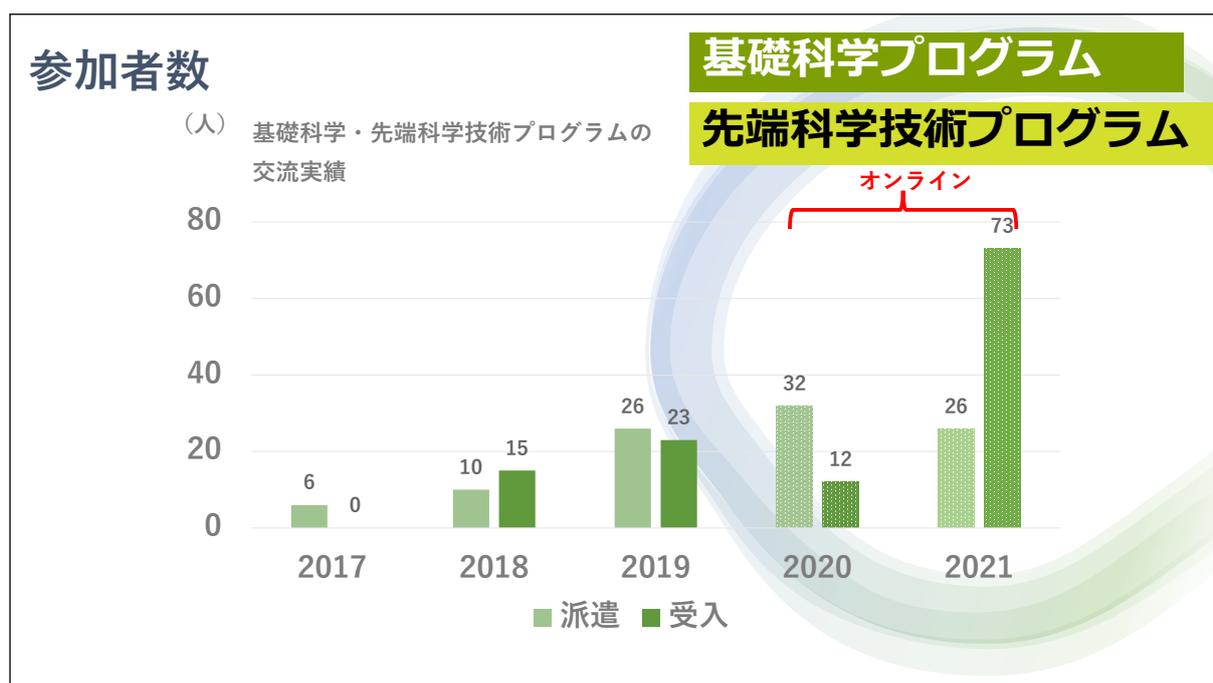
#### DDP=ダブルディグリー（二重学位）プログラム

- DDP構築分野：数物科学分野  
 金沢大学(KU)数物科学専攻 ↔ ロザン連邦大学(KFU)物理学研究所
- 対象学生：博士前期課程
- プログラム年限：3年間

ロシアの学修制度：修了120単位 日本の学修制度：修了30単位  
 学位論文は各大学に非同一論文を提出。相手校の論文審査と最終試験には遠隔実施。双方の大学院の承認科目に対し遠隔教育実施。

- プログラム実施状況

2018年8月：KFU学生のDDP入試実施 1名合格。2018年10月入学  
 2019年4月：KFU学生1名のKU留学開始  
 2019年8月：KFU学生のDDP入試実施 2名合格。2019年10月入学  
 2020年4月：2019年10月入学KFU(M1)学生2名のKU留学開始を翌年へ変更  
 2020年10月：2018年10月入学KFU(M2)学生1名が渡日不可能判明。DDP辞退  
 2020年8月：KFU学生のDDP入試実施 3名合格。2020年10月入学  
 2021年2月：KFU, Lobachevsky研究所とDDPの数学分野への拡張,プログラム設計合意  
 2021年4月：KFU学生(M1,3名)(M2,2名)の渡日(予定)



## 4.金沢大学

### 2017～2019年 受入



金沢大学 子どものこころの  
発達研究センターにて



プレゼンテーション交流会  
(自身の研究と出身大学について発表)

### 先制医療プログラム



呼吸器内科での検査



脳神経医学研究室での実験

**2018年の受入実績**

内容：プレゼンテーション交流会（自身の研究と出身大学について発表）  
2つの研究室でのラボローテーション

**受け入れた研究室：**  
 基礎系：革新ゲノム情報学、免疫学、脳神経医学  
 臨床系：泌尿器集学的治療学、脳・脊髄機能制御学、血液内科学、  
 循環器病態内科学、脳老化・神経病態学（神経内科学）、腎臓内科学、  
 呼吸器内科  
 がん研：腫瘍制御学、分子病態学、遺伝子・染色体構築学、腫瘍分子生物学、  
 腫瘍内科学  
 子どものこころの発達研究センター

### 2017～2019年 派遣

#### 2018年 クラスノヤルスク 医科大学 派遣の様子

<シンポジウムプログラム>  
 1日目 プレイベント  
 ・大学院生によるポスターセッション  
 ・大学院生向け特別講義

1日目～2日目  
 ・開会挨拶  
 ・各大学の教員から研究発表  
 ・The Krasnoyarsk-Kanazawa Research Station-Social Brain Labの開所式  
 ・クラスノヤルスク医科大学内キャンパスツアー、研究施設見学

3日目  
 クラスノヤルスク市内エクスカージョン

### 先制医療プログラム



大学院生のポスターセッション



ポスター賞表彰



研究室開所式



キャンパス見学



集合写真

## 4.金沢大学

### 2020～2021年 オンライン・新たな学生交流・共同研究

**【クラスノヤルスク医科大学】若手医師の交流**

- 2019年9月、クラスノヤルスク医科大学Alexey V. Protopopov新学長から、クラスノヤルスク医科大学の費用負担で臨床医2名を金沢大学附属病院で毎年3か月間研修させたいという要請を受ける。
- COVID-19の影響で一時ストップしたものの、本提案を先取りする形でクラスノヤルスク医科大学病院小児科のElizabeta Boitsova医師が2020年1月より3ヶ月、血管分子生物学（山本靖彦教授）に短期留学した。
- Boitsova医師は帰国後、頻繁に連絡を取り合い、その時の研究成果を**論文化**した。

Munesue, Boitsova, Yamamoto, Higashida et al., Transport of oxytocin to the brain after peripheral administration by membrane-bound or soluble forms of receptors for advanced glycation end-products.  
*J Neuroendocrinology 2021 in press*



そのほか、  
【サントクベテルブルグ医科大学・金沢大学】がんに関する共同研究の発展など

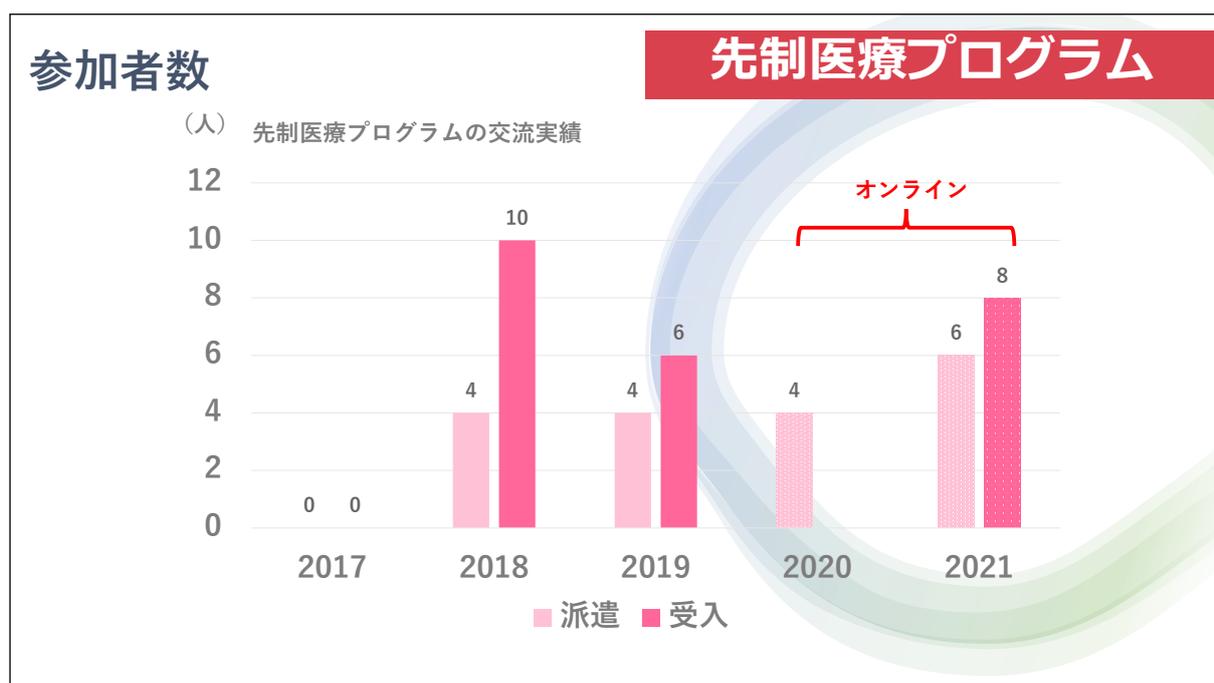
## 先制医療プログラム

**【カザン連邦大学・理化学研究所】国費留学（優先配置）の活用**

- 2018年、文科省国費留学生優先配置プログラム「ロシア・東アジア地域をつなぐ先制医療リーダー育成プログラム」採択。
- 2019年10月、カザン連邦大学よりRegina Gamirovaさん来日（革新ゲノム情報学：田嶋教授）
- Gamirova Rimma Gabdulbarovna博士（カザン連邦大学）、Gusev Oleg Alexandrovich 博士（カザン連邦大学・理化学研究所）と田嶋教授との間で共同研究スタート。

**医学系ジョイントシンポジウム（オンライン）**



## 4.金沢大学

### 人的ネットワークを維持・強化するための取組

#### 日露大学間コンソーシアム協定締結

The signing ceremony was held on July 16, 2019

Promotion of Research and education → Local government exchange via university exchange

#### 金沢大学ロシア同窓会発足

### 今後の取組:日露を軸とした交流ネットワークの強化

- ✓ Wrap-up Conference
- ✓ General meeting of Kanazawa University Russian Alumni Network
- ✓ Kick-off Symposium of Japan Russian Medical Research Education Center

## 4.金沢大学

**Thank you for your attention!  
&  
Let's keep in touch!**

Contact: Global Planning Section,  
International Planning Division,  
International Relations Department  
[g-planning@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:g-planning@adm.kanazawa-u.ac.jp)



17

5.長崎大学・福島県立医科大学



## 大学の世界展開力強化事業

# 「日露の大学間連携による 災害・被ばく医療科学分野における リーダー育成事業」

国立大学法人 長崎大学



公立大学法人 福島県立医科大学



1

## ダブルディグリープログラムによる人材育成



リスク管理学

救急医学

災害医学

原子力  
災害医療学

放射線  
防護学

放射線  
生物学

被ばく影響学

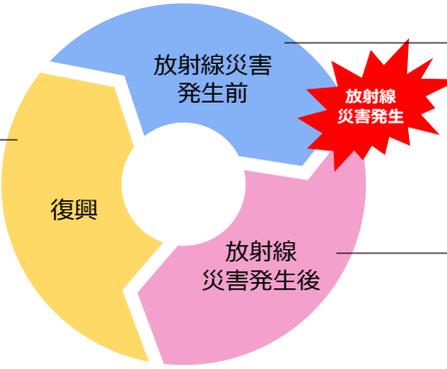
メンタル  
ヘルス学

新たな  
科学的・社会的・人文的知見の蓄積

蓄積した知見をもとに、  
ステークホルダー（住民、行政、企業、専門家等）が協同したガイドライン等の策定

**復興対応**

- ・ 除染～住民・自治体の帰還
- ・ 住民健康影響評価・健康管理
- ・ 健康増進
- ・ 廃炉作業
- ・ インフラの再建
- ・ コミュニティの再構築
- ・ 継続的リスクコミュニケーション
- ・ メンタルヘルス対策・健康増進



**危機管理対応準備**

- ・ 被ばく線量低減化対策
- ・ 避難経路策定
- ・ 食品管理、モニタリング
- ・ クライシス対応マニュアル作成
- ・ 平時のリスクコミュニケーション
- ・ 原子力災害医療体制の整備

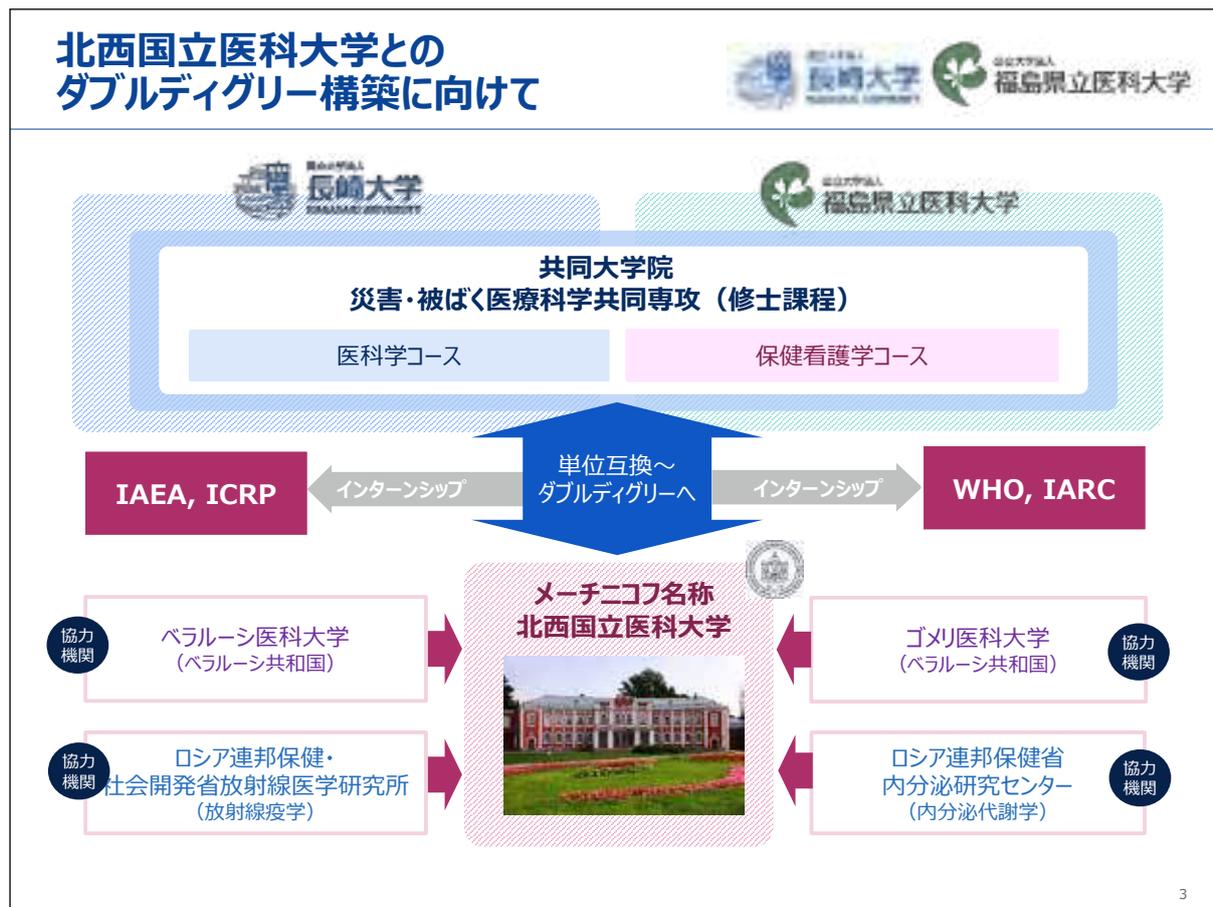
**危機管理対応**

- ・ 避難実施
- ・ 線量評価
- ・ 外部被ばく・内部被ばく低減化
- ・ 高度被ばく医療体制構築・実践
- ・ クライシスコミュニケーション

日露の大学によるダブルディグリープログラムを通じて、  
「災害サイクルに対応した知識と実践力を持つ」世界の専門家育成を推進する！

2

5.長崎大学・福島県立医科大学



3

### カリキュラムマップ

赤：各大学それぞれで開設する科目 青：長崎大学開設科目 緑：福島県立医科大学開設科目 ※（ ）内は単位数

課題研究 (6)	専門実習 (4以上)	専門科目 (10以上)			基礎科目 (14以上)		修了要件 34単位以上
		必修科目 (6)	選択必修科目 (4以上)	必修科目 (2)	選択必修科目 (7以上)	必修科目 (7)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究 (6)</li> <li>課題研究 (6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長崎大川内村実習 (2)</li> <li>長崎大原爆被爆者医療実習 (2)</li> <li>福島大放射線看護学実習 (2)</li> <li>福島大放射線医学実習 (2)</li> <li>福島大放射線災害医療実習 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミュレーション医療教育学 (2)</li> <li>災害地域ヘルスプロモーション学 (2)</li> <li>救急医学特論 (2)</li> <li>地域医療学 (2)</li> <li>国際保健学特論 (2)</li> <li>看護倫理 (2)</li> <li>コンサルテーション特論 (2)</li> <li>看護管理学特論 (2)</li> <li>看護教育学 (2)</li> <li>看護理論 (2)</li> <li>国際保健学特論 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療社会学特論 (2)</li> <li>国際プロジェクト管理学 (2)</li> <li>放射線ヘルスプロモーション看護学 (2)</li> <li>臨床放射線看護学 (2)</li> <li>国際被ばく公衆衛生看護学 (2)</li> <li>災害公衆衛生看護学 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会医学特論 (2)</li> <li>リスク管理学特論 (2)</li> <li>国際保健学特論 (2)</li> <li>災害このころの医学 (2)</li> <li>災害医学特論 (2)</li> <li>放射線看護学 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害医学概論 (1)</li> <li>災害看護学概論 (1)</li> <li>被ばく影響学Ⅰ (1)</li> <li>被ばく影響学Ⅱ (1)</li> <li>放射線防護学Ⅰ (1)</li> <li>放射線防護学Ⅱ (1)</li> <li>リスクアセスメント概論 (2)</li> <li>メンタルヘルス概論 (2)</li> <li>日本における被ばく医療科学の発展 (2)</li> <li>日本における被ばく医療科学の発展 (2)</li> <li>緊急被ばく医療概論Ⅰ (1)</li> <li>緊急被ばく医療概論Ⅱ (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究方法特論 (2)</li> <li>リスクコミュニケーション (2)</li> <li>基礎放射線医科学 (1)</li> <li>基礎放射線医科学 (1)</li> <li>救急医学概論 (1)</li> <li>放射線防護学Ⅰ (1)</li> </ul>	<p>医学系非履修者は、自由科目として医学概論 (2) を履修する。</p>
2 年次		1 年次					

## 5.長崎大学・福島県立医科大学

## 放射線防護学の単位互換（2018年度～）

- ジャック・ロシャル教授による講義を長崎大学、北西医科大学の学生が受講
- 2020年度、2021年度はオンラインによる講義を行っている



## 2019年度川内村実習



## 5.長崎大学・福島県立医科大学

## 2020年度川内村実習（オンラインのみ）



長崎大学、福島県立医科大学、北西医科大学に加え、世界の被ばく医療の専門家等がオンラインで参加し、参加総数は120名に達した。参加者から、その後長崎大学の博士課程、修士課程にあわせて2名が入学した。



遠藤雄幸村長によるオンライン講義



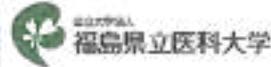
実習の最後に行われたディスカッション

7

2021年度川内村実習  
（オンラインとオンサイトの併用）

5.長崎大学・福島県立医科大学

## ダブルディグリープログラムの 共同実施に関する合意書（2021年7月）

AGREEMENT ON JOINT IMPLEMENTATION OF THE DOUBLE DEGREE PROGRAM	СОГЛАШЕНИЕ О СОВМЕСТНОЙ РЕАЛИЗАЦИИ ДВУХ ОБРАЗОВАТЕЛЬНЫХ ПРОГРАММ	ダブル・ディグリー・プ ログラムの共同実施に 関する合意書
<p>Federal state budgetary educational institution of higher education "North-Western State Medical University named after I. I. Mechnikov" under the Ministry of Health of the Russian Federation (hereinafter – NWSMU), represented by the Doctor Sergey Anatolevich Saigonev, acting on the basis of the Charter, on the one hand, National University Corporation "Nagasaki University" (hereinafter – NU), represented by Kaho Shigeru, acting on the basis of the Statute, and Public University Corporation "Fukushima Medical University" (hereinafter – FMU), represented by Takemotohita Seichi, acting on the basis of Code on Organization and Management, on the third party, and by joint reference referred to as the "Parties", in the framework of "Tripartite Agreement on Academic Cooperation among Nagasaki University, Fukushima Medical University and North-Western State Medical University named after I. I. Mechnikov" have entered into this Agreement on the following:</p> <p><b>1. The Subject of the Agreement</b> 1.1. Under this Agreement, the Parties shall undertake obligations to implement a Double Degree Program (hereinafter referred to as "DD Program"), DD Program</p>	<p>Федеральное государственное бюджетное образовательное учреждение высшего образования «Северо-Западный государственный медицинский университет им. И.И. Мечникова» Министерства здравоохранения Российской Федерации (далее – СЗМУ им. И.И. Мечникова) в лице ректора Сайгонова Сергея Анатольевича, действующего на основании Устава, с одной стороны, Национальный университет «Университет Нагасаки» (далее – УН), в лице Коно Сигэру, действующего на основании Устава, с другой стороны, и Государственный университет «Медицинский университет Фукусимы» (далее – ФМУ) в лице Такемото Хиты Сэйчи, действующего на основании Кодекса организации и управления, с третьей стороны, совместно именуемые «Стороны» в рамках «Трипартийного соглашения об академическом сотрудничестве между Университетом Нагасаки, Медицинским университетом Фукусимы и Северо-Западным государственным медицинским университетом имени И.И. Мечникова» заключили настоящее Соглашение о нижеследующем:</p> <p><b>1. ПРЕДМЕТ СОГЛАШЕНИЯ</b> 1.1. В соответствии с настоящим Соглашением Стороны принимают на себя обязательства по реализации двух образовательных программ (далее</p>	<p>大学規約に基づき学長を務めるセルゲイ・サイゴネフにより代表されるロシア連邦保健省管轄の連邦高等教育機関「メーチニコフ名義国立北西医療科学大学」（以下「SZMU」とする）、大学基本法に基づき学長を務める河野浩之上の代表される国立大学法人「長崎大学」（以下「長崎大学」とする）、組織及び運営規程に基づき理事長を務める河之上新一により代表される公立大学法人「福島県立医科大学」は、「長崎大学と福島県立医科大学及びメーチニコフ名義国立北西医療科学大学との間の三大学間学術交流協定書」の枠内で、以下に関する本合意書を締結した。</p>



9

## Fundamental Subjects




	Subject	Unv	Credits	NWSMU
<b>Required Subjects 7 credits</b>	Research Method Advanced Course	NU	2	
	Risk Communication	NU	1	
	Basic Radiation Sciences	NU/FMU	2	
	Radiation Protection I	NU	1	
	Introduction to Emergency Medicine	FMU	1	
<b>Required Elective Subjects 7 credits minimum</b>	Radiation Health Effects I		1	Securing radiation safety for population
	Radiation Health Effects II		1	
	Radiation Protection II	NU	1	
	Outline of Risk Assessment	NU	2	
	Introduction to Mental Health	NU	2	
	Introduction to Disaster Medicine	FMU	1	
	Epidemiology	FMU	2	Epidemiology
	Introduction to Disaster Nursing	FMU	1	
	Radiation Emergency Medicine I	FMU	1	
Radiation Emergency Medicine II	FMU	1		

10

## 5.長崎大学・福島県立医科大学

## Specialized subjects




	Subject	Unv	Credits	NWSMU
<b>Required Subject 2credits</b>	Advanced Social Medicine	NU	2	
<b>Required Elective Subjects 4 credits minimum</b>	Advanced Global Health	NU	2	Public health and its determinants
	Advanced Risk Management	NU	2	Health Risk Management
	Disaster Psychiatry	FMU	2	
	Advanced Disaster Medicine	FMU	2	
<b>Elective Subjects 4 credits minimum</b>	Advanced Health System and Policy	NU	2	Health care system and policy. Organization of medical care
	Project Management in Global Health	NU	2	Business planning and project management in health care
	Post-disaster Community-based Health Promotion	FMU	2	Health promotion and disease prevention
	Advanced Emergency Medicine I	FMU	1	
	Advanced Emergency Medicine II	FMU	1	
	Community-Oriented Primary Health Care	FMU	2	

11

## Training courses




	Subject	Unv	Credits	NWSMU
<b>Required Elective Subjects 4 credits minimum</b>	Advanced Risk Communication and Management Training	NU	2	
	Medical Training of Radiological Nursing	NU	2	
	Radiological Nursing Practice	NU	2	
	Emergency Medical Training	FMU	2	
	Radiation Disaster Medical Training	FMU	2	
<b>Required Subject 6credits</b>	Research Project (Dissertation)	NU	6	

12

## 5.長崎大学・福島県立医科大学

**今後の展望・課題**

- コロナ後を見据え、オンラインとオンサイトを組み合わせたダブルディグリープログラムの充実、継続を図る
- 「復興知」事業と連動して、福島県浜通りを災害・被ばく医療科学分野のグローバル人材育成の場とする
- 日本人学生に向けたプログラムの周知、入り口の確保、さらには英語力の強化を図る

## 6.東海大学

平成29年度「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」  
**ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成：**  
 -主に極東地域の経済発展を目的として-

2022年2月2日

東海大学 語学教育センター  
 所長・事業責任者  
 山本 佳男

 TOKAI UNIVERSITY Think Ahead, Act for Humanity

1

 TOKAI UNIVERSITY Think Ahead, Act for Humanity

Fostering Bridge Personnel between Russia and Japan on  
 Life Care for Economic Development in Russian Far East

【事業概要】

 **ロシア側連携大学**

 **東海大学**

**基礎** 海外研修（2～4週間/双方向）  
 中期・長期交換留学への動機付けとしての海外研修

**強化** 中期・長期交換留学（6/12カ月/双方向）  
 単位取得型留学、グローバルプログラム科目群の受講

健診人材実務者研修（2～6週間/双方向）  
 画像診断センター、健診センターでの研修

**ダブル・ディグリー・プログラム**

	2017		2018		2019		2020		2021		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
派遣・受入 (合計)	15	15	70	60	30	30	30	30	75	65	220	200
海外研修	13	13	60	50	15	15	15	15	60	50	163	143
中期・長期 交換留学	0	0	5	5	10	10	10	10	10	10	35	35
健診実務者研修	2	2	5	5	5	5	5	5	5	5	22	22

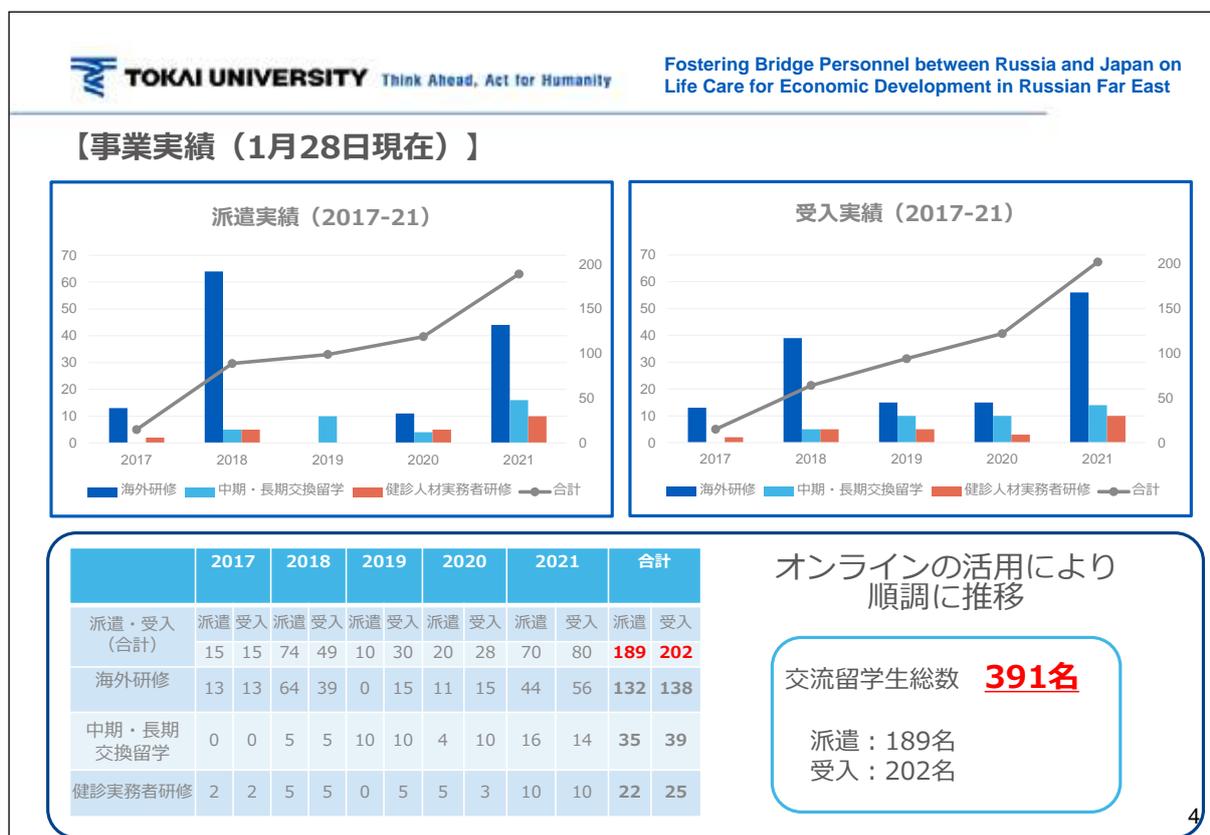
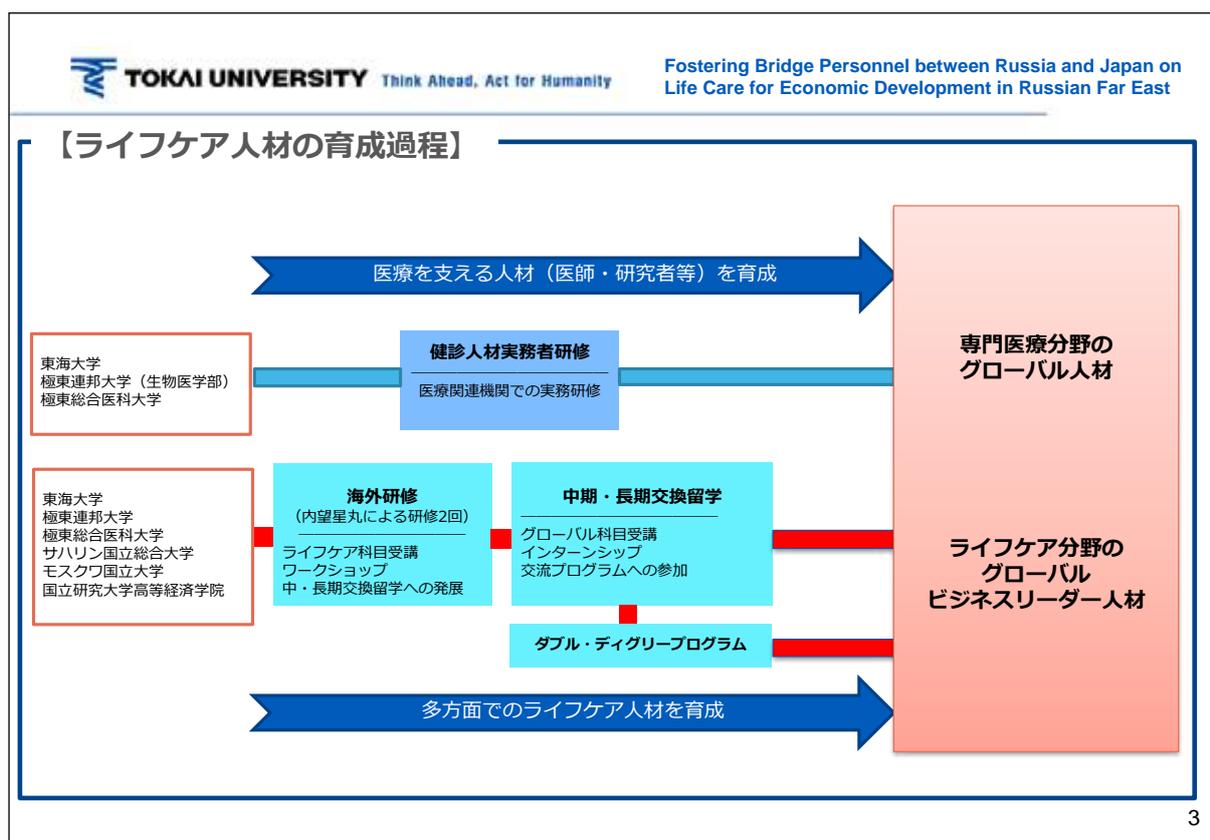
**日露間の人的交流の拡大に貢献**

交流留学生総数 **420名**

派遣：220名  
 受入：200名

2

## 6.東海大学



## 6.東海大学

**TOKAI UNIVERSITY** Think Ahead, Act for Humanity

Fostering Bridge Personnel between Russia and Japan on Life Care for Economic Development in Russian Far East

**【主な実績：ウラジオストク航海2018】**

**航海概要**

日 程：2018年8月7日～19日  
 派 遣：64名（他大学の学生を含む）  
 受 入：39名  
 合 計：103名  
 寄港地：留萌-ウラジオストク-清水（右図参照）

**航海概要**



ウラジオストク 留萌 清水

**船内研修内容**

- ① 学生フォーラム  
「日露両国のライフケア：未来への提言」
- ② 教員によるライフケア分野・日露関係の講義
- ③ 交流プログラム他

**地上研修内容**

- ① ウラジオストク研修(極東連邦大学と連携)
- ② 戸田（日露交流の原点、ディアナ号）
- ③ 伊勢原研修（本学医学部付属病院研修）






5

**TOKAI UNIVERSITY** Think Ahead, Act for Humanity

Fostering Bridge Personnel between Russia and Japan on Life Care for Economic Development in Russian Far East

**【主な実績：スタートアップ・中間報告シンポジウムの開催】**

**スタートアップシンポジウム**

日時：2018年2月14日  
 会場：東海大学校友会館  
 日露両国の政府関係者や、ライフケア関連の専門家、企業担当者、本事業参加学生など120名を超える参加者があり、本学の取り組みや本事業について広く発信し、産学の垣根を越えた意見交換、協力体制の構築が図られた。

**中間報告シンポジウム**

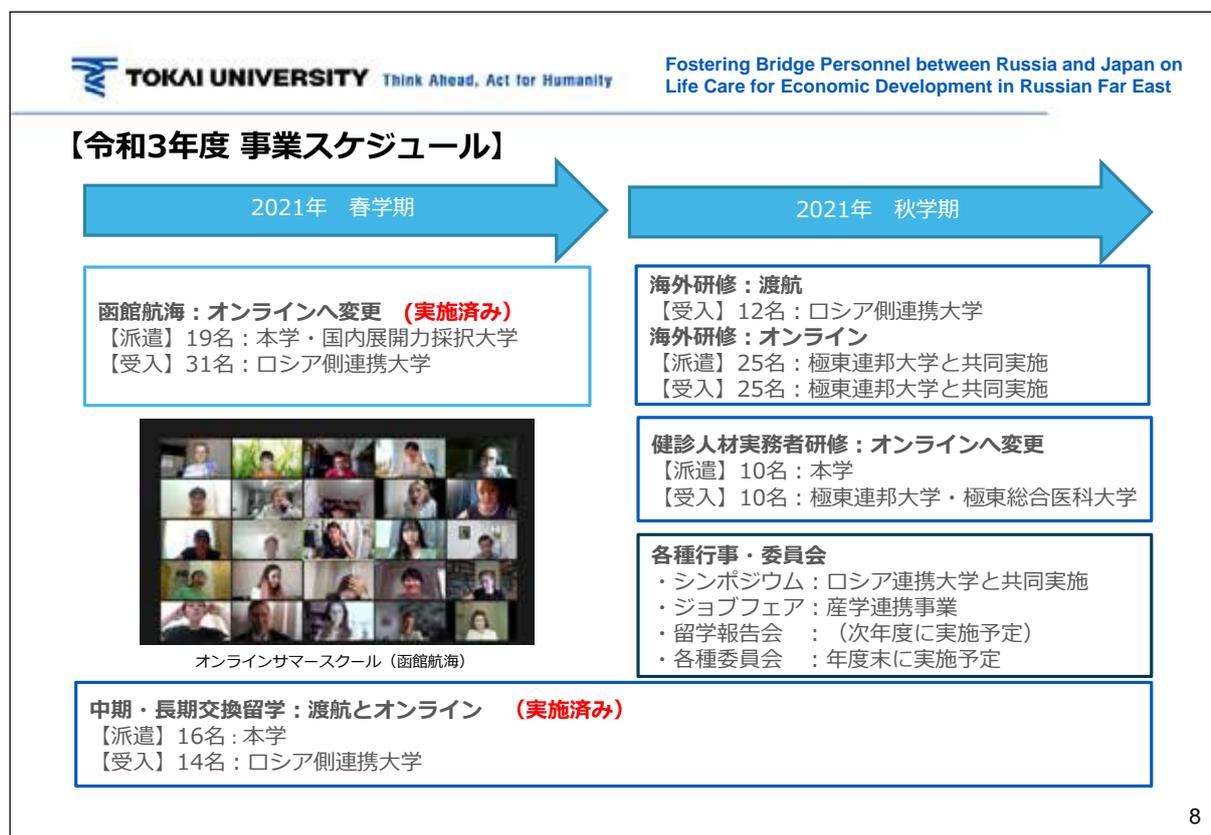
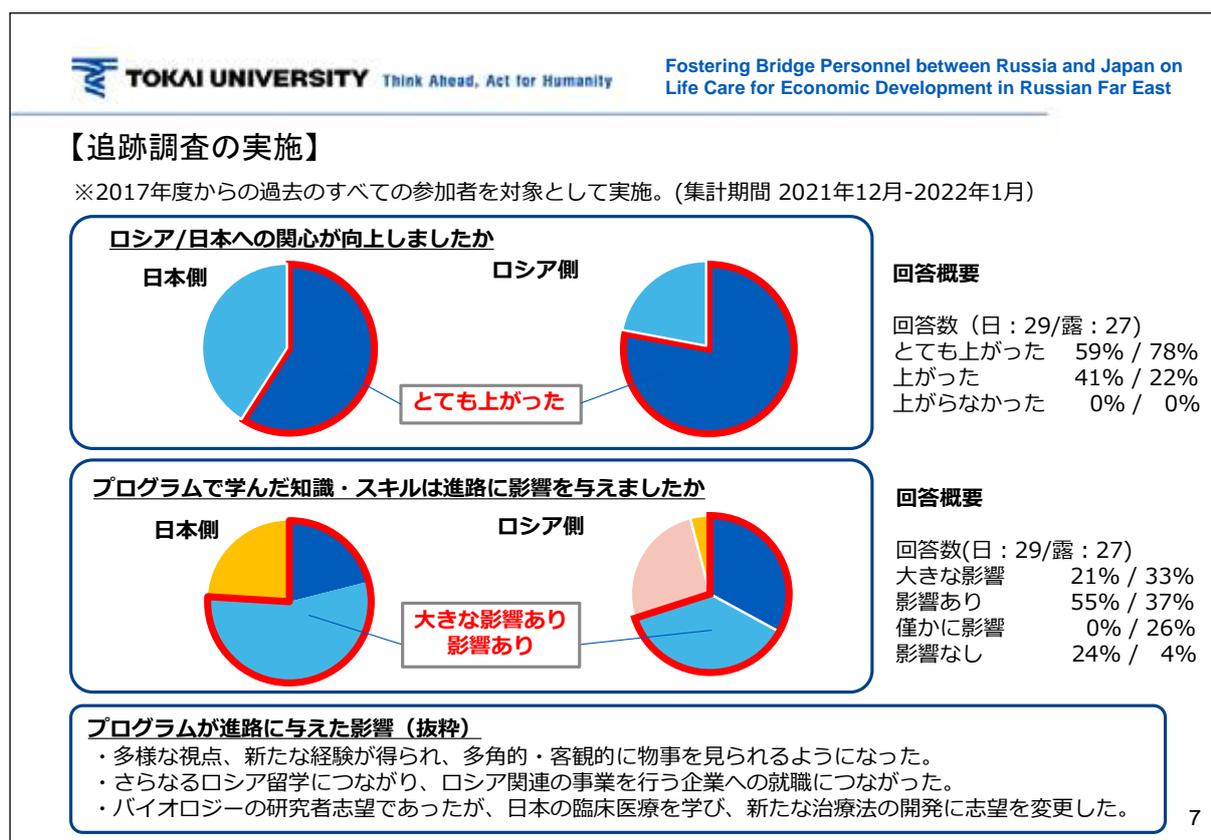
日時：2020年2月18日  
 会場：東海大学校友会館  
 ライフケア関連の専門家、企業担当者、本事業参加学生など100名を超える参加者があり、本学の取り組みや本事業の成果について広く発信し、産官学の垣根を越えた意見交換、地域連携・協力体制強化が図られた。

**総括シンポジウム（2022年3月実施予定）**




6

## 6.東海大学



## 6. 東海大学

The screenshot shows the Tokai University website header with the logo and tagline "TOKAI UNIVERSITY Think Ahead, Act for Humanity". To the right, the project title is displayed: "Fostering Bridge Personnel between Russia and Japan on Life Care for Economic Development in Russian Far East". The main content area features a collage of images including a bronze statue, a classroom, and a poster for "UBC UBC 1915". A blue text box in the center contains the Japanese text: "世界はQOLを求めている。東海大学は考える。" (The world is seeking QOL. Tokai University is thinking.). Below the collage, the Tokai University logo is followed by the text "東海大学「大学の世界展開力強化事業」特設サイト" and the URL "www.russia.u-tokai.ac.jp". A small copyright notice "Copyright © 2011 Tokai University. All Rights Reserved." is visible at the bottom right of the image collage.

TOKAI UNIVERSITY Think Ahead, Act for Humanity

Fostering Bridge Personnel between Russia and Japan on Life Care for Economic Development in Russian Far East

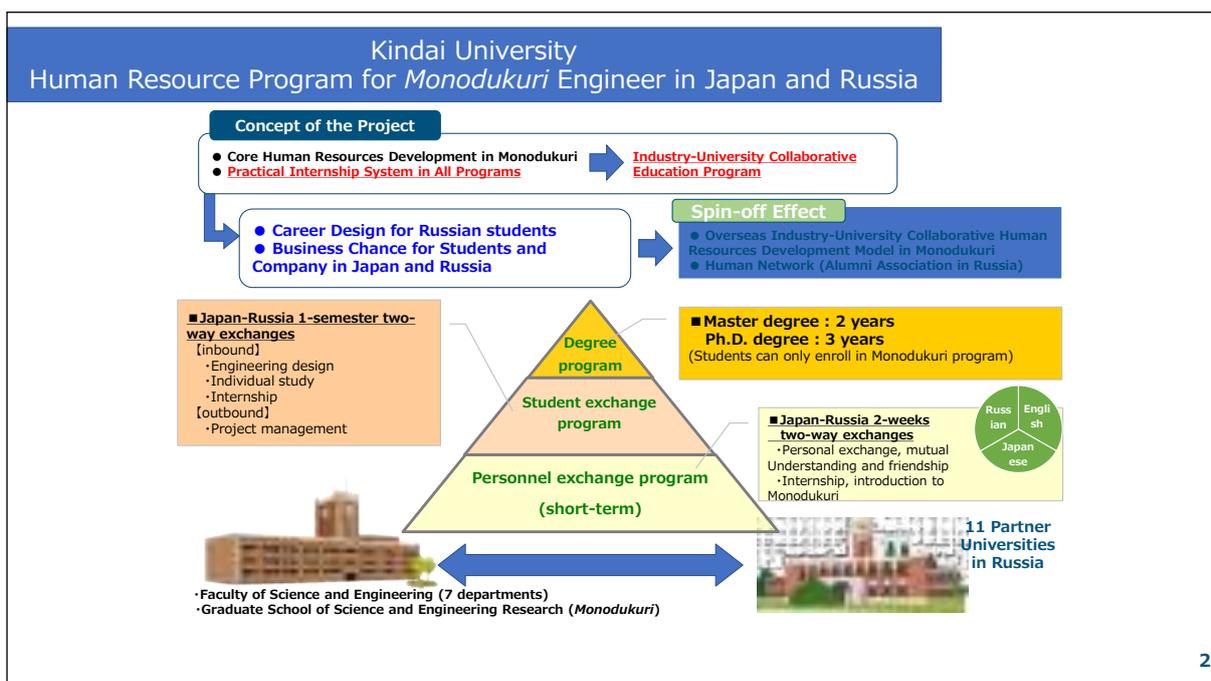
世界はQOLを求めている。  
東海大学は考える。

Copyright © 2011 Tokai University. All Rights Reserved.

TOKAI 東海大学「大学の世界展開力強化事業」特設サイト

[www.russia.u-tokai.ac.jp](http://www.russia.u-tokai.ac.jp)

7.近畿大学



## 7.近畿大学

## 短期人材交流プログラム

Personnel exchange program  
(Short-term)

- Personal exchange, mutual Understanding and friendship  
Internship, introduction to Monodukuri
- Establishing the Science and Engineering Global Study  
Group, and its activities



## 交換留学プログラム

Student exchange program

**Internship at Companies with Spirits of Innovation and Craftsmanship  
(One month)**

On-the-job training at the R&D facilities of companies based in Higashiosaka  
Students are temporarily assigned to research facilities owned by companies based in Higashiosaka. These companies, which are all renowned for their technological expertise, provide students with valuable on-the-job training.



## 7.近畿大学

## 学位プログラム Degree program

**Graduate School of Science and Engineering Research  
- Major of Innovative Engineering**

While engaging in highly specialized graduate studies, students in this course are temporarily assigned to research facilities owned by companies based in Higashiosaka. These companies, which are all renowned for their technological expertise, provide students with valuable on-the-job training.




## 交流学生数 Results of student mobility

**The number of outbound (to Russia) /inbound (to Japan) students**

		2017	2018	2019	2020	2021 (in progress)	Total
<b>Out bound</b>	<b>Total</b>	<b>14</b>	<b>25</b>	<b>26</b>	<b>26</b>	<b>7</b>	<b>98</b>
	1 semester exchange	0	4	5	0	3	12
<b>Inbound</b>	<b>Total</b>	<b>10</b>	<b>32</b>	<b>25</b>	<b>27</b>	<b>10</b>	<b>104</b>
	1 semester exchange/degree	0	8	10	4	6	28

Don State Technical University, Skolkovo Institute of Science and Technology, Kazan Federal University joined the project

COVID-19

First students enrolled in "Monodukuri" Master's program.

**Partner universities in Russia for Monodukuri Program**

Name of University	
1	Lomonosov Moscow State University
2	Financial University
3	National Research Nuclear University (MEPhI)
4	Saint Petersburg State University
5	ITMO University
6	Dubna University
7	University of Tyumen
8	Far Eastern Federal University
9	Kazan Federal University
10	Don State Technical University
11	Skolkovo Institute of Science and Technology

## 7. 近畿大学

進路実績 Career after graduation		
<b>Japanese students (participants in exchange program)</b>		
Category	Number	Name of institution or company
進学 Go on to graduate school	6	近畿大学大学院、東京工業大学大学院、大阪大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学
就職 Employment	2	高松市役所、国際交流サービス協会（在トルコ日本国大使館派遣）
(在学中：4名)		
<b>Russian students (participants in exchange program &amp; short-term program)</b>		
Category	Number	Name of institution or company
進学 Go on to graduate school	14	Kindai University, Kobe University, Saint Petersburg State University, Dubna State University, Imperial College London (UK), Maynooth University (Ireland), Technion Israel Institute of Technology (Israel)
就職 Employment	8	Reliability Engineer (oil and gas industry), Evrone, EPAM Systems, Bilfinger, Joint Institute for Nuclear Research, Ural Branch of the Russian Academy of Sciences

グローバル人材育成の場としての ロシア留学 Russia as a study destination for development of global human resources	
<b>Outbound: Host universities and major (exchange program)</b>	
Host university	Major (number of students)
ITMO University	Informatics(3), Applied Chemistry(2) Life Science(1), Mechanical Engineering(1)
MEPhI University	Life Science(1), Civil and Environmental Engineering(1)
Dubna State University	Mechanical Engineering(1)
Kazan Federal University	Chemistry(1)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統と強みを活かした理工系教育を受けられる</li> <li>・ 英語でも学ぶことができる（欧米留学より低いハードル）</li> <li>・ ハードな学習・生活を経験できる</li> </ul>	
<b>Students' voices</b>	
<p>ロシアで生活し実際に文化の違いや価値観の違いに触れることで、ロシアの歴史や宗教について勉強するようになりました。 (MEPhI/生命科学)</p>	
<p>（留学先大学は）核物理学に特化していて全ての科目が核・原子力などに関連づけられていた。大学としてのレベルはロシア内ではトップクラス。正規の学生向けの授業・課題量はとても多く、過酷。 (MEPhI/社会環境工学)</p>	
<p>英語を話すことが恥ずかしいと感じる人でも英語圏でなく、みんな第二外国語として英語を話すのであまり恥ずかしく感じないと思います。英語のスコアもそれほど高くなくても留学することができます。 (ITMO/情報)</p>	
<p>他の生徒の堂々と発表している姿をみてとても刺激を受けました。これからの卒論や私は進学も考えているので進学でもプレゼン力は試されるため、有意義な経験になったと思います。 (MEPhI/生命科学)</p>	
<p>宿題が山のように出されます。頭がパンクしそうです（ドゥブナ/機械工学）</p>	
<p>授業にディスカッションがあつたりするので、それにも苦労しています（ITMO/情報）</p>	

## 7. 近畿大学

### 日本におけるロシア高度人材の活躍に向けて

Russian students as possible highly skilled workers in Japanese industry

#### Inbound: Home university and number of students

Name of University	Exchange program	Short-term program
Lomonosov Moscow State University	2	6
National Research Nuclear University (MEPhI)	3	3
Saint Petersburg State University	1	4
ITMO University	0	3
Dubna University	4	6
University of Tyumen	1	3
Far Eastern Federal University	5	5
Kazan Federal University	0	2
Don State Technical University	2	3
Skolkovo Institute of Science and Technology	0	1

- 日本のモノづくり技術・企業文化を実体験を通じて学べる (learning "monodukuri" culture in practice)
- 専門分野での英語（日本語）コミュニケーション能力の向上 (communication skills in English and Japanese)
- 「研究室」での経験 (academic skills in laboratory)

#### Students' voices

It was also helpful during the job hunting process, since participating in exchange programs helps to show that you can freely communicate with international customers or colleagues. (DSTU)

Program has give me overview of a Monozukuri and Japan culture, . It has pushed me to learn deeper methods of work and Japan practices, I implement it during my work, for example principles of Kaizen. (FEFU/Reliability Engineer)

Before, I was mainly paying attention to western universities, but now I seriously consider continuing my education and some part of my career in Japan. (Tyumen/ Graduate Student)

It helped me to vastly improve my communication skills as well as give me decent knowledge in my major. (Dubna/ Graduate Student)

### 日本におけるロシア高度人材の活躍に向けて

Russian students as possible highly skilled workers in Japanese industry

#### Result of program activities (cooperation with companies)

- 1セメスター交換留学でのインターンシップ受入れ企業： 10社
- 大学院東大モノづくり専攻留学生の受入れ企業： 3社



在学时

学生（学位、学修）  
企業（国際化、開発）  
大学（研究）

「三方良し」の活動が可能

➔

就活時

ミスマッチの可能性

**理工系学生**

- 専門分野直結の仕事をしたい
- 日本語はあまりできない、英語で仕事をしたい
- 日本の就活方法をよく知らない
- 特に日本にこだわらない

**企業**

- ジェネラリストまたは現場要員を求む
- 日本語は必要
- 日本の企業文化に馴染んで欲しい

※上記意見はあくまで一般的な傾向であり、本プログラム関係学生・企業の意見を代表するものではありません。

## 7.近畿大学

## Contacts

近畿大学グローバルエデュケーションセンター  
Kindai University Global Education Center

Address: 3-4-1 Kowakae Higashiosaka Osaka 577-8502 Japan

FAX: +81-6-6729-2387

e-mail: [isc@itp.kindai.ac.jp](mailto:isc@itp.kindai.ac.jp)

URL: <https://www.kindai.ac.jp/>

TEL: +81-6-4307-3081

## 8.北海道大学



平成29年度「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」プラットフォーム構築プログラム（タイプB）

## HaRP 事業の総括と補助事業終了後の運営について

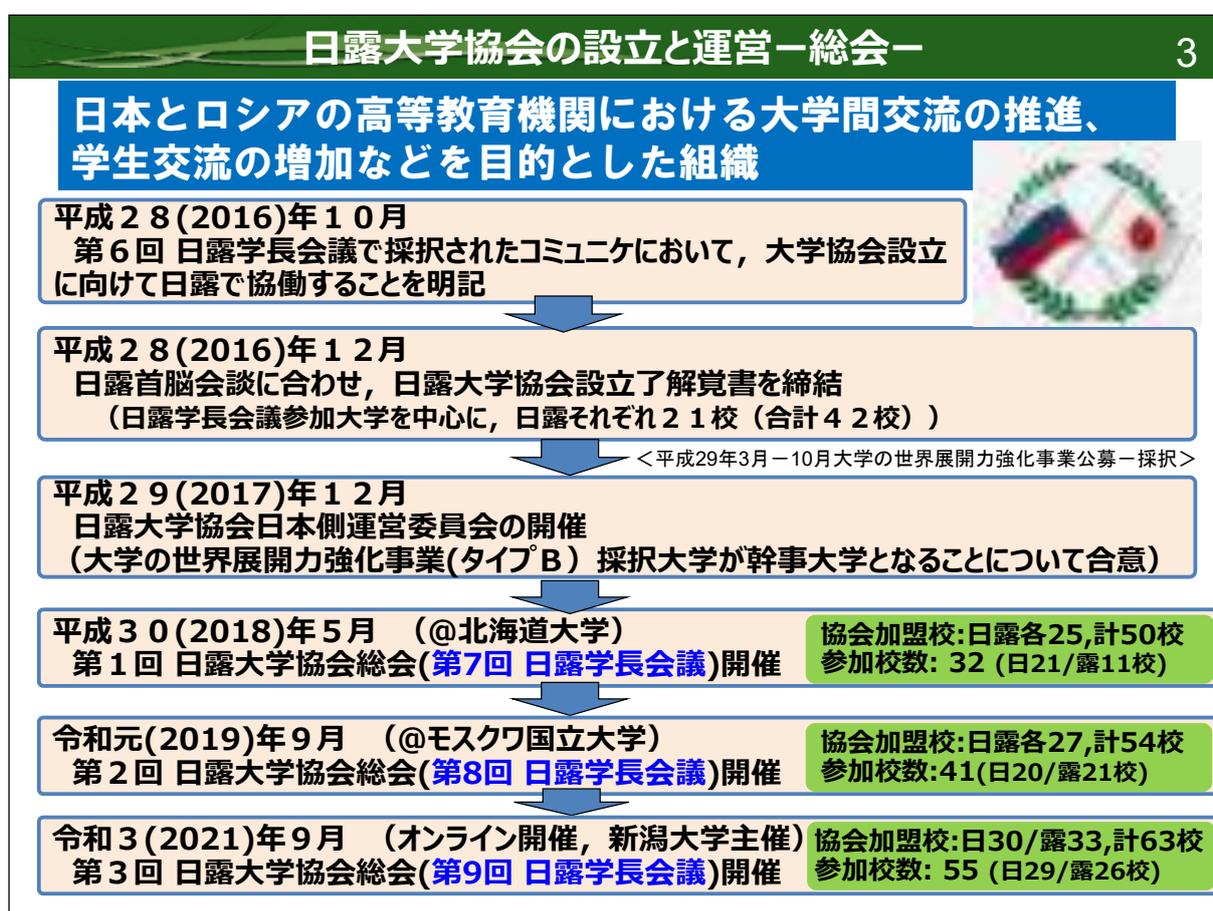
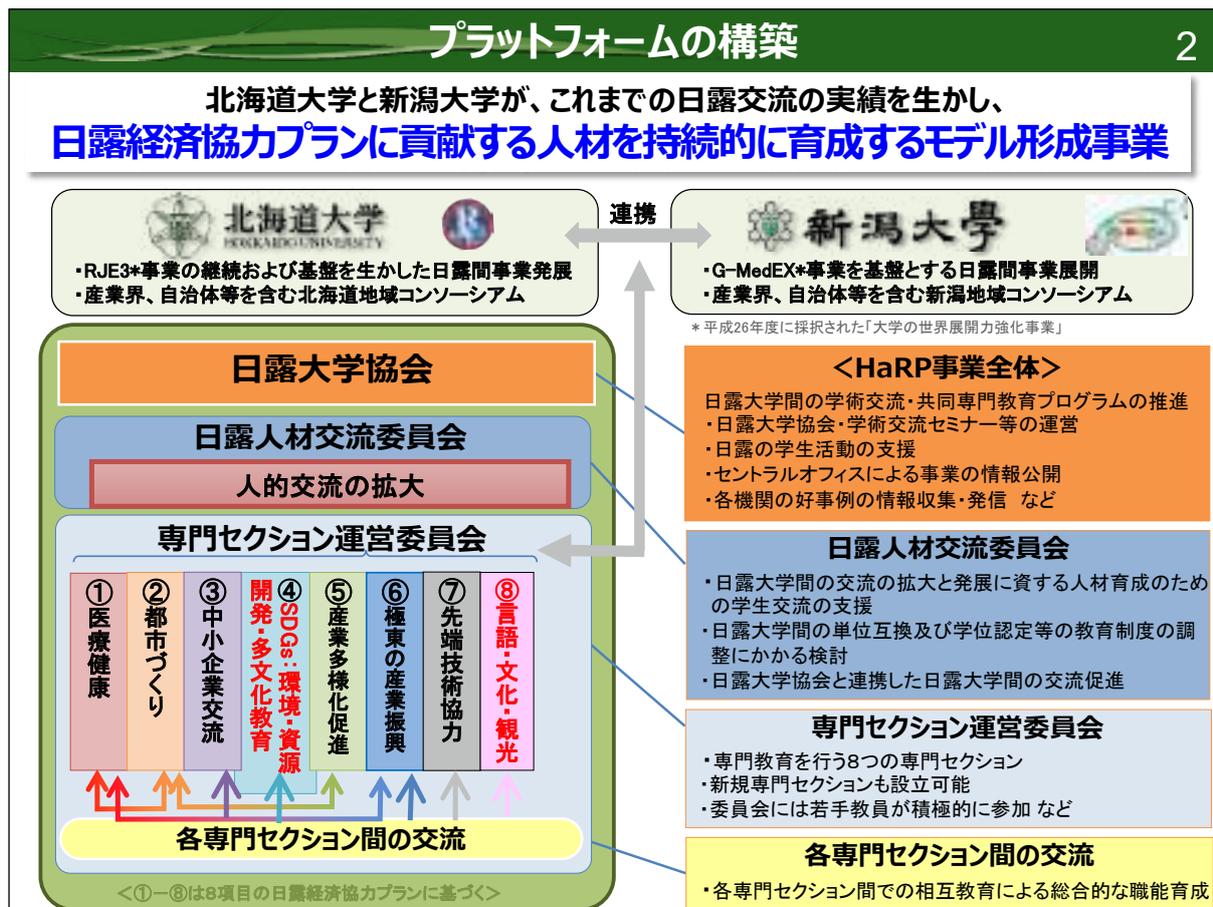
北海道大学  
国際連携機構 副機構長・教授  
川野辺 創

## HaRP事業の成果

1

1. 日露大学間交流の促進に資するプラットフォームの構築と日露大学協会加盟校の量的拡大
2. 日露間の人的交流の拡大と質の保証を伴う共同教育プログラム発展に向けての議論の進展
3. 日露の学生間、教員間の学術交流、情報交換の活発化
4. 専門人材育成における産官学連携の進展

8.北海道大学



## 8.北海道大学

## HaRP事業の成果

4

1. 日露大学間交流の促進に資するプラットフォームの構築と大学協会加盟校の量的拡大
2. 日露間の人的交流の拡大と質の保証を伴う共同教育プログラムの発展に向けての議論の進展
3. 日露の学生間、教員間の学術交流、情報交換の活発化
4. 専門人材育成における産官学連携の進展

## 人材交流委員会の活動

5

**目的**：日露大学間の単位互換及び学位認定等の教育制度の調整にかかる検討など

**活動内容**：日露間の学生交流にかかる「優れた取り組み」の共有と発信，  
大学間の単位認定及び学位授与制度の比較検討，など

**構成員**：日本国内の8大学8名の幹事委員と12大学12名の委員

※ロシア側大学は構成員ではないが，※の回ではロシア側大学の関係者を招待

開催実績	日時	内容
第1回※	2019年2月28日	理想的かつ現実的な単位互換制度の具体案をガイドライン]を作成することを目標と設定
第2回	2019年6月12日	単位互換の状況についてアンケート実施
第3回※	2019年9月24日	モスクワ国立大学，アルタイ国立大学から，ロシアの大学における教育制度について発表
第4回※	2020年1月30日	教育の質を保ちながら単位互換を行うための検討
第5回	2020年11月6日	ガイドラインの目次案の検討およびロシアにおける国際共同教育制度の調査を実施
第6回	2021年1月20日	ガイドラインの検討
第7回	2021年6月30日	ガイドラインの検討
第8回※	2021年9月7日	ロシア側大学へのガイドラインに関する意見照会



2022年3月に「日露大学間における共同教育プログラム構築のためのガイドブック」完成予定

## 8.北海道大学

## HaRP事業の成果

6

1. 日露大学間交流の促進に資するプラットフォームの構築と大学協会加盟校の量的拡大
2. 日露間の人的交流の拡大と質の保証を伴う共同教育プログラムの発展に向けての議論の進展
3. 日露の学生間、教員間の学術交流、情報交換の活発化
4. 専門人材育成における産官学連携の進展

## 学生間、教員間の学術交流、情報交換の活発化

7

● 総会開催時に日露学生フォーラムを実施し学生交流の発展に貢献（参加学生数の増加：第1回 34名 第2回 57名 第3回 100名）

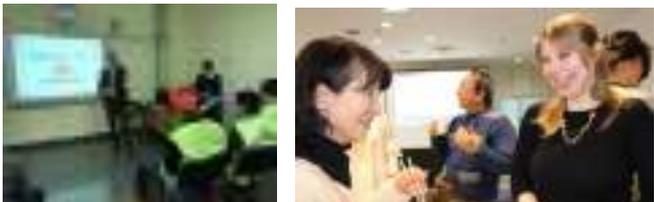
● 総会開催時の学術フォーラムに加え、継続的な学術交流行事を実施し、日露学術交流を推進



開催日時	学術交流の事例（第2回総会（2019年9月）以降）	参加者数	主催機関
2020年 9月25日	円卓会議「日露の大学・企業・地方自治体間のパートナーシップ」	130人	アルタイ国立大学、北海道大学
2020年 12月11日	Global ecosystem and environmental changes in the Arctic	30人	モスクワ国立大学
2021年 5月20日	円卓会議「ロシア語通訳・翻訳家養成及び語学教育における日露連携」	80人	サンクトペテルブルク国立大学、北海道大学
2021年 6月21日	医療学術フォーラム	50人	モスクワ国立大学、新潟大学
2021年 9月14日 -15日	日露大学協会総会 学術フォーラム - 医学教育 - SDGs（持続可能な地域開発・国際協力・北極圏の環境保護／先住民族の言語と文化／子どもの健康と成長／生態系モニタリング）	250人以上	モスクワ国立大学、新潟大学、北海道大学

## 8.北海道大学

専門セッション参画者・大学数			8
専門セッション	参画者数	専門セッション参画大学 【計：27大学】	
①医療健康	8	新潟大学（リーダー校）、筑波大学、金沢大学、長崎大学、東海大学、福島県立医科大学、鳥取大学、北海道大学【8大学】	
②都市づくり	8	北海道大学（リーダー校）、東京大学、新潟大学、長岡科学技術大学、札幌市立大学【5大学】	
③中小企業交流	4	北海道大学（リーダー校）、金沢大学、創価大学、大阪大学【4大学】	
④SDGs：環境・資源開発・多文化教育	17	北海道大学（リーダー校）、東北大学、金沢大学、東海大学、神戸市外国語大学、室蘭工業大学【6大学】	
⑤産業多様化促進	7	北海道大学（リーダー校）、小樽商科大学、札幌大谷大学【3大学】	
⑥極東の産業振興	11	新潟大学（リーダー校）、北海道大学、千葉大学、金沢大学、小樽商科大学、大阪大学、東京農業大学【7大学】	
⑦先端技術協力	10	金沢大学（リーダー校）、北海道大学、東京工業大学、東海大学、近畿大学、室蘭工業大学、大阪大学【7大学】	
⑧言語・文化・観光	21	北海道大学（リーダー校）、東北大学、東京外国語大学、新潟大学、大阪大学、神戸市外国語大学、東海大学、上智大学、創価大学、神戸学院大学、小樽商科大学、札幌市立大学、札幌大学、はこだて未来大学【14大学】	

専門セッションの活動・情報発信活動		9
<p style="text-align: center;"><b>各大学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門教育</li> <li>・企業インターンシップ</li> <li>・セミナー・シンポジウム の実施</li> </ul>		
<p style="text-align: center;"><b>H&amp;RP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数セッションによる分野融合的なイベントの実施</li> <li>・各大学の人材育成活動への支援【8件】</li> <li>・各大学・機関による活動の情報発信</li> </ul>	 <p>(2020年9月 北東連邦大学との共催によるオンライン寒冷地セミナー)</p>	
<p><b>産官学連携実務者会議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回：2019年2月28日（東京, 98名参加）</li> <li>● 第2回：2020年1月31日（東京, 163名参加）</li> <li>● 第3回：2021年1月27日（オンライン, 185名参加）</li> </ul>	<p><b>ウェブサイトによる情報発信</b></p>  <p>2021年度 (1月時点) :</p> <p>イベント案内 約40件</p> <p>イベント報告 約20件</p>	
		

8.北海道大学

## HaRP事業補助事業期間（2017-2021年度）後の機能 10

**プラットフォーム運営**

北海道大学にて事務局機能を維持  
+日本留学海外拠点連携推進事業・北海道大学モスクワオフィスの活用

**日露大学協会総会・  
学長会議・  
学生フォーラム**

・北海道大学にて協会日本側幹事校の役割を維持  
・総会・学生フォーラムの運営  
(モスクワ大との調整を含む)

<今後の計画>

- ・次回総会(2023年秋?)の調整
- ・日本開催時のホスト校の調整
- ・日本開催時の開催経費実費負担につき、加盟校にご協力を依頼

**8項目の日露協カプランに資する人材育成活動**

■専門セクション  
(①~⑧)

HaRPウェブサイト等における情報発信を継続  
:各機関の取組や関連官公庁・自治体・企業等主催のイベント等

■人材交流委員会・  
学生連盟  
(⑨人的交流)

専門セクションに参画している各大学教員による持続的な専門人材育成活動

- ① 医療健康 (新潟大学 他)
- ② 都市づくり (北海道大学 他)
- ③ 中小企業交流 (北海道大学 他)
- ④ SDGs:環境・資源開発・多文化教育 (北海道大学 他)
- ⑤ 産業多様化促進 (北海道大学 他)
- ⑥ 極東の産業振興 (新潟大学 他)
- ⑦ 先端技術協力 (金沢大学 他)
- ⑧ 言語・文化・観光 (北海道大学 他)

<今後の計画>

- ・事務局にて情報発信すべき情報を収集
- ・関係機関に活動実績や関連情報の提供を依頼 (年数回)
- ・ウェブサイトの他、総会などの機会を活用して情報共有

各大学の世界展開力後継事業の取組

日露学生連盟組織維持への支援

## 11



### ご清聴、ありがとうございました





2021年9月 第3回 日露大学協会総会におけるコミュニケの採択  
(左上より: 寶金北海道大学総長, サドーヴニチモスクワ国立大学学長, 牛木新潟大学学長)



北海道大学札幌キャンパスの四季



日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム

Human Resource Development Platform for Japan-Russia Economic Cooperation and Personnel Exchange

---

<https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/>

